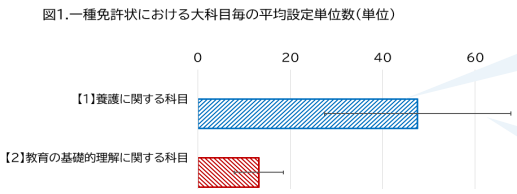
大区分	中区分	分析項目	算出指標	分析内容	ページ
A.養成課程における科目開設状況の実態	開設状況	A-1 平均単位数と充足率	開設科目の単位数 最低修得単位数に対する充足率	免許種別ごとに集計し、大科目は分布(中央値・四分位範囲)を、中科目は平均値を算出	P.2
		A-2 授業形態	授業形態別の開講科目数 構成比	講義・演習・実習等の形態ごとに分類し、1大学当たりの平均開講科目数及び割合を算出	P.18
	教員の専門性	A-3 教員の専門領域	担当教員の専門領域別科目数 構成比	担当教員の専門性(看護・教育・心理等)ごとに分類し、1大学当たりの平均担当科目数及び割合を算出	P.35
		A-4 教員の保有資格	担当教員の保有資格別科目数 構成比	担当教員の資格(教諭・公認心理師等)ごとに分類し、1大学当たりの平均担当科目数及び割合を算出	P.52
B.養成課程における心理・福祉分野の教育実態	心理・福祉分野の内容の取扱い	B-1 心理・福祉分野の内容の取扱い有無	実施大学の割合 (開講率)	心理・福祉分野の内容ごとに集計し、当該内容を取扱う養成大学の割合を算出	P.70
		B-2 心理・福祉分野の内容の取扱い科目数	平均取扱科目数	心理・福祉分野の内容を取扱う科目の総数を集計し、1大学当たりの平均開講科目数を算出	P.73
		B-3 心理・福祉分野の内容の取扱い科目の内訳	開設科目の内訳 (構成比)	心理・福祉分野の内容を取扱う科目が属する大科目区分ごとに分類し、その構成比率を算出	P.75
	教員の専門性	B-4 心理・福祉分野の内容の教員の専門領域	担当教員の 専門領域	担当教員の専門領域(看護・教育・心理等)ごとに分類し、1大学当たりの平均担当科目数を算出	P.79
		B-5 心理・福祉分野の内容の教員の保有資格	担当教員の 保有資格	担当教員の保有資格(教諭・公認心理師等)ごとに分類し、1大学当たりの平均担当科目数を算出	P.86

A-1.平均単位数と充足率(大科目)

目的	養護教諭養成課程における大科目の開設科目単位数について、その配分構造(量的側面)及び最低修得単位数に対する充足状況を検証する。
方法	免許種別(全体／一種／二種／専修)ごとに、大科目別の開設科目の単位数を集計し、構成比を算出した。また、最低修得単位数に対する充足率(開設科目単位数÷最低修得単位数)の分布(中央値・四分位範囲)を算出した。
結果	**(1) 科目配分の構造と免許種別による差異** 開設科目総単位数の約7割が「養護に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」に集中しており、この二つの大科目がカリキュラムの大半を占めている。一種・二種免許状では「養護に関する科目」の割合が高く、専修免許状では「大学が独自に設定する科目」の割合が高かった。 **(2) 最低修得単位数に対する上乗せの実態(一種免許状)** 一種免許状においては、「養護に関する科目」等の主要領域において、最低修得単位数を上回る単位数が設定されていた。具体的には、「養護に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」において、最低修得単位数に対する充足率は140%～170%(4～13単位の上乗せ)に達している。 **(3) 教育実践に関する科目の設定状況** 一方、「教育実践に関する科目」については、多くの大学で最低修得単位数と同水準に設定されていた。当該科目の充足率の中央値は100%であり、最低修得単位数通りに設定している大学が大半を占め、単位数の上乗せはほとんど行われていない状況であった。
示唆	**(1)「養護に関する科目」の量的規模と活用可能性** 「養護に関する科目」等の主要領域においては、最低修得単位数を上回る単位数が設定されており、教育課程全体の中で最も単位数が多い。つまり、心理・福祉の知見を含む多様な教育内容を展開するための「物理的な履修枠(授業時間数)」があることを意味する。したがって、新たな科目を増設する手法に限らず、単位数に厚みのある既存の科目区分内において、心理・福祉に関する教授内容を組み込むことで、当該領域の学習機会を創出することも考えられる。 **(2)「教育実践に関する科目」における導入の制約と対応** 「教育実践に関する科目」への導入にあたっては、多くの大学で最低修得単位数と同数で設定されており、単位数の上乗せ(量的拡大)が困難な状況にあることが示唆される。当該領域はカリキュラム上の拡張余地が乏しいため、新たな実習時間を確保することは現実的ではないと考えられる。したがって、既存の教育実習や教職実践演習の枠組みの中で、心理・福祉的な視点を取扱うなど、運用面での工夫による導入を検討する必要がある。 **(3)「大学が独自に設定する科目」の多様性と位置づけ** 「大学が独自に設定する科目」は、設定されている単位数の大学間のばらつきが大きく、各大学の特色が反映されている領域である。そのため、全国一律の手法で導入するよりも、各大学のリソースや特色に応じて、心理・福祉分野に関する発展的な学習プログラムを展開するための領域として活用していくことが考えられる。

グラフ(棒グラフ・箱ひげ図)の見方

A-1.平均単位数と充足率(大科目)で示している棒グラフや箱ひげ図の見方は以下の通り。

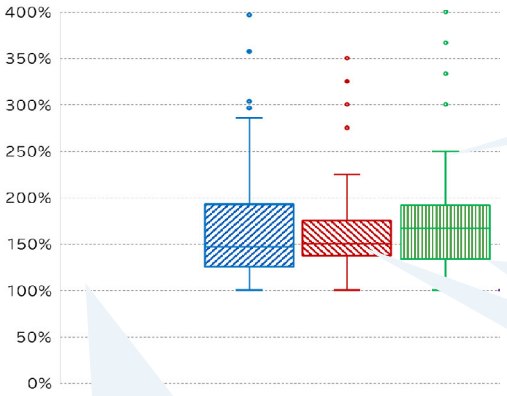


棒の高さ(平均値)

各大学がその科目に設定している単位数の「平均値」を表す。
・棒が長い＝カリキュラムの中で多くの単位が配当されている(割り当てられている)科目であり、教育課程における学習の比重(ボリューム)が大きいことを意味する。

棒上の線(標準偏差)

平均的な単位数から、個々の大学がどれくらい離れているか(ばらつきの大きさ)を表している。
・線が短い＝多くの大学が平均値に近い単位数を設定している。
・線が長い＝大学によって単位数の設定に大きな差がある。



上下の線(ひげ)

統計的に判定された極端な値(外れ値:ひげの外側に点で表示されているデータであり、箱の長さの1.5倍以上離れている)を除外した、通常の範囲内での最大値と最小値である。

箱(Q1・Q3とIQR)

全大学の「真ん中50%(ボリュームゾーン)」が、この箱の範囲に含まれる。箱の下端がQ1(下から25%の境界値)、上端がQ3(下から75%の境界値)である。この箱の長さであるIQR(四分位範囲)は、大多数の大学の足並みの揃い具合を表す。
・IQRが小さい(箱が短い)= 中央値の50%に位置する大学において単位数のばらつきが少なく、標準的な単位数が一定の範囲に収まっている状態。
・IQRが大きい(箱が長い)=養成大学の間のばらつきが大きい状態。

箱の中の太線(中央値)

全養成大学を単位数の順に並べた際、ちょうど中央に位置する大学の値である。平均値と異なり、極端な外れ値に影響を受けにくいため、標準的な大学の姿をより正確に反映しやすい。

100%ライン

養成大学において免許を取得するために必要な最低修得単位数のライン

養護教諭一種免許状

表1.養護教諭一種免許状の大科目における設定単位数と充足率

		平均値		単位数の分布				充足率の分布			
大科目名	最低修得単位数	平均	標準偏差	中央値	Q1	Q3	IQR	中央値	Q1	Q3	IQR
【1】養護に関する科目	28	47.5	20.1	41.0	35.0	54.0	19.0	146%	125%	193%	68%
【2】教育の基礎的理解に関する科目	8	13.2	5.3	12.0	11.0	14.0	3.0	150%	138%	175%	38%
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	6	10.8	4.4	10.0	8.0	11.0	3.0	167%	133%	183%	50%
【4】教育実践に関する科目	7	7.7	2.4	7.0	7.0	7.0	0.0	100%	100%	100%	0%
【5】大学が独自に設定する科目	7	11.3	14.0	7.5	4.0	13.5	9.5	107%	57%	193%	136%

※

※表中の充足率は科目を開設している養成大学群内のみの値

図1.一種免許状における大科目毎の平均設定単位数(単位)

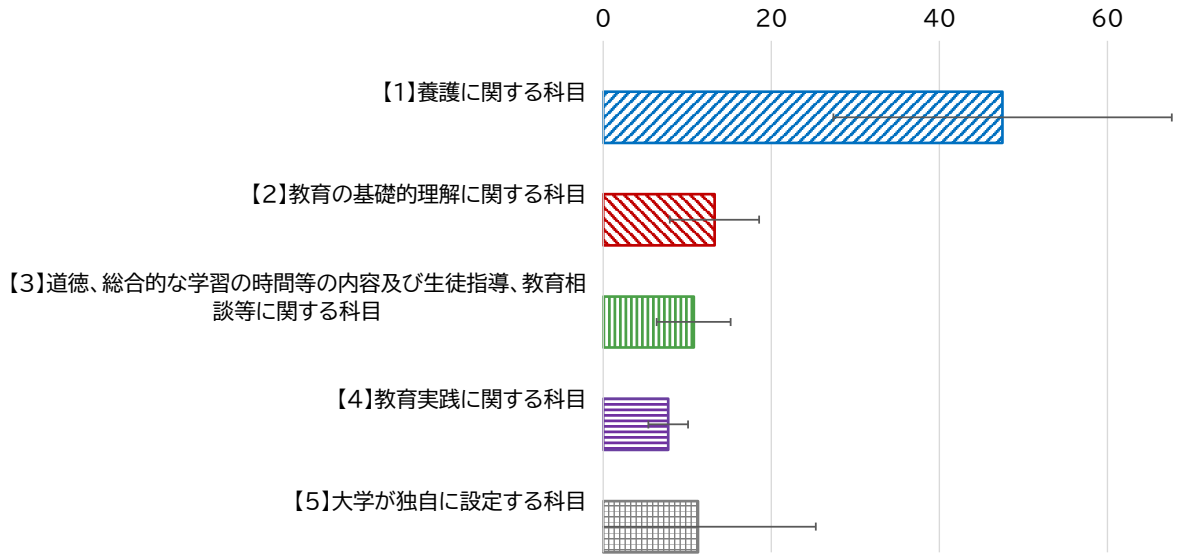
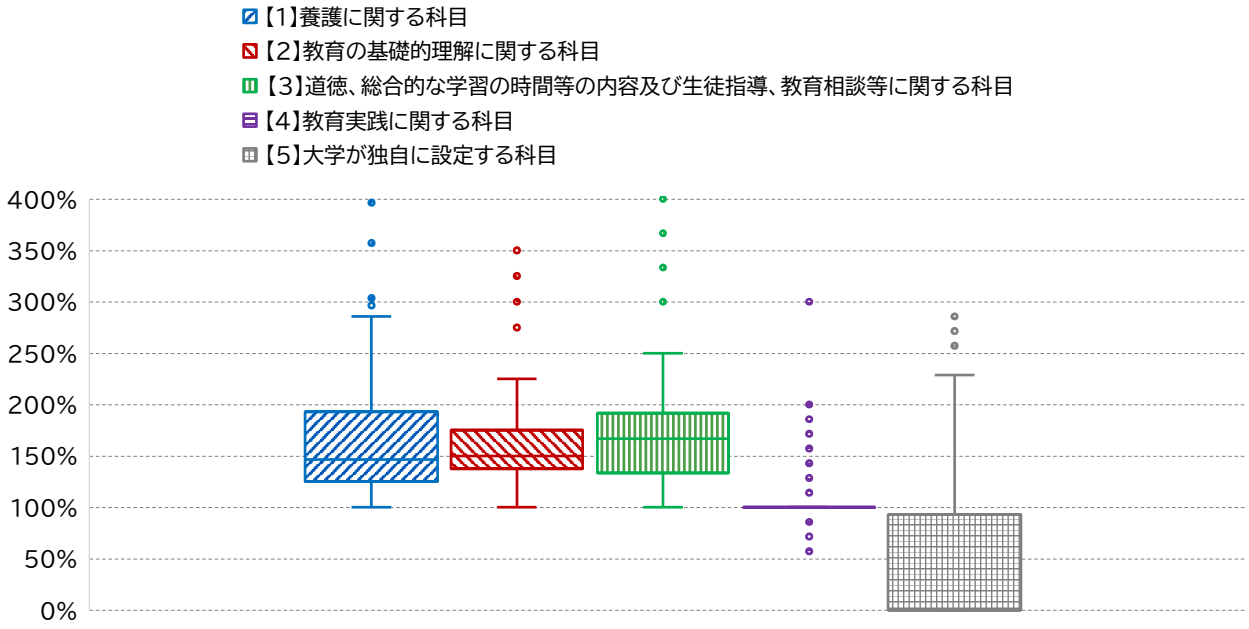


図2.一種免許状における充足率の分布(%)



＜結果＞

1. 科目配分の構造

一種免許状においては、開設科目総単位数の5割強を「養護に関する科目」が占めており、これに「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を加えた主要三科目でカリキュラムの大半を占める構造となっている。一方、「大学が独自に設定する科目」の構成比は約1割に留まり、相対的に比重は小さい。

2. 最低修得単位数に対する充足状況

主要三科目では、最低修得単位数に対して中央値で1.4～1.7倍の単位が配当されている。一方、「教育実践に関する科目」は多くの大学で要件通りの最小限の単位設定(充足率100%)である。また、「大学が独自に設定する科目」は充足率の四分位範囲が57～193%と広く、大学によるばらつきが大きい。

養護教諭二種免許状

表2.養護教諭二種免許状の大科目における設定単位数と充足率

		平均値		単位数の分布				充足率の分布			
大科目名	最低修得単位数	平均	標準偏差	中央値	Q1	Q3	IQR	中央値	Q1	Q3	IQR
【1】養護に関する科目	24	35.8	12.4	31.0	27.0	36.8	9.8	129%	108%	175%	67%
【2】教育の基礎的理解に関する科目	5	13.7	6.8	10.0	10.0	13.5	3.5	200%	195%	340%	145%
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	3	8.5	3.8	7.0	6.0	9.5	3.5	233%	200%	350%	150%
【4】教育実践に関する科目	6	6.2	0.4	6.0	6.0	6.0	0.0	100%	100%	104%	4%
【5】大学が独自に設定する科目	4	6.2	5.9	4.0	2.5	5.5	3.0	100%	50%	231%	181%

※表中の充足率は科目を開設している養成大学群内のみの値

図3.二種免許状における大科目毎の平均設定単位数(単位)

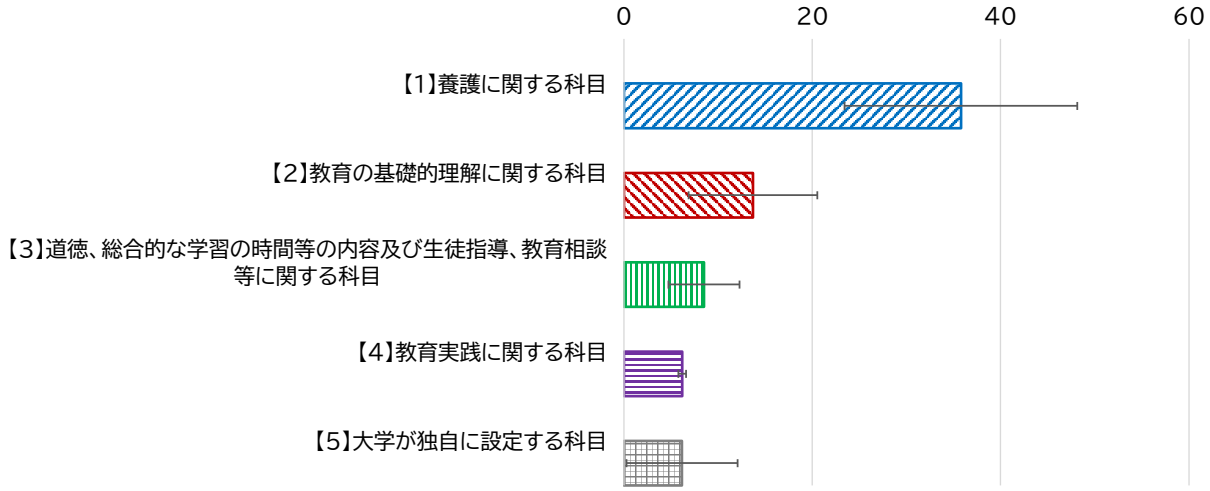
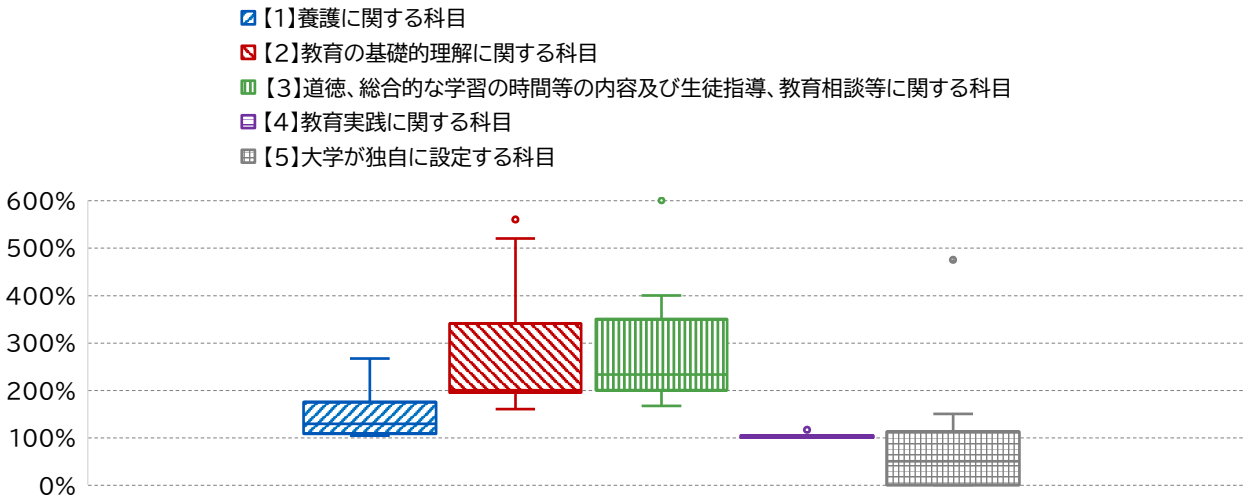


図4.二種免許状における充足率の分布(%)



＜結果＞

(1) 二種免許状における科目配分の構造

養護教諭二種免許状においても、大学によるばらつきはあるものの、開設科目総単位数は「養護に関する科目」に集中しており、一種免許状と同様に養成課程の中核を成している。次いで「教育の基礎的理解に関する科目」が17.9%(13.7単位)、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」が10.7%(8.5単位)を占め、これら主要三科目でカリキュラムの大部分を構成している。一方、「大学が独自に設定する科目」の構成比は4.3%(6.2単位)と低く、二種免許状における比重は限定的である。

(2) 最低修得単位数に対する充足状況

基礎的理解及び生徒指導等の領域では、最低修得単位数を上回る単位数が確保されている。特に「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」においては、充足率の中央値がいずれも200%(2.0倍)に達しており、最低基準の2倍に相当する単位配置となっている。一方、「教育実践に関する科目」は中央値・最低修得単位数ともに6単位、四分位範囲も0であり、ほぼ全ての養成大学において要件通りの配置となっている。

養護教諭専修免許状

表3.養護教諭専修免許状の大科目における設定単位数と充足率

		平均値		単位数の分布				充足率の分布 ※科目を開設している大学での分布			
大科目名	最低修得単位数	平均	標準偏差	中央値	Q1	Q3	IQR	中央値	Q1	Q3	IQR
【1】養護に関する科目	28	28.8	24.3	21.0	7.5	45.0	37.5	75%	23%	168%	145%
【2】教育の基礎的理解に関する科目	8	22.8	11.1	20.0	20.0	28.0	8.0	250%	250%	425%	175%
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	6	11.0	9.0	7.0	4.0	14.0	10.0	117%	67%	367%	300%
【4】教育実践に関する科目	7	9.0	7.0	9.0	5.5	12.5	7.0	129%	79%	179%	100%
【5】大学が独自に設定する科目	31	68.1	59.5	42.5	34.3	91.0	56.8	137%	111%	323%	211%

※表中の充足率は科目を開設している養成大学群内のみの値

図5.専修免許状における大科目毎の平均設定単位数(単位)

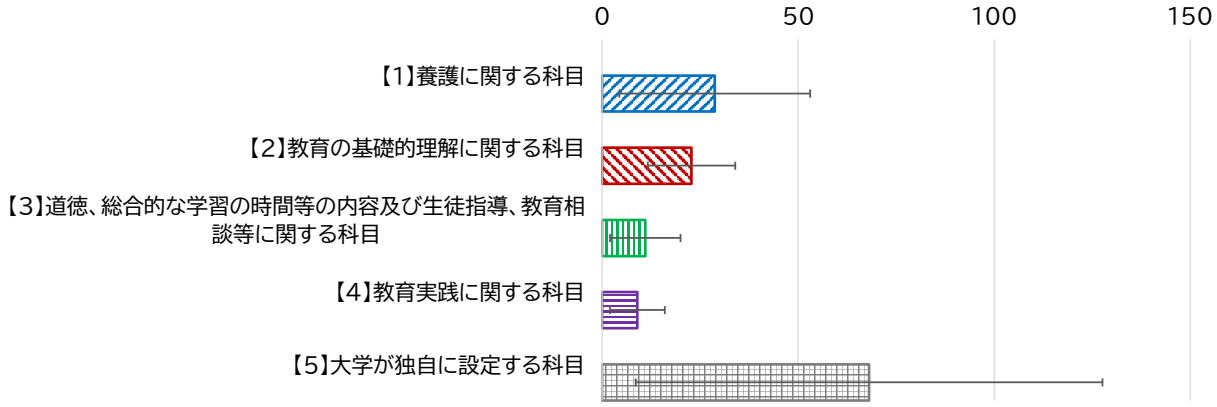
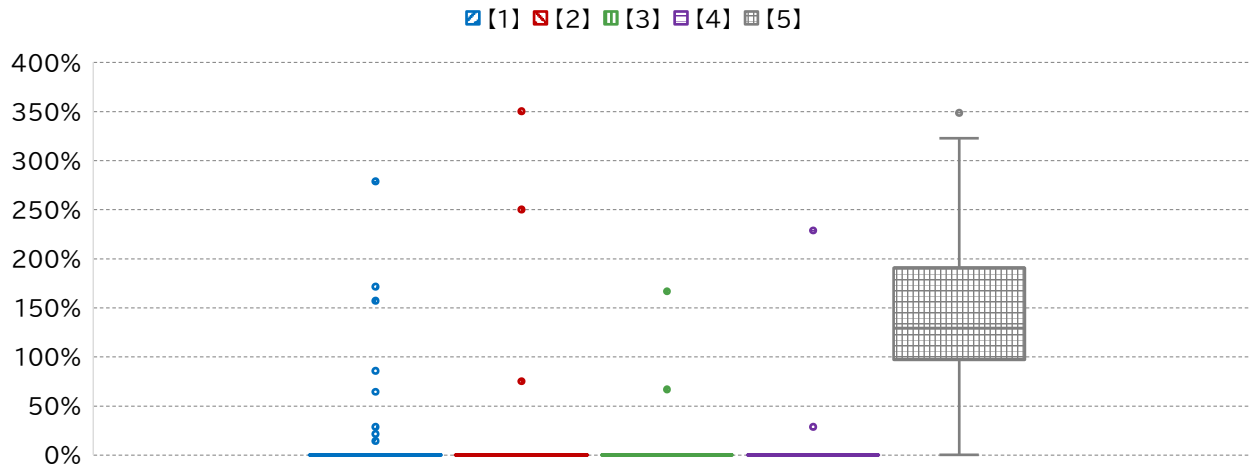


図6.専修免許状における充足率の分布(%) ※科目を開設していない大学も含めた全ての専修免許状の分布



＜結果＞

専修免許状における科目配分の特徴

養護教諭専修免許状においては、「大学が独自に設定する科目」が教育課程の中心となっており、単位の配分も大学ごとに大きく異なっていた。

A-1.平均単位数（中科目）	
目的	養護教諭養成課程における中科目ごとの単位配分状況（教育内容の重点領域）を把握し、開発プログラムの各要素を既存カリキュラムのどの中科目に関連づけることが妥当かを検討する。
方法	各中科目について、1養成大学当たりの開設科目単位数の平均値及び標準偏差を算出し、大科目内における単位配分の構造的特徴を分析した。
結果	**（1）「養護に関する科目」における配分構造** 「看護学」及び医学系科目が重点的に配置されている一方、相談・運営系科目は標準的な単位数で広く配置されている。一種免許状において、「看護学（臨床実習等含む）」は平均約17.7単位と最低修得単位数を上回る単位数となっており、「衛生学・公衆衛生学」等の医学系科目も平均4～5単位と多く配置されている。一方、「学校保健」「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」等の相談・運営系科目は、平均2～3単位程度の配置であり、医学・看護学的専門性を基盤としつつ、相談・運営機能に関する科目が構成される構造となっている。 **（2）「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」における配分構造** 教育基礎的理解に関する科目では各中科目が均等に配置されているのに対し、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等では「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」の比重が相対的に大きい。一種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目では、各中科目が平均1.7～2.7単位の範囲内で、基礎理論や制度論が概ね均等に配分されている。また、一種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目では、「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」が平均約4.2単位と多く、他の指導・相談系科目は平均2単位前後となっている。 **（3）「教育実践」及び「大学独自科目」の傾向** 「教育実践に関する科目」は固定的である一方、「大学が独自に設定する科目」は大学間の差異が大きい。一種免許状の【4】教育実践に関する科目は、実習・演習ともに最低修得単位数（計7単位）と同水準の平均値である。一方、【5】大学が独自に設定する科目は、平均約11.3単位と単位数が大きいが、標準偏差も14.0単位と大きく、大学ごとのばらつきが大きい領域である。
示唆	**（1）共通性の高い「相談・発達・学校システム」関連科目への視点導入** 「学校保健」「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」「生徒指導の理論及び方法」「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」などの中科目は、一種・二種免許状を通じて平均2～3単位（概ね1～2科目相当）で安定して配置されている。これらの科目は、心理・福祉分野との内容的な親和性が高く、すべての養護教諭が履修する共通領域であることから、心理・福祉的視点を養護実践と結びつけて教授するための標準的なプログラムの導入先として考えられる。 **（2）「大学が独自に設定する科目」の発展的活用** 「大学が独自に設定する科目」は、単位数の規模及び大学の自由度が大きい領域である。したがって、全国一律の導入枠とするのではなく、各大学の特色を活かした高度で発展的な心理・福祉プログラムを展開するための枠組みとして位置付けることが考えられる。

養護教諭一種免許状

表4.養護教諭一種免許状の中科目における設定単位数

大科目名	中科目名	最低修得単位数	平均値	
			平均	標準偏差
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	4	5.5	2.4
	学校保健	2	3.8	3.3
	養護概説	2	3.1	2.2
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2	2.9	1.5
	栄養学※2	2	2.9	1.5
	解剖学・生理学	2	4.5	2.4
	微生物学、免疫学、薬理概論	2	4.2	2.4
	精神保健	2	3.1	1.8
	看護学※3	10	17.7	10.1
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	全体で8	2.4	1.1
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4		2.2	0.8
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5		2.7	1.5
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		2.7	1.7
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		1.7	0.8
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6		2.0	0.9
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	全体で6	4.2	2.0
	ロ 教育の方法及び技術※7		2.3	1.3
	ハ 生徒指導の理論及び方法		2.1	1.1
	ニ 教育相談の理論及び方法※8		2.2	1.0
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	5	5.6	1.8
	ロ 教職実践演習	2	2.1	0.6
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	7	11.3	14.0

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)、
※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)、※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、
※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図7.一種免許状における【1】養護に関する科目の平均設定単位数(単位)

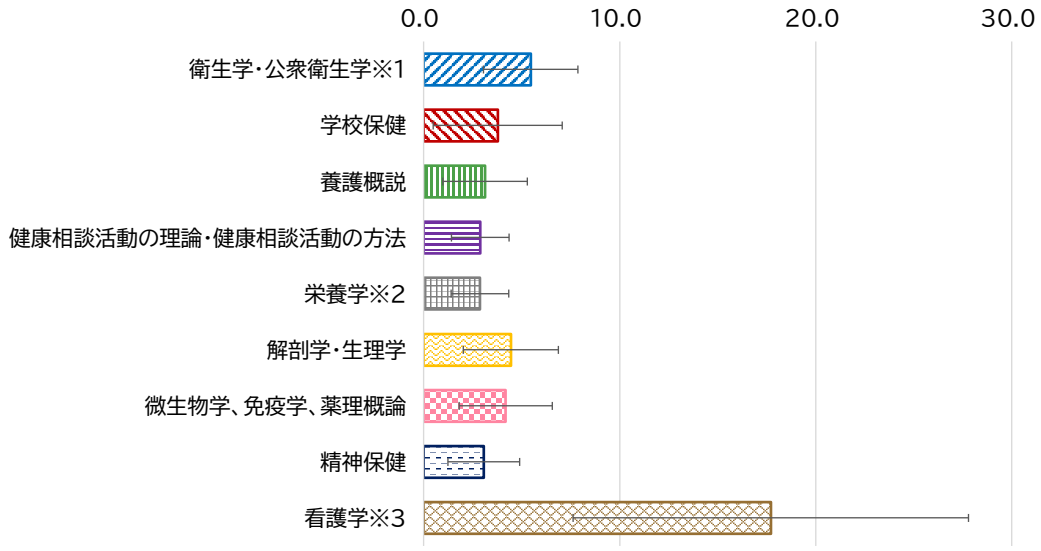
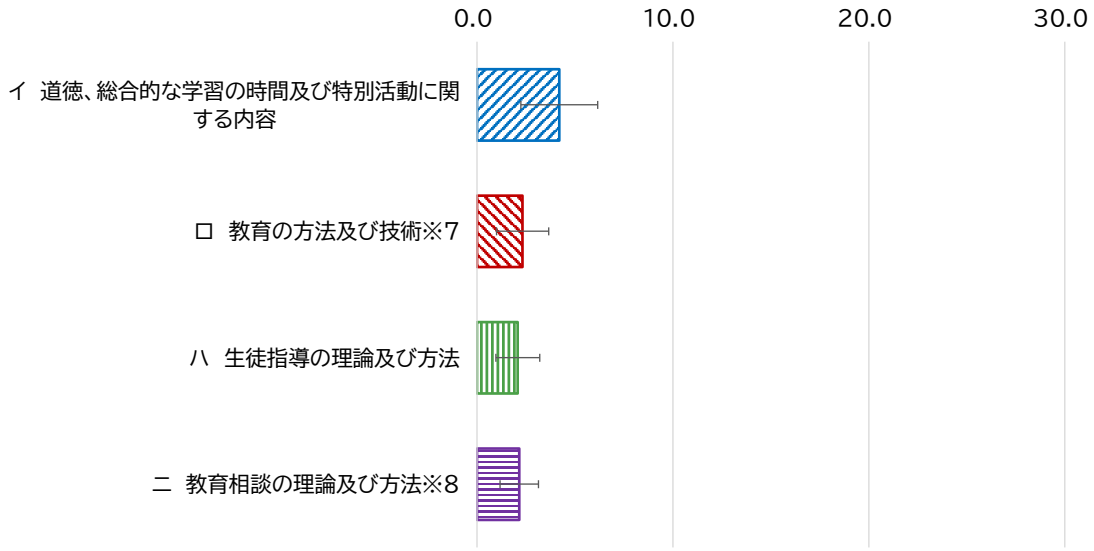


図8.一種免許状における【2】教育の基礎的理解に関する科目の平均設定単位数(単位)



図9.一種免許状における【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の平均設定単位数(単位)



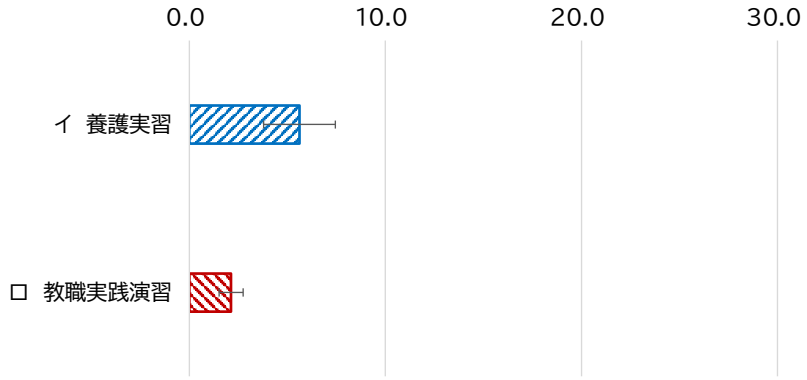
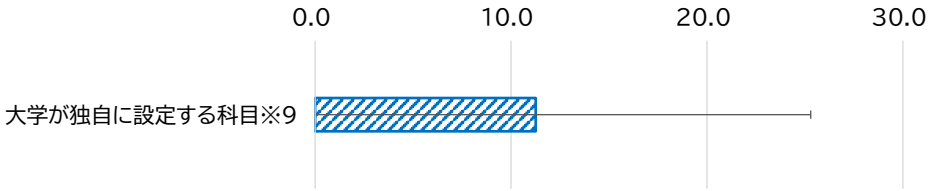


図11.一種免許状における【5】大学が独自に設定する科目の平均設定単位数(単位)



＜結果＞
養護に関する科目
・「看護学(臨床実習等含む)」の平均単位数は17.7単位であり、最低修得単位数(10単位)を7単位以上上回る設定となっている。
・「衛生学・公衆衛生学」「解剖学・生理学」等の基礎医学・公衆衛生科目群は平均4～5単位である一方、「学校保健」「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」等の運営・相談系科目は平均2～3単位で配当されている。
教育系科目
・「教育の基礎的理解に関する科目」では、各中科目が平均1.7～2.7単位の範囲で概ね均等に配置されている。
・「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」では、「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」が平均4.2単位と、他の中科目(平均2.1～2.3単位)と比較して多くの単位数が配当されている。
独自科目等
・「教育実践に関する科目」は、実習・演習ともに最低修得単位数と同水準の単位数となっている。
・「大学が独自に設定する科目」は平均11.3単位設定されているが、標準偏差が14.0単位であり、大学間の単位数のばらつきが大きい。

養護教諭二種免許状

表5.養護教諭二種免許状の中科目における設定単位数

大科目名	中科目名	最低修得単位数	平均値	
			平均	標準偏差
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	2	3.0	2.0
	学校保健	1	2.8	2.2
	養護概説	1	3.7	3.3
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2	2.3	0.6
	栄養学※2	2	2.5	1.0
	解剖学・生理学	2	3.1	1.4
	微生物学、免疫学、薬理概論	2	3.6	2.0
	精神保健	2	2.3	0.9
	看護学※3	10	12.5	2.6
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	全体で5	2.5	1.4
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4		2.2	0.6
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5		2.7	1.6
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		3.6	3.3
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		1.8	0.9
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6		1.7	0.9
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	全体で3	3.1	1.6
	ロ 教育の方法及び技術※7		2.3	2.0
	ハ 生徒指導の理論及び方法		1.8	0.4
	ニ 教育相談の理論及び方法※8		1.9	0.3
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	4	4.2	0.4
	ロ 教職実践演習	2	2.0	0.0
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	4	6.2	5.9

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)、※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)、※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図12.二種免許状における【1】養護に関する科目の平均設定単位数(単位)

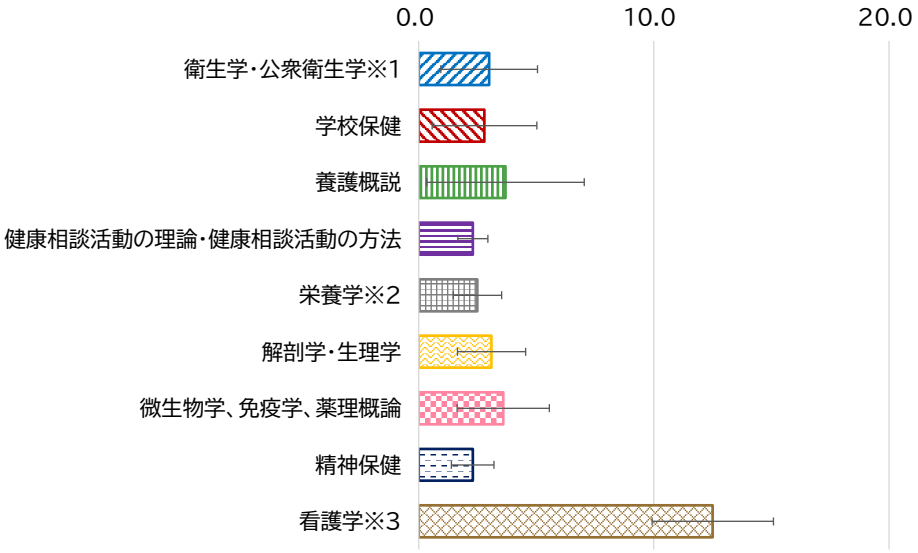


図13.二種免許状における【2】教育の基礎的理解に関する科目の平均設定単位数(単位)

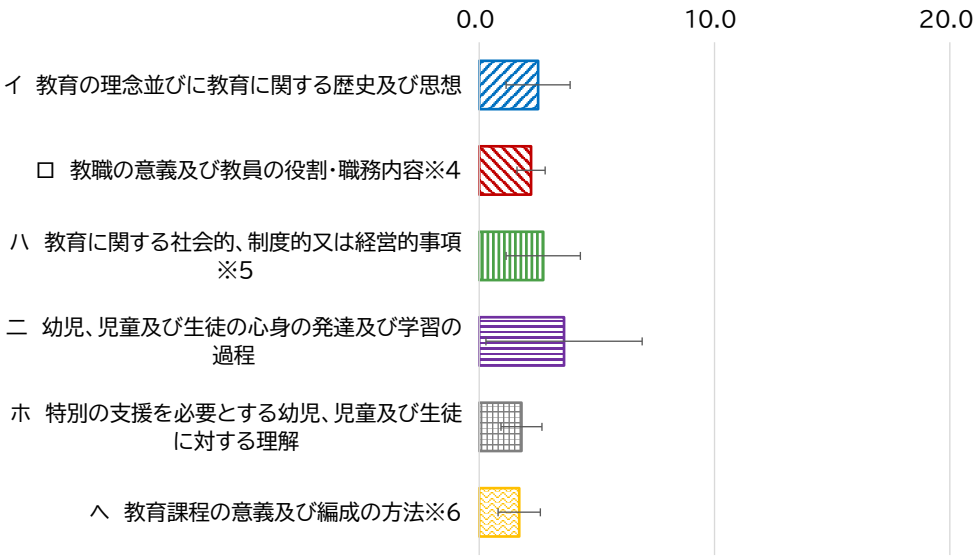


図14.二種免許状における【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の平均設定単位数(単位)

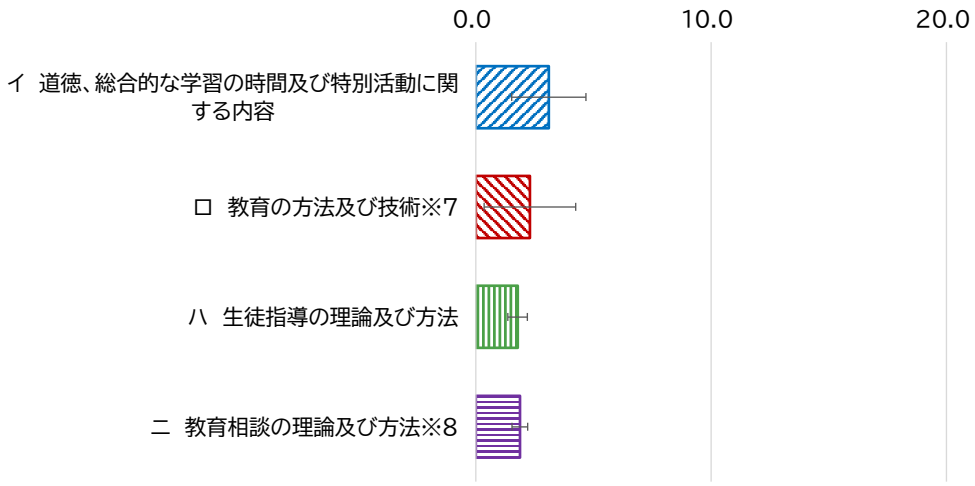


図15.二種免許状における【4】教育実践に関する科目の平均設定単位数(単位)

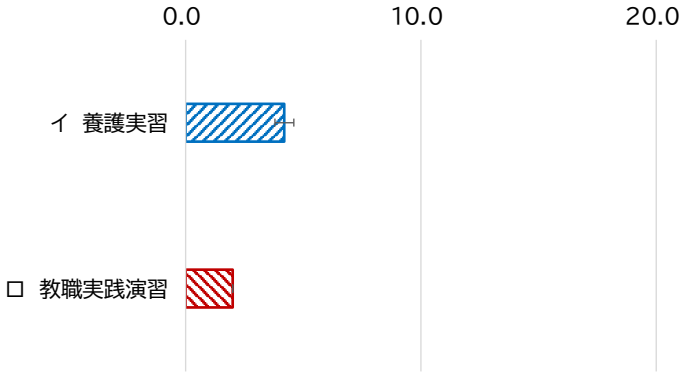
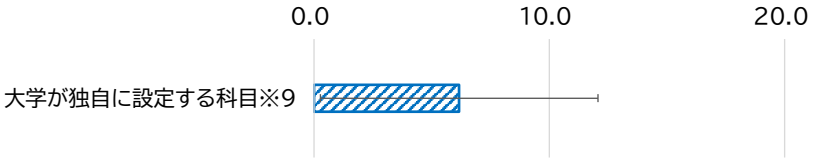


図16.二種免許状における【5】大学が独自に設定する科目の平均設定単位数(単位)



＜結果＞

養護に関する科目

・「看護学」の平均単位数は12.5単位であり、二種免許状の科目群の中で最も単位数が多い。

・その他の「衛生学・公衆衛生学」や「学校保健」等は概ね平均3単位前後、「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」等は平均2.3単位前後で設定されている。

教育系科目

・「教育の基礎的理解に関する科目」では、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」が平均3.6単位と他の科目より多く配当されている。

・「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」では、「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」が平均3.1単位となっている。

独自科目等

・「大学が独自に設定する科目」は平均6.2単位であるが、標準偏差は5.9単位であり、開設単位数に大学間で差がある。

養護教諭専修免許状

表6.養護教諭専修免許状の中科目における設定単位数

大科目名	中科目名	最低修得単位数	平均値	
			平均	標準偏差
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	4	2.7	0.9
	学校保健	2	7.3	6.2
	養護概説	2	4.0	0.0
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2	4.0	0.0
	栄養学※2	2	2.0	0.0
	解剖学・生理学	2	2.0	0.0
	微生物学、免疫学、薬理概論	2	2.0	0.0
	精神保健	2	3.0	1.0
	看護学※3	10	23.0	21.0
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	全体で8	11.3	11.8
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4		0.0	0.0
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5		4.0	2.0
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		8.7	3.4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		4.0	0.0
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6		2.0	0.0
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	全体で6	15.0	11.0
	ロ 教育の方法及び技術※7		6.0	0.0
	ハ 生徒指導の理論及び方法		0.0	0.0
	ニ 教育相談の理論及び方法※8		4.0	0.0
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	5	16.0	0.0
	ロ 教職実践演習	2	0.0	0.0
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	31	67.3	58.4

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)、※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)、※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図17.専修免許状における【1】養護に関する科目の平均設定単位数(単位)

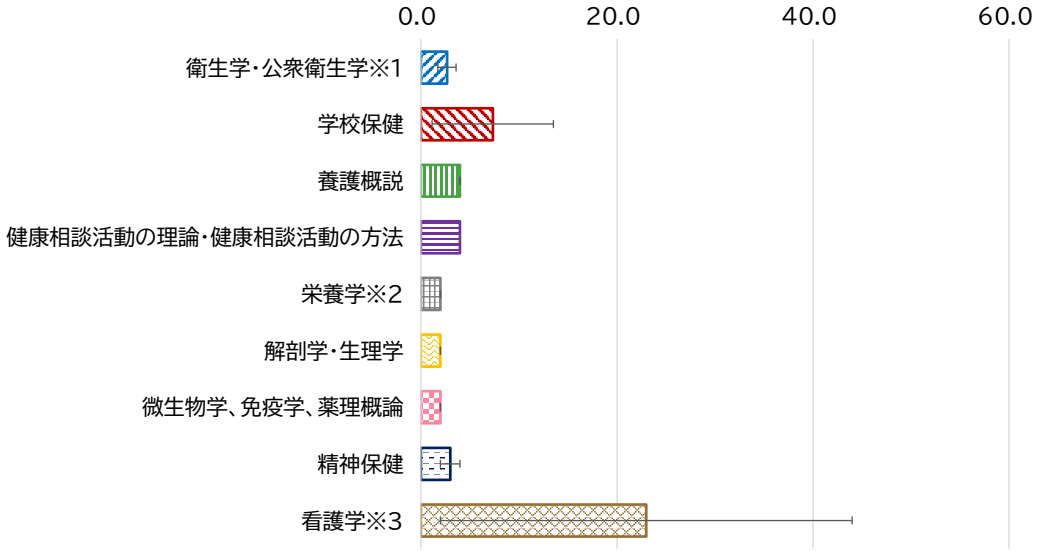


図18.専修免許状における【2】教育の基礎的理解に関する科目の平均設定単位数(単位)

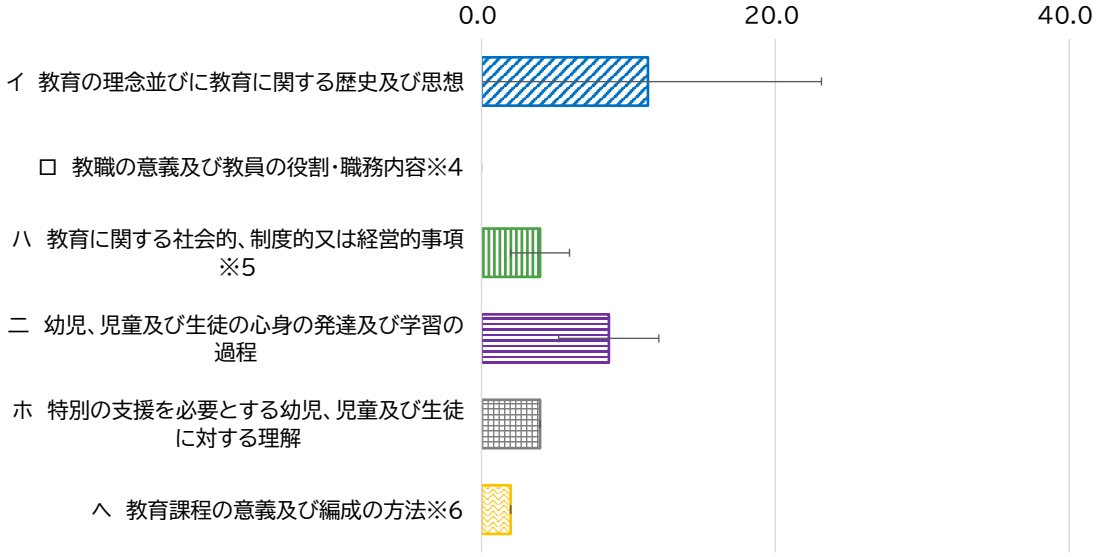


図19.専修免許状における【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の平均設定単位数(単位)

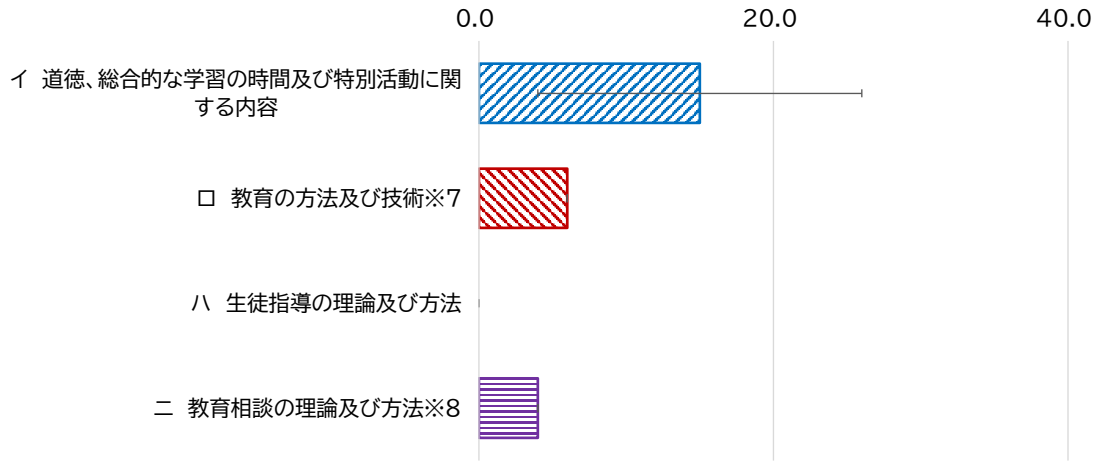


図20.専修免許状における【4】教育実践に関する科目の平均設定単位数(単位)

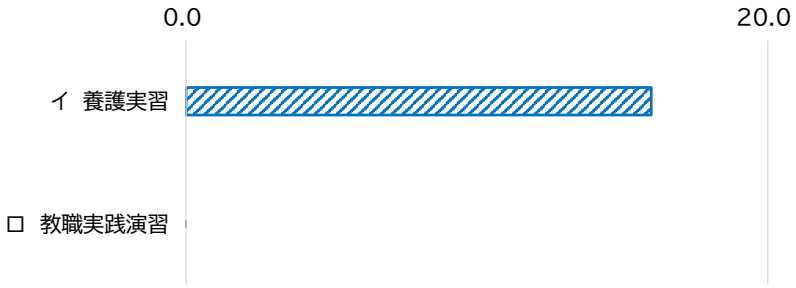
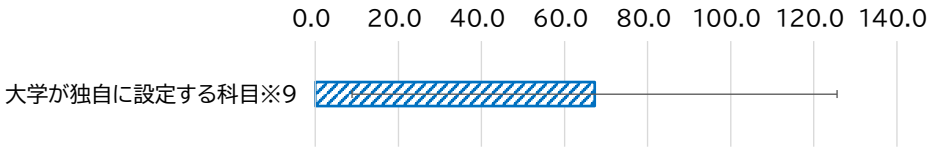


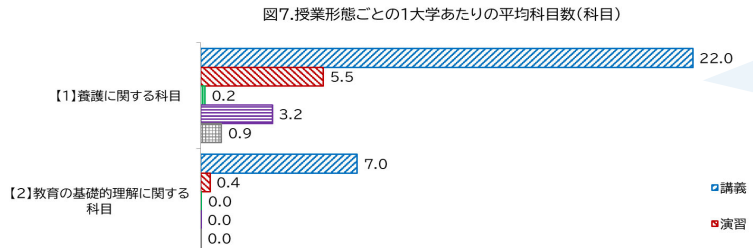
図21.専修免許状における【5】大学が独自に設定する科目の平均設定単位数(単位)



＜結果＞
養護に関する科目
・「看護学」の平均単位数は23.0単位、「学校保健」は平均7.3単位、「養護概説」及び「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」は各平均4.0単位であり、いずれも学部(一種免許状)と比較して多くの単位数が配当されている。
教育系科目
・「教育の基礎的理解に関する科目」では、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想(平均11.3単位)」や「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(平均8.7単位)」の単位数が多い。
・「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」では、「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」が平均15.0単位となっている。
独自科目
・「大学が独自に設定する科目」の平均単位数は67.3単位であり、専修免許状の開設科目単位数の中で最も単位数が多い。

A-2. 授業形態(複数回答あり)	
目的	養護教諭養成課程における大科目・中科目ごとの授業形態(講義・演習・実習等)の実施状況を検証し、開発プログラムの提供形態(教材タイプや指導法)を検討する。
方法	免許種別(一種／二種／専修)ごとに、大科目・中科目別の授業形態(講義、演習、実習等)を集計し、1大学当たりの平均科目数及び構成比を算出した。
結果	**(1) 一種・二種免許状における講義形式の優位性** 一種・二種免許状においては、「養護に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のいずれも、開設科目の7割～9割が「講義形式」で占められており、知識修得を中心とした講義主体のカリキュラム構成となっている。 **(2) 教育実践に関する科目の内訳構成** 「教育実践に関する科目」は、いずれの課程においても講義形式の比重が低く、演習及び実習が主体となっている。その内訳を見ると、一種免許状では演習(45.0%)と実習(45.5%)が同程度の比率で構成されている一方、二種免許状では実習が50%を超えて最多となっている。 **(3) 専修免許状における演習形式への転換** 専修免許状においては、学部段階(一種・二種)と比較して講義形式の割合が相対的に低下する傾向が見られた。特に「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の大科目においては、演習形式の割合が講義形式を上回っていた。
示唆	**(1) 主要科目への導入におけるプログラム設計** 一種・二種免許状の「養護に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」は講義形式が中核を成していることから、当該領域に心理・福祉プログラムを導入するにあたっては、講義形式の授業枠内で展開可能な教材設計を中心とすることが現実的であると考えられる。 **(2) 実践的手法の導入領域としての適合性** 「演習・実習形式」を含むプログラムについては、講義形式の観点だけで検討すると、演習・実習の比重が高い「教育実践に関する科目」への導入が考えられる。特に一種免許状では演習・実習がバランスよく配置されているため、多様な実践的技法を取扱う受け皿として、当該科目の活用又は連携を検討することが考えられる。

グラフ(棒グラフ)の見方



棒の高さ(平均値)

1大学あたり、その形態(講義・演習・実習)を含む授業が「平均何科目あるか」を示す。複数回答のため、1つの授業で「講義」と「演習」を併用している場合、両方にカウントされる。

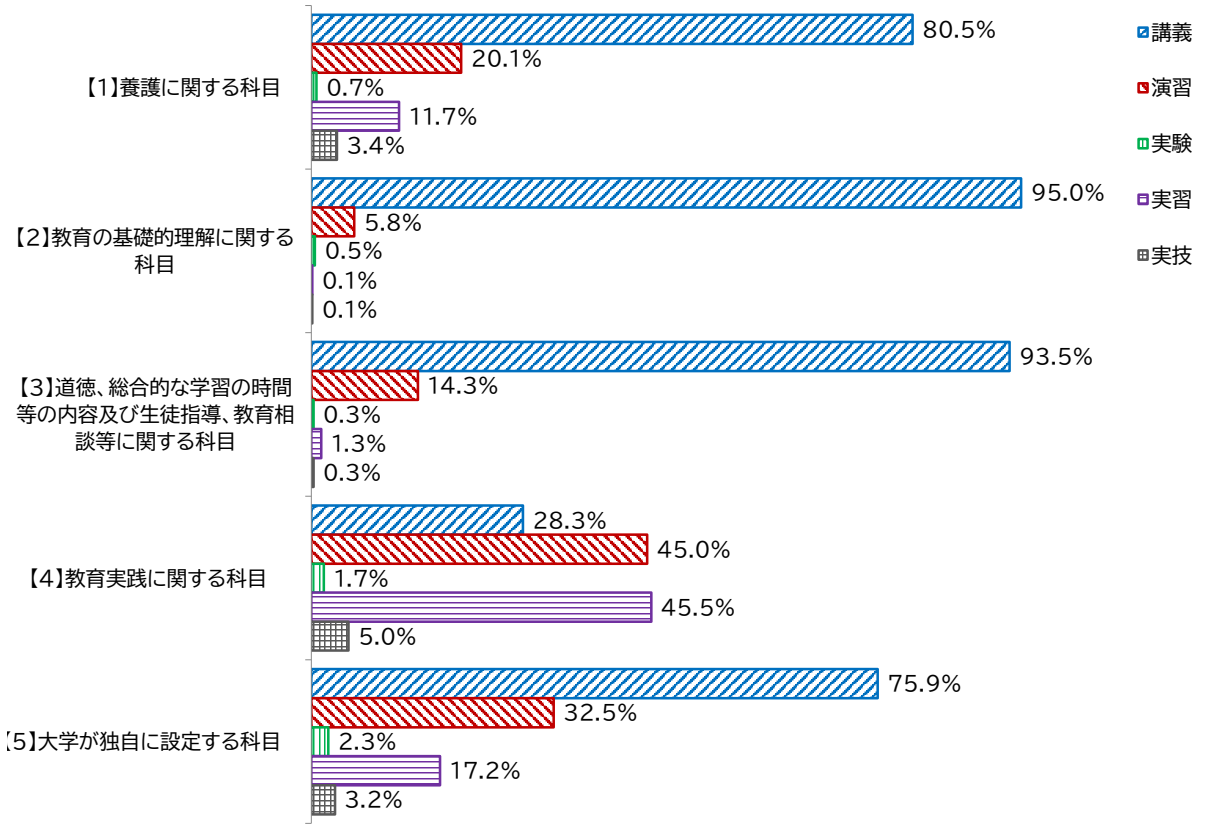
【結果の見方の例】
養護に関する科目は各養成大学において平均で27.3科目開講されているが、そのうち、講義を含む科目は平均22.0科目(80.5%)であり、演習を含む科目は平均5.5科目(20.1%)であった。養護に関する科目は講義が主であることを示している。

養護教諭一種免許状

表7.養護教諭一種免許状の大科目における授業形態

	平均科目数					科目数の割合					
大科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	22.0	5.5	0.2	3.2	0.9	80.5%	20.1%	0.7%	11.7%	3.4%	27.3
【2】教育の基礎的理解に関する科目	7.0	0.4	0.0	0.0	0.0	95.0%	5.8%	0.5%	0.1%	0.1%	7.4
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	5.6	0.9	0.0	0.1	0.0	93.5%	14.3%	0.3%	1.3%	0.3%	6.0
【4】教育実践に関する科目	0.9	1.4	0.1	1.5	0.2	28.3%	45.0%	1.7%	45.5%	5.0%	3.2
【5】大学が独自に設定する科目	5.3	2.3	0.2	1.2	0.2	75.9%	32.5%	2.3%	17.2%	3.2%	7.0

図22.授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

【1】養護に関する科目

・開設科目の80.5%が講義形式（平均22科目）であり、演習形式は20.1%（平均5.5科目）であった。

【2】教育の基礎的理解に関する科目

・講義形式の割合が95.0%（平均7.0科目）と高く、演習形式は5.8%（平均0.4科目）に留まった。

【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・開設科目の93.5%が講義形式（平均5.6科目）であり、演習形式は14.3%（平均0.9科目）であった。

【4】教育実践に関する科目

・実習形式が45.5%（平均1.5科目）、演習形式は45.0%（平均1.4科目）と同程度であり、講義形式は28.3%（平均0.9科目）であった。

【5】大学が独自に設定する科目

・講義形式が75.9%（平均5.3科目）で最多であるが、演習形式は32.5%（平均2.3科目）、実習形式は17.2%（平均1.2科目）であり、多様な形態が併用されている。

全体傾向

・実験形式や実技形式で授業を行っている割合は、いずれの科目群においても5%以下であった。

表8.養護教諭一種免許状の【1】養護に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数					科目数の割合					
		講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学･公衆衛生学※1	3.0	0.3	0.0	0.1	0.0	95.2%	9.1%	0.6%	2.0%	0.0%	3.1
	学校保健	2.0	0.6	0.0	0.0	0.0	92.7%	26.5%	0.0%	1.6%	1.6%	2.2
	養護概説	1.5	0.4	0.0	0.1	0.0	89.5%	25.1%	0.0%	4.2%	2.6%	1.7
	健康相談活動の理論･健康相談活動の方法	1.5	0.6	0.0	0.0	0.1	85.2%	35.2%	0.0%	1.0%	6.1%	1.7
	栄養学※2	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	94.2%	7.4%	0.5%	1.1%	0.5%	1.7
	解剖学･生理学	2.3	0.1	0.0	0.1	0.0	92.1%	5.0%	1.1%	4.6%	0.4%	2.5
	微生物学、免疫学、薬理概論	2.4	0.1	0.0	0.0	0.0	97.1%	5.1%	1.5%	0.4%	0.0%	2.4
	精神保健	1.7	0.3	0.0	0.0	0.0	92.6%	17.2%	0.0%	1.0%	0.5%	1.8
	看護学※3	6.1	2.9	0.1	2.9	0.7	60.1%	28.5%	1.0%	28.1%	7.1%	10.2

※1:衛生学･公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図23.【1】養護に関する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

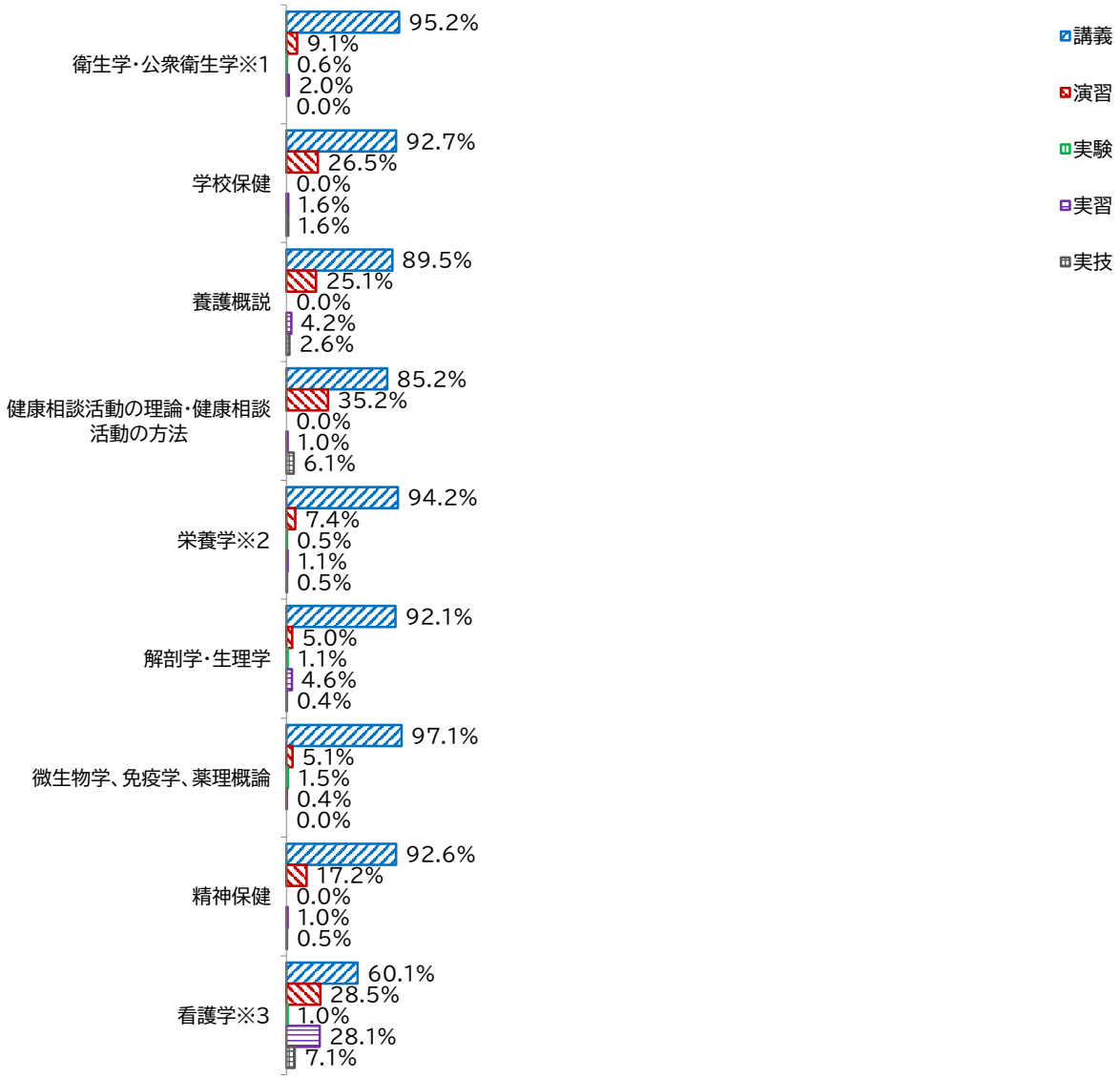


表9.養護教諭一種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	1.2	0.1	0.0	0.0	0.0	97.1%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2
	ロ 教職の意義及び教員の役割･職務内容※4	1.1	0.1	0.0	0.0	0.0	96.9%	12.6%	0.8%	0.8%	0.8%	1.1
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	96.8%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	98.1%	4.5%	0.6%	0.0%	0.0%	1.4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	1.1	0.1	0.0	0.0	0.0	96.7%	5.7%	1.6%	0.0%	0.0%	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	96.6%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割･職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム･マネジメントを含む。)

図24.【2】教育の基礎的理解に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

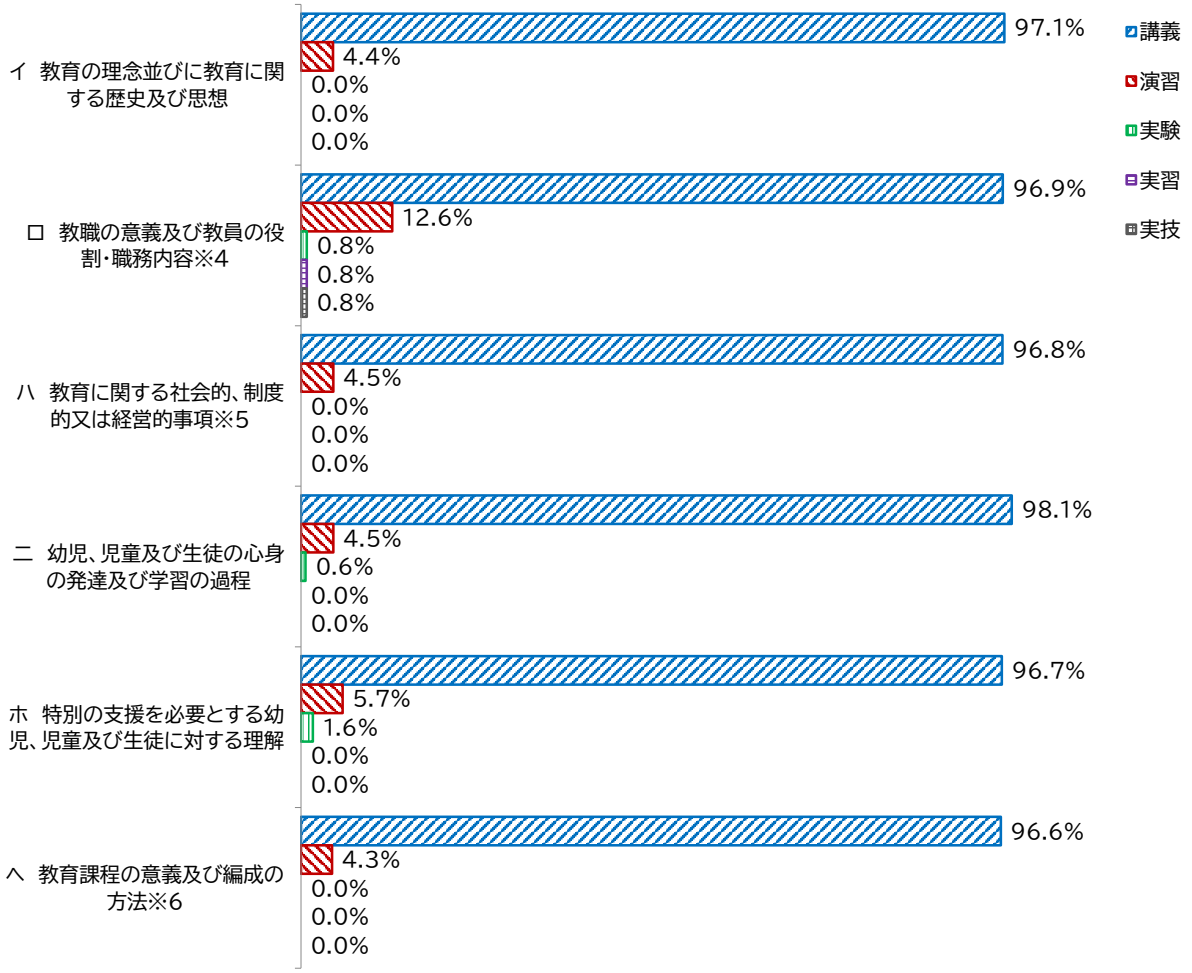


表10.養護教諭一種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数					科目数の割合					
		講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	2.3	0.3	0.0	0.0	0.0	94.9%	12.8%	0.4%	0.7%	0.4%	2.4
	ロ 教育の方法及び技術※7	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	93.4%	20.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3
	ハ 生徒指導の理論及び方法	1.0	0.1	0.0	0.1	0.0	92.1%	10.2%	0.0%	4.7%	0.0%	1.1
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	92.9%	14.2%	0.8%	0.8%	0.8%	1.1

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図25.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

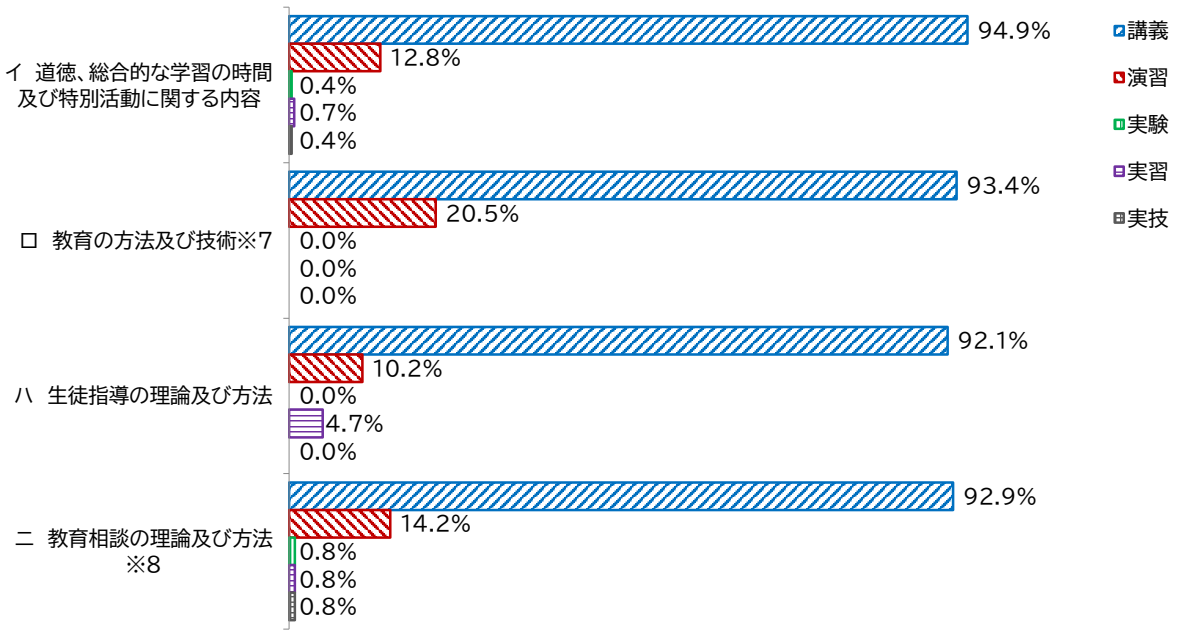


表11.養護教諭一種免許状の【4】教育実践に関する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均 開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	0.6	0.5	0.0	1.4	0.1	27.1%	25.0%	2.1%	65.8%	5.0%	2.1
	ロ 教職実践演習	0.3	0.9	0.0	0.1	0.1	31.1%	85.7%	0.8%	5.0%	5.0%	1.1

図26.【4】教育実践に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

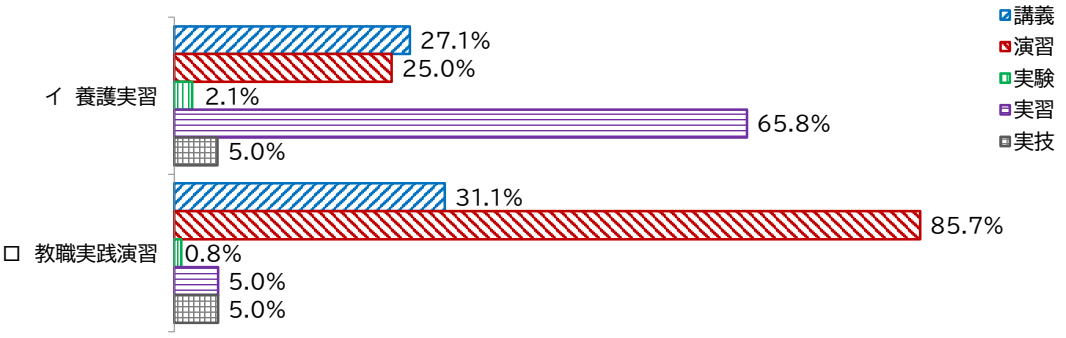
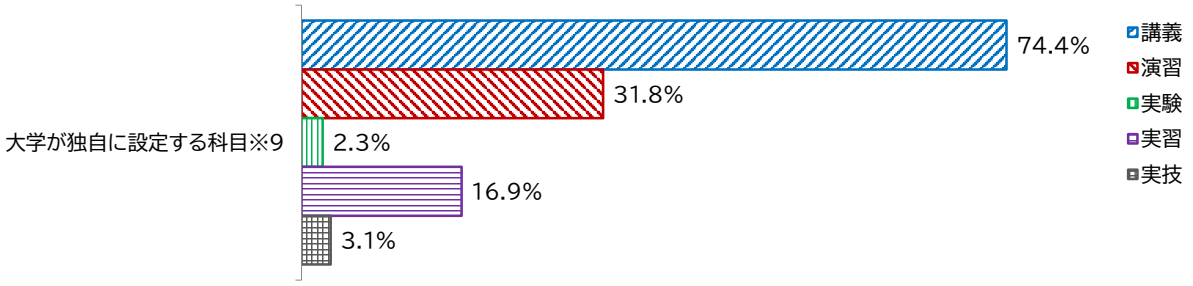


表12.養護教諭一種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	5.2	2.2	0.2	1.2	0.2	74.4%	31.8%	2.3%	16.9%	3.1%	7.0

※9：大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図27.【5】大学が独自に設定する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

養護に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均1.5～6.1科目）であった。

・「看護学」においては、講義形式が60.1%（平均6.1科目）である一方、実習形式が28.1%（平均2.9科目）、演習形式が28.5%（平均2.9科目）と、授業形態の多様性が確認された。

教育の基礎的理解に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均1.1～1.4科目）であった。

・「教職の意義及び教員の役割・職務内容」では、演習形式の割合が12.6%（平均0.1科目）あり、他の中科目（4.3%～5.7%）と比較して相対的に高かった。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均1.0～2.3科目）であった。

・「教育の方法及び技術」では、演習形式の割合が20.5%（平均0.3科目）あり、他の中科目（10.2%～14.2%）と比較して高かった。

教育実践に関する科目

・「養護実習」は実習形式が65.8%（平均1.4科目）で最多であり、講義形式（27.1%）を上回った。

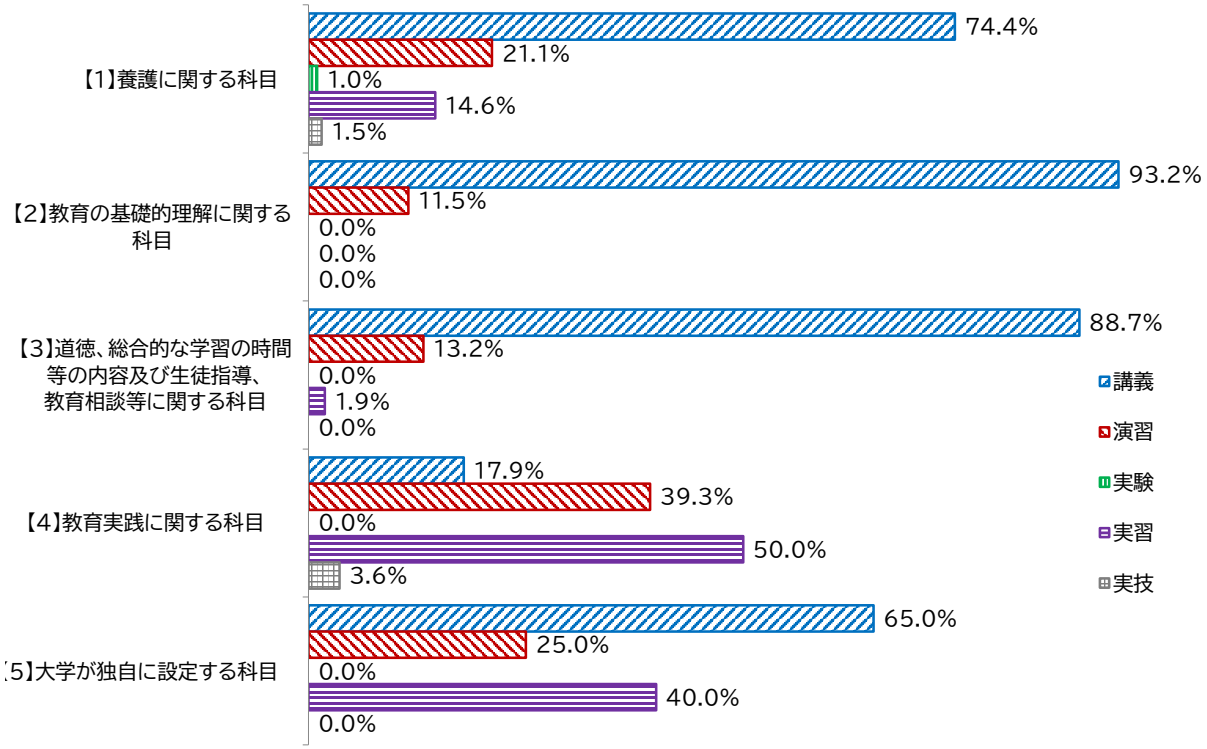
・「教職実践演習」は演習形式が85.7%（平均0.9科目）で最多であり、講義形式（31.1%）を上回った。

養護教諭二種免許状

表13.養護教諭二種免許状の大科目における授業形態

	平均科目数					科目数の割合					
大科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	14.8	4.2	0.2	2.9	0.3	74.4%	21.1%	1.0%	14.6%	1.5%	19.9
【2】教育の基礎的理解に関する科目	7.3	0.9	0.0	0.0	0.0	93.2%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.8
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	4.7	0.7	0.0	0.1	0.0	88.7%	13.2%	0.0%	1.9%	0.0%	5.3
【4】教育実践に関する科目	0.5	1.1	0.0	1.4	0.1	17.9%	39.3%	0.0%	50.0%	3.6%	2.8
【5】大学が独自に設定する科目	2.2	0.8	0.0	1.3	0.0	65.0%	25.0%	0.0%	40.0%	0.0%	3.3

図28.授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

【1】養護に関する科目

・開設科目の74.4%が講義形式（平均14.8科目）であり、演習形式は21.1%（平均4.2科目）であった

【2】教育の基礎的理解に関する科目

・講義形式の割合が93.2%（平均7.3科目）と9割を超え、演習形式は11.5%（平均0.9科目）であった。

【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・開設科目の88.7%が講義形式（平均4.7科目）であり、演習形式は13.2%（平均0.7科目）であった。

【4】教育実践に関する科目

・実習形式が50.0%（平均1.4科目）で半数を占め、次いで演習形式が39.3%（平均1.1科目）、講義形式は17.9%（平均0.5科目）であった。

【5】大学が独自に設定する科目

・講義形式が65.0%（平均2.2科目）、実習形式が40.0%（平均1.3科目）、演習形式が25.0%（平均0.8科目）であった。

全体傾向

・実験形式や実技形式の開設割合は、いずれの科目群においても4%以下であり、限定的であった。

表14.養護教諭二種免許状の【1】養護に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数 講義	演習	実験	実習	実技	科目数の割合 講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	1.2	0.1	0.1	0.2	0.0	75.0%	6.3%	6.3%	12.5%	0.0%	1.6
	学校保健	1.4	0.5	0.0	0.1	0.0	87.5%	31.3%	0.0%	6.3%	0.0%	1.6
	養護概説	1.6	1.1	0.0	0.0	0.0	84.2%	57.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	1.0	0.4	0.0	0.1	0.3	76.9%	30.8%	0.0%	7.7%	23.1%	1.3
	栄養学※2	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	92.3%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	1.3
	解剖学・生理学	1.5	0.2	0.0	0.0	0.0	93.8%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6
	微生物学、免疫学、薬理概論	1.7	0.3	0.0	0.0	0.0	89.5%	15.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9
	精神保健	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	100.0%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3
	看護学※3	3.9	1.4	0.0	2.5	0.0	52.7%	18.9%	0.0%	33.8%	0.0%	7.4

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図29.【1】養護に関する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

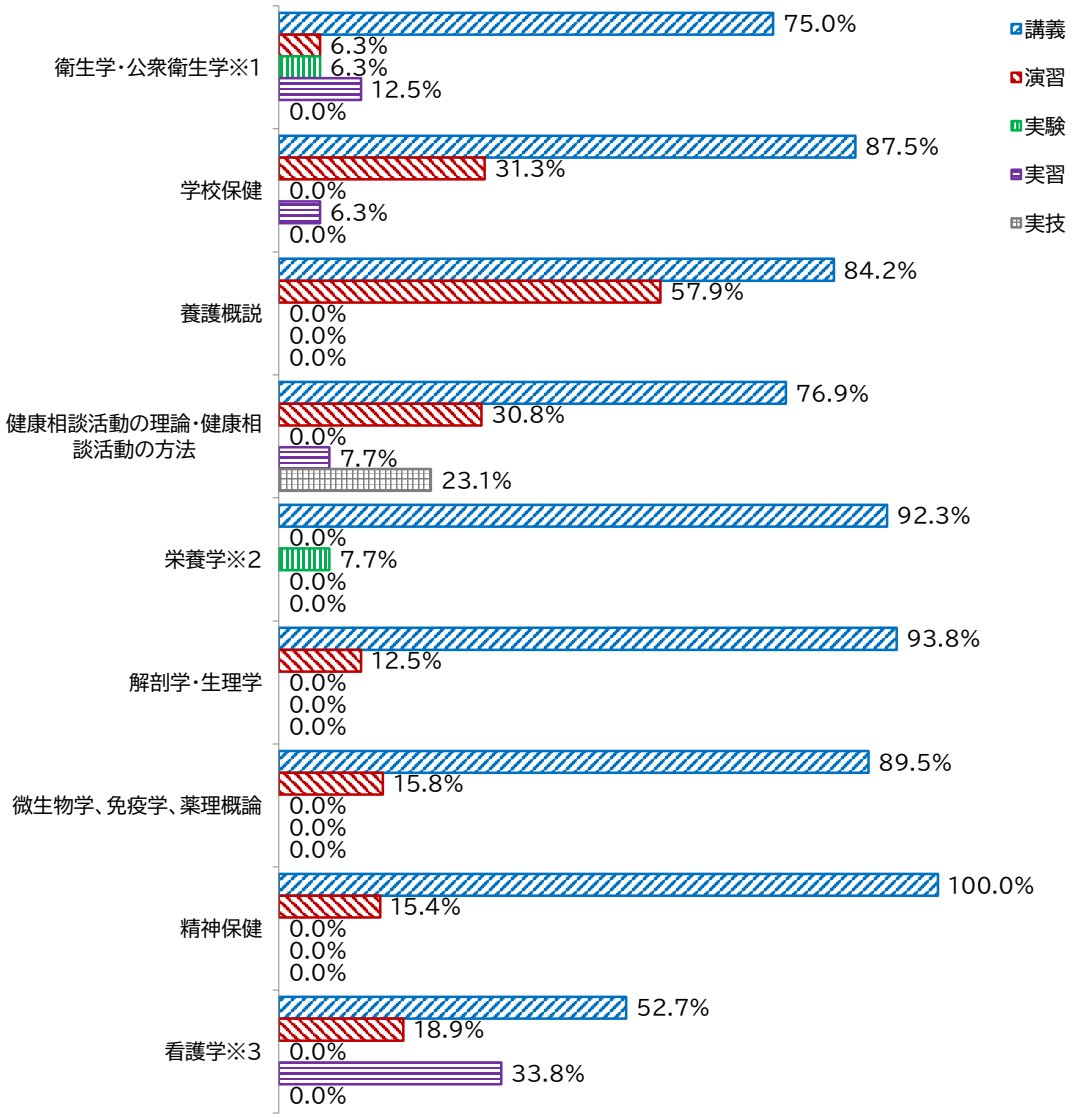


表15.養護教諭二種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数					科目数の割合					
		講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	92.3%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	100.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図30.【2】教育の基礎的理解に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

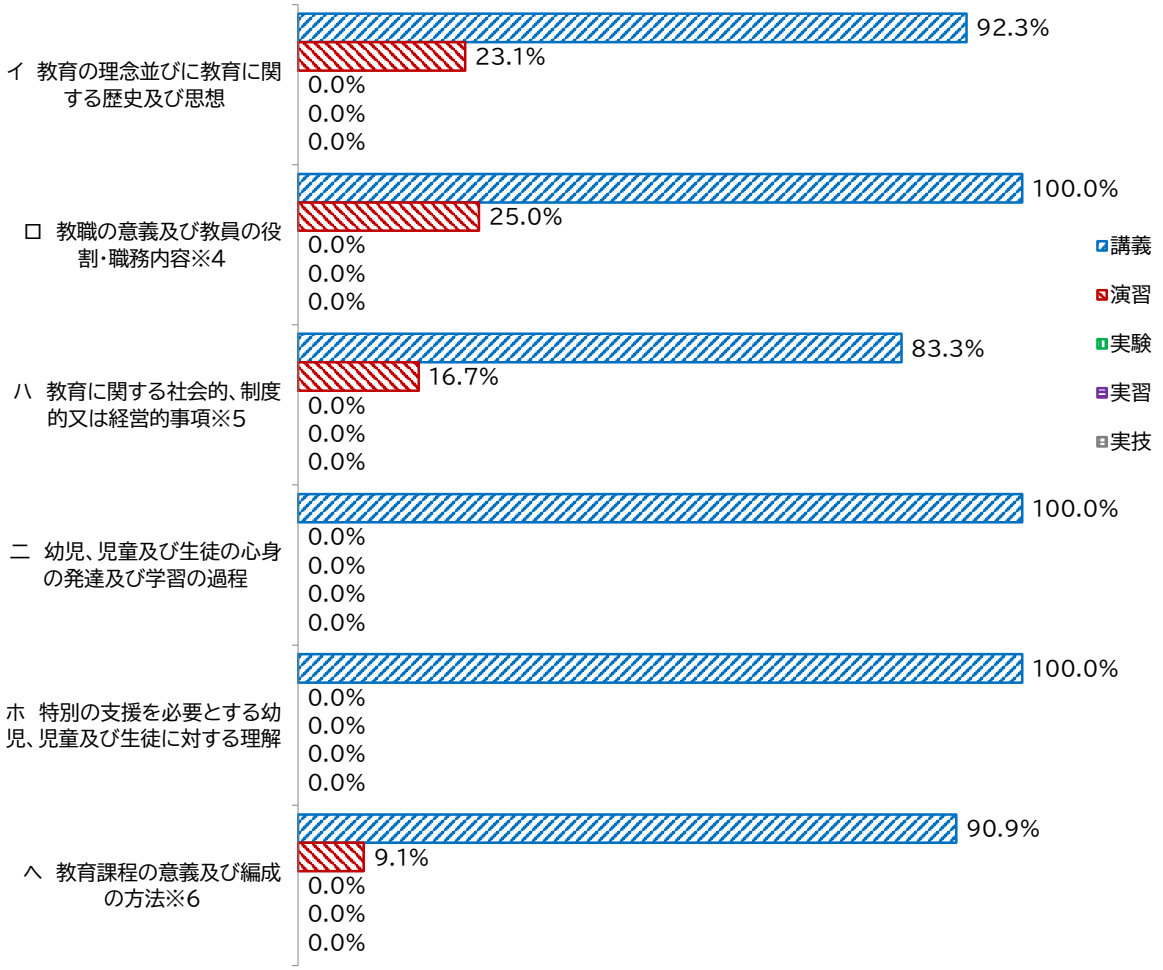


表16.養護教諭二種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	1.7	0.2	0.0	0.1	0.0	94.4%	11.1%	0.0%	5.6%	0.0%	1.8
	ロ 教育の方法及び技術※7	1.2	0.5	0.0	0.0	0.0	80.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5
	ハ 生徒指導の理論及び方法	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図31.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

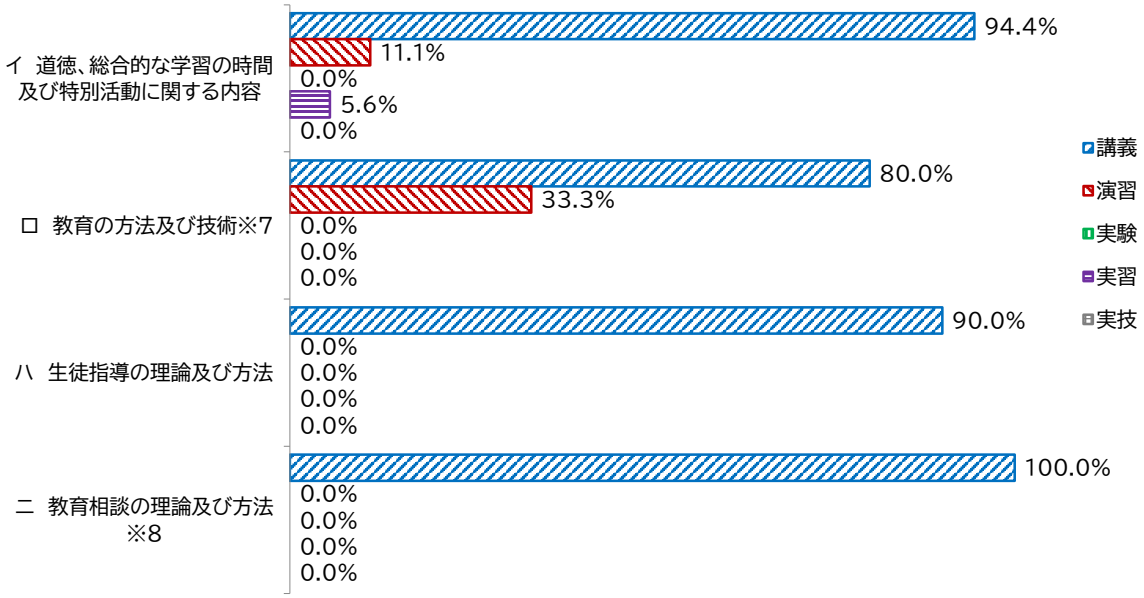


表17.養護教諭二種免許状の【4】教育実践に関する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	0.3	0.2	0.0	1.4	0.1	16.7%	11.1%	0.0%	77.8%	5.6%	1.8
	ロ 教職実践演習	0.2	0.9	0.0	0.0	0.0	20.0%	90.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0

図32.【4】教育実践に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

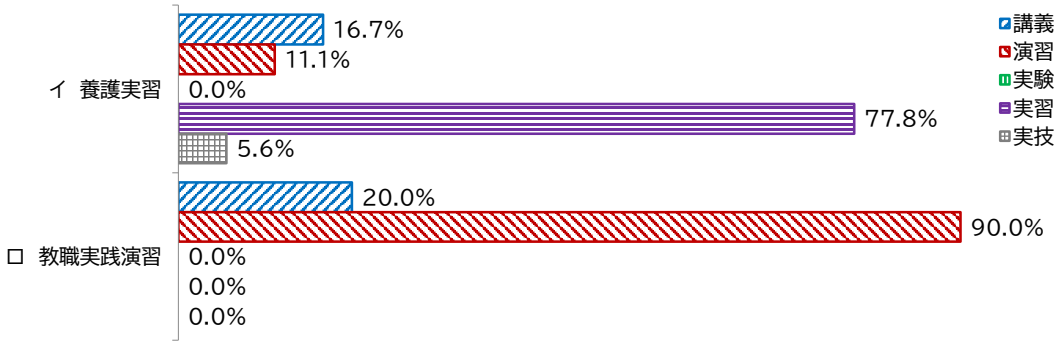
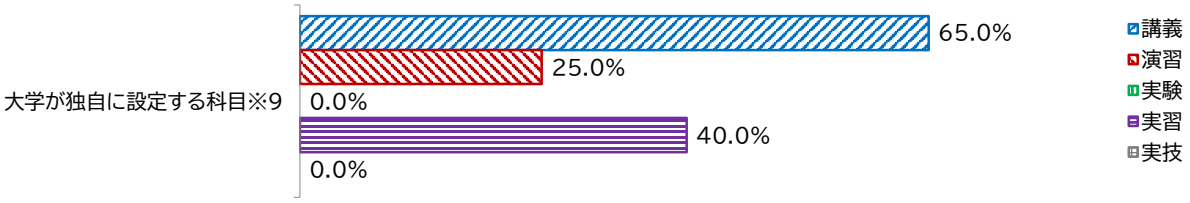


表18.養護教諭二種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目※9	大学が独自に設定する科目※	2.2	0.8	0.0	1.3	0.0	65.0%	25.0%	0.0%	40.0%	0.0%	3.3

※9：大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図33.【5】大学が独自に設定する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

養護に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均1.0～3.9科目）であった。
・「看護学」では、講義形式が52.7%（平均3.9科目）である一方、実習形式が33.8%（平均2.5科目）、演習形式が18.9%（平均1.4科目）開設されており、実習の比重が高かった。

教育の基礎的理解に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均1.0～1.8科目）であった。
・「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」及び「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」では、開設科目の100.0%が講義形式であり、それ以外の形態では開設されていなかった。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・全ての中科目で講義形式が最多（平均0.9～1.7科目）であった。
・「教育の方法及び技術」では、演習形式の割合が33.3%（平均0.5科目）あり、他の中科目（0.0%～11.1%）と比較して高かった。

教育実践に関する科目

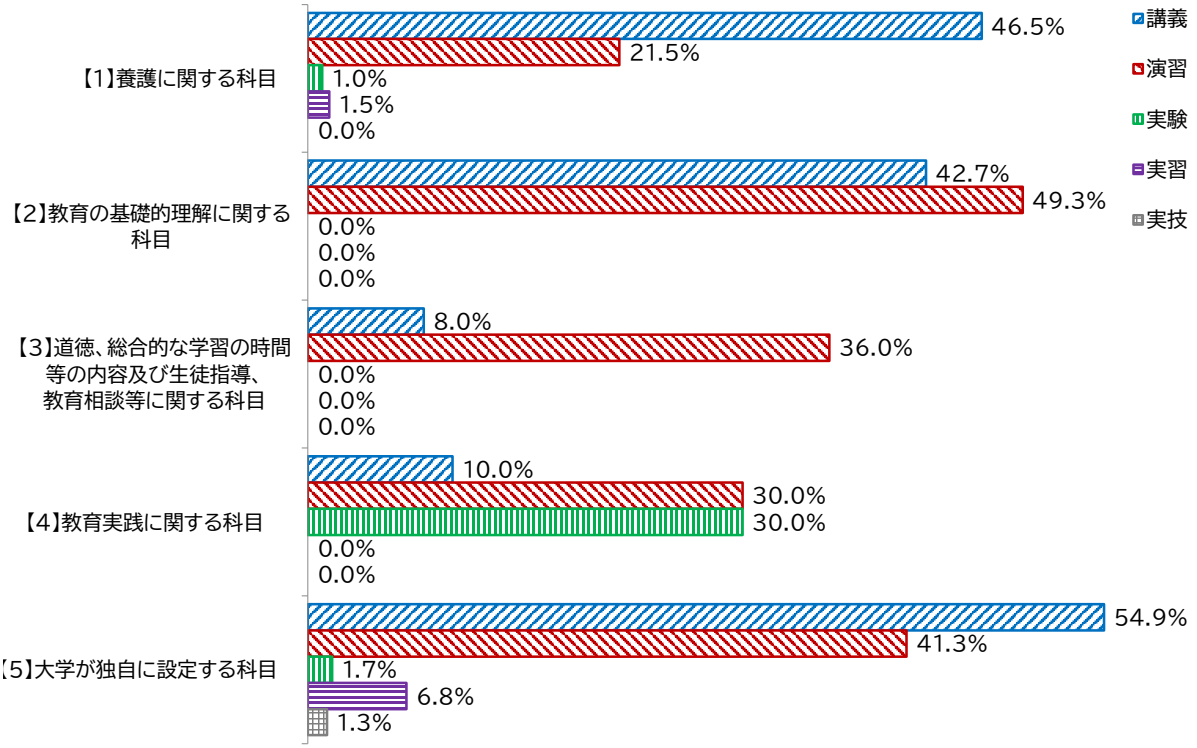
・「養護実習」は実習形式が77.8%（平均1.4科目）で最多であり、講義形式（16.7%）を上回った。
・「教職実践演習」は演習形式が90.0%（平均0.9科目）で最多であり、講義形式（20.0%）を大幅に上回った。

養護教諭専修免許状

表19.養護教諭専修免許状の大科目における授業形態

	平均科目数					科目数の割合					
大科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	11.6	5.4	0.3	0.4	0.0	46.5%	21.5%	1.0%	1.5%	0.0%	25.0
【2】教育の基礎的理解に関する科目	6.4	7.4	0.0	0.0	0.0	42.7%	49.3%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	1.0	4.5	0.0	0.0	0.0	8.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5
【4】教育実践に関する科目	0.5	1.5	1.5	0.0	0.0	10.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	5.0
【5】大学が独自に設定する科目	17.7	13.3	0.5	2.2	0.4	54.9%	41.3%	1.7%	6.8%	1.3%	32.3

図34.授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

【1】養護に関する科目

・講義形式が46.5%(平均11.6科目)、演習形式が21.5%(平均5.4科目)であり、学部と比較して講義の割合が低下している。

【2】教育の基礎的理解に関する科目

・演習形式が49.3%(平均7.4科目)で最多となり、講義形式の42.7%(平均6.4科目)を上回った。

【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・演習形式が36.0%(平均4.5科目)で最多となり、講義形式は8.0%(平均1.0科目)に留まった。

【4】教育実践に関する科目

・演習形式(平均1.5科目)と実験形式(平均1.5科目)がいずれも30.0%で同率であり、講義形式(10.0%)を上回った。

【5】大学が独自に設定する科目

・講義形式が54.9%(平均17.7科目)、演習形式が41.3%(平均13.3科目)であり、実習形式は6.8%(平均2.2科目)であった。

全体傾向

・実技形式の開設割合は、いずれの科目群においても2%以下であった。

表20.養護教諭専修免許状の【1】養護に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数					科目数の割合					
		講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3
	学校保健	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7
	養護概説	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0
	栄養学※2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0
	解剖学・生理学	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0
	微生物学、免疫学、薬理概論	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0
	精神保健	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5
	看護学※3	6.0	5.5	0.0	0.5	0.0	52.2%	47.8%	0.0%	4.3%	0.0%	11.5

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図35.【1】養護に関する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

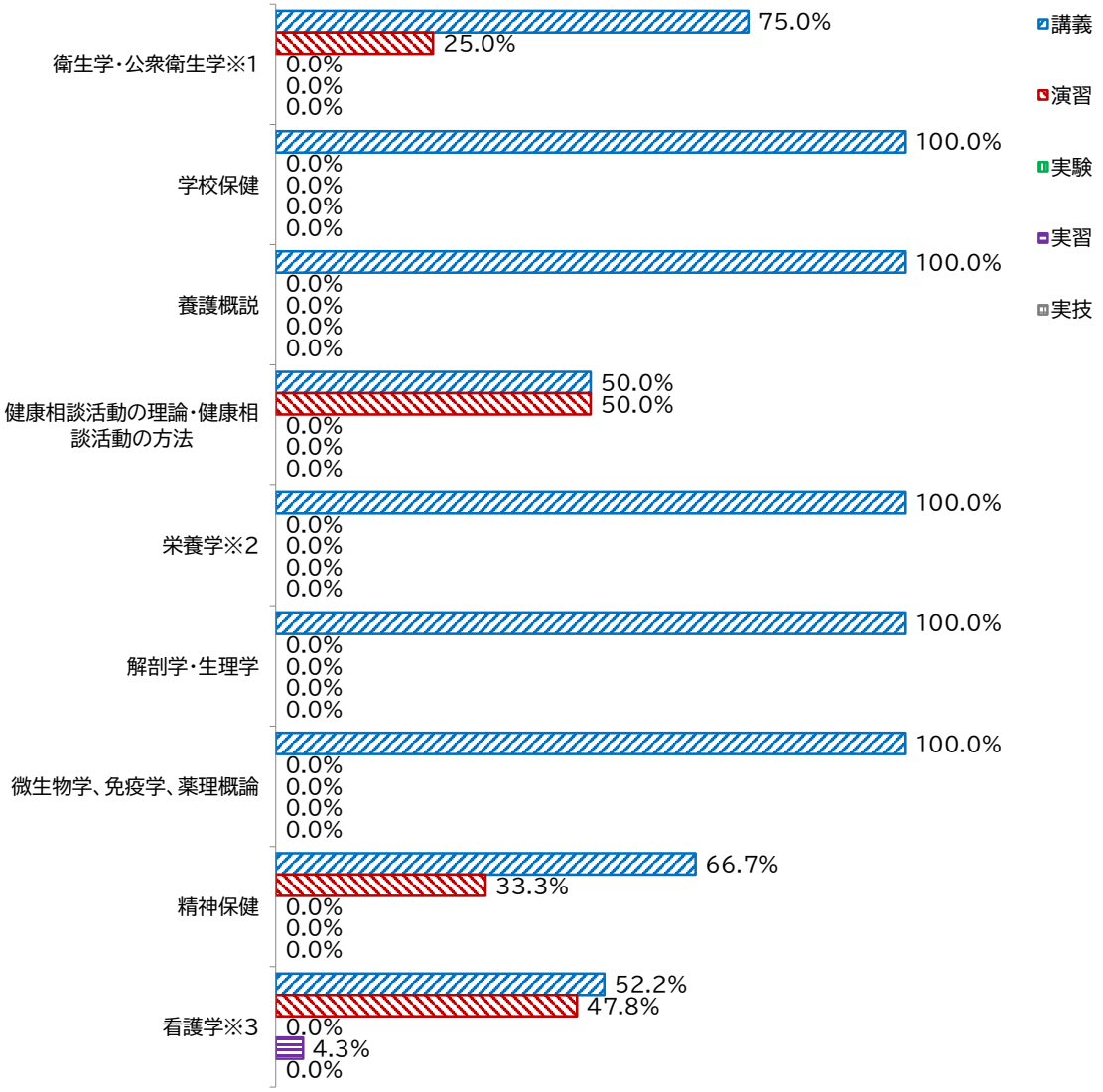


表21.養護教諭専修免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	1.0	4.7	0.0	0.0	0.0	17.6%	82.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.7
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	1.5	1.0	0.0	0.0	0.0	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	2.7	2.0	0.0	0.0	0.0	61.5%	46.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	1.5	0.5	0.0	0.0	0.0	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図36.【2】教育の基礎的理解に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

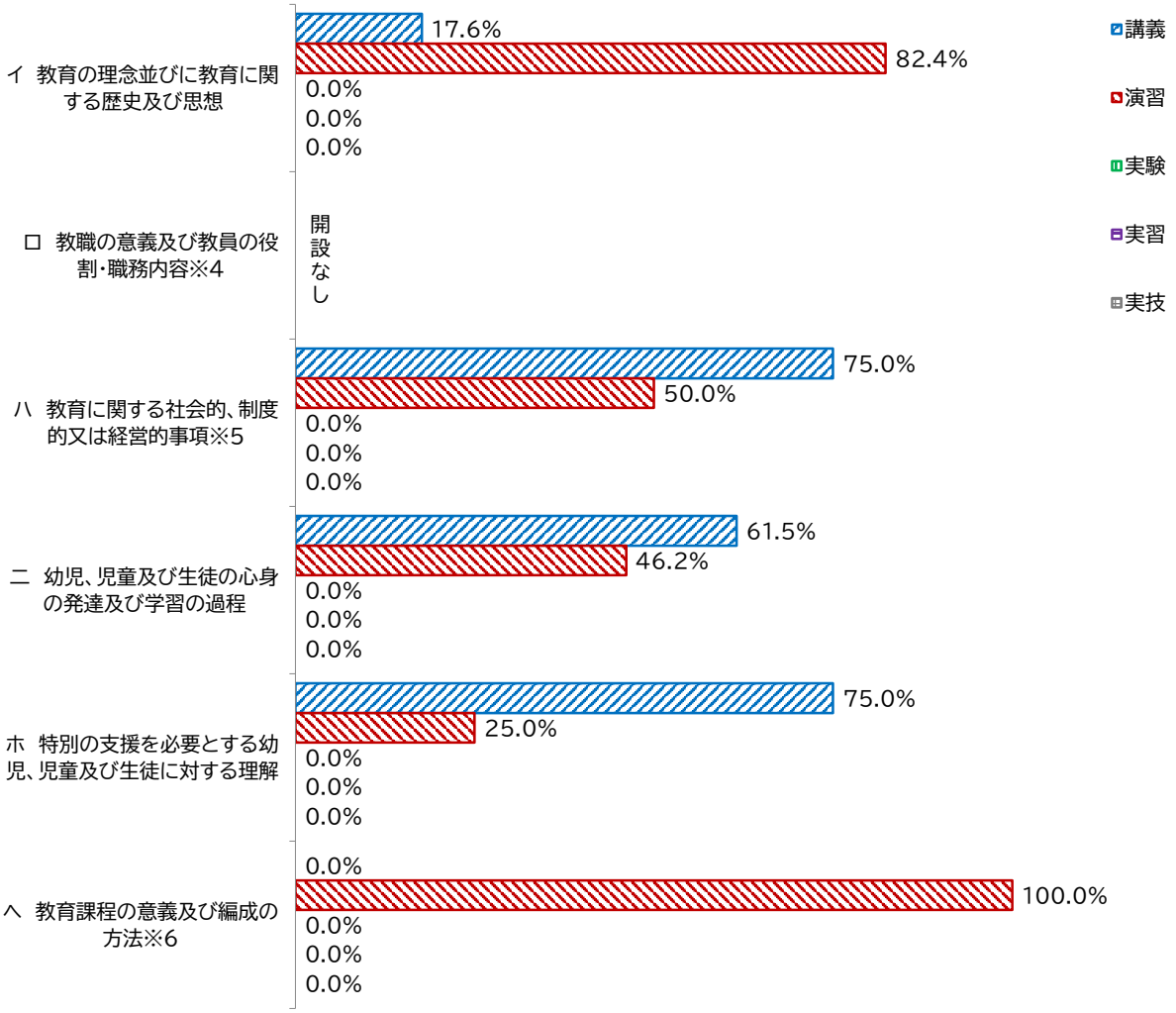


表22.養護教諭専修免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数 講義	演習	実験	実習	実技	科目数の割合 講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	0.5	7.0	0.0	0.0	0.0	6.7%	93.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5
	ロ 教育の方法及び技術※7	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0
	ハ 生徒指導の理論及び方法	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図37.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

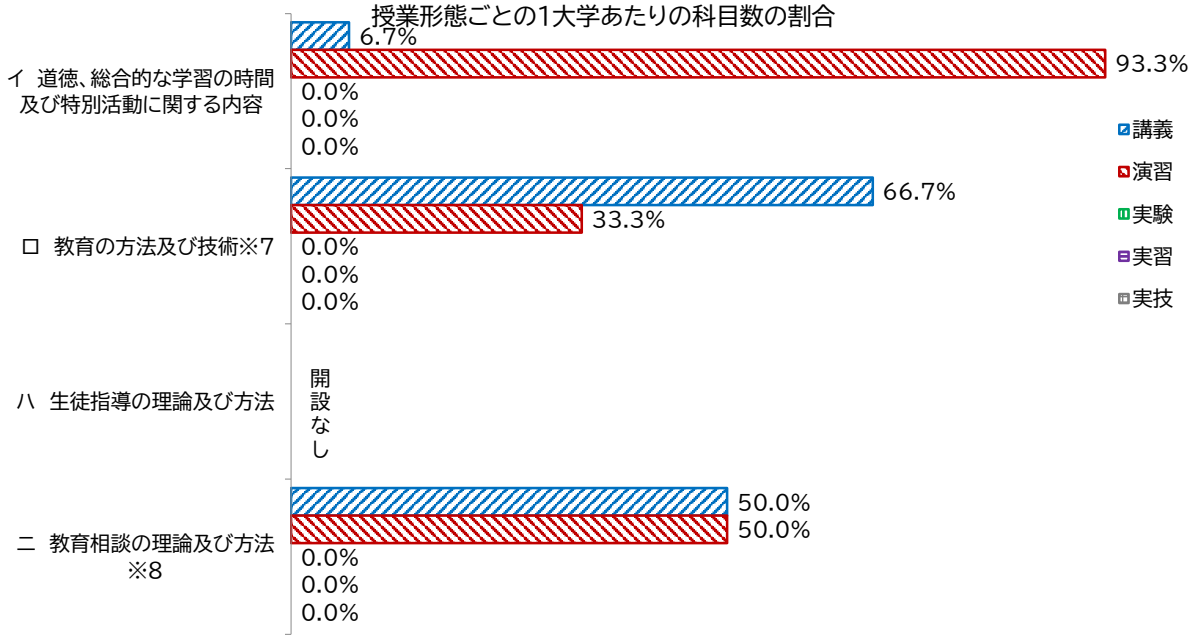


表23.養護教諭専修免許状の【4】教育実践に関する科目における授業形態

大科目名	中科目名	平均科目数 講義	演習	実験	実習	実技	科目数の割合 講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	5.0
	ロ 教職実践演習	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし

図38.【4】教育実践に関する科目 授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合

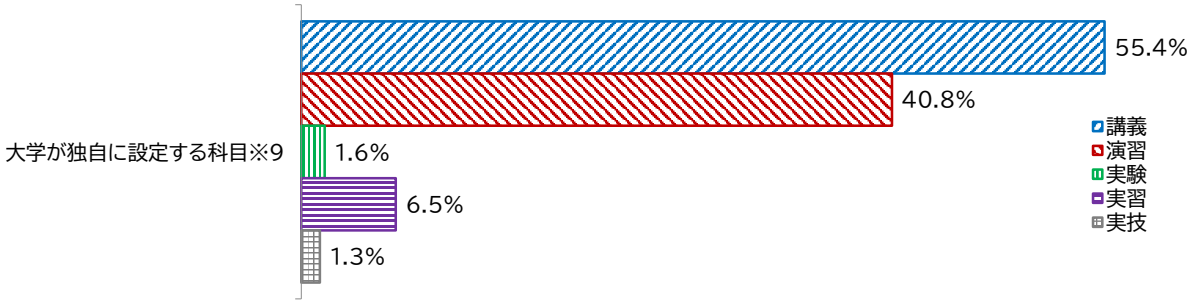


表24.養護教諭専修免許状の【5】大学が独自に設定する科目における授業形態

		平均科目数					科目数の割合					
大科目名	中科目名	講義	演習	実験	実習	実技	講義	演習	実験	実習	実技	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	17.9	13.1	0.5	2.1	0.4	55.4%	40.8%	1.6%	6.5%	1.3%	32.3

※9：大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図39.【5】大学が独自に設定する科目　授業形態ごとの1大学あたりの科目数の割合



＜結果＞

養護に関する科目

・「看護学」では講義形式が52.2%（平均6.0科目）、演習形式が47.8%（平均5.5科目）とほぼ同数で拮抗しており、実習形式も4.3%（平均0.5科目）開設されていた。

・「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」では、講義形式と演習形式が同数で最多となった。

教育の基礎的理解に関する科目

・「教育課程の意義及び編成の方法」では、開設科目の100.0%が演習形式（平均1.0科目）であり、演習以外の形態は見られなかった。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

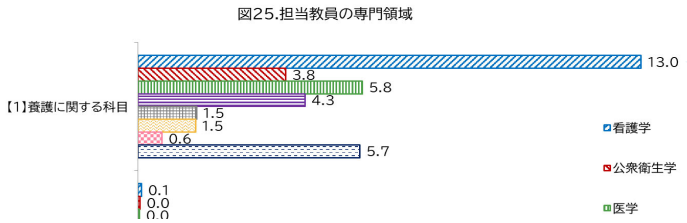
・「道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」では、演習形式の割合が93.3%（平均7.0科目）であり、他の中科目（33.3%～50.0%）と比較して演習の割合が高かった。

教育実践に関する科目

・「養護実習」において、実験形式が60.0%（平均3.0科目）、演習形式が40.0%（平均2.0科目）であった。

A-3. 教員の専門領域（複数回答あり）	
目的	養護教諭養成課程における大科目・中科目ごとの担当教員の専門領域（心理学・社会福祉学等）を検証し、開発プログラムをどの科目区分に導入することが現実的かを検討する。
方法	免許種別（一種／二種／専修）ごとに、大科目・中科目別の担当教員の専門領域を集計し、1大学当たりの平均科目数及び構成比を算出した。
結果	**（1）養護に関する科目及び教育系科目における専門領域の棲み分け** 「養護に関する科目」においては、看護の専門領域の教員が担当する割合が最も高く（一種：49.8%、二種：39.7%、専修：31.0%）、教育の中核を構成している。一方、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践」等の教育系科目においては、いずれの課程でも教育学を専門とする教員の割合（一種：66.4%～76.6%、二種：60.0%～75.0%、専修：30.0%～60.0%）が高かった。
示唆	**（1）心理学プログラムの導入領域と「非専門家」への支援** 心理学プログラムの導入先としては、心理学を専門とする教員の配置割合の観点だけで考えると、専門性のある教員の割合が相対的に高い「教育の基礎的理解に関する科目」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を選定することが有力である。しかし、当該領域であっても心理学の専門教員の割合は2割程度に留まっており、大半は教育学等を専門とする教員が担当している。そのため、導入に際しては、心理学の専門家ではない教員が指導することを前提とした教材の設計や支援策が必要と考えられる。 **（2）福祉学プログラム導入に向けた課題と既存教員の活用** 社会福祉学については、専門教員がほとんど配置されていなかった。そのため、全国的により福祉に関する専門的な内容を取扱うことは困難であると推察される。福祉の強みを身に付けるためには、プログラムの導入に限らず、制度設計や外部専門家の活用など多様な選択肢を含めた検討が必要と考えられる。

グラフ（棒グラフ）の見方



棒の高さ（平均値）

1大学あたり、その専門分野（看護学・教育学など）の教員が担当する科目が「平均何科目あるか」を示す。

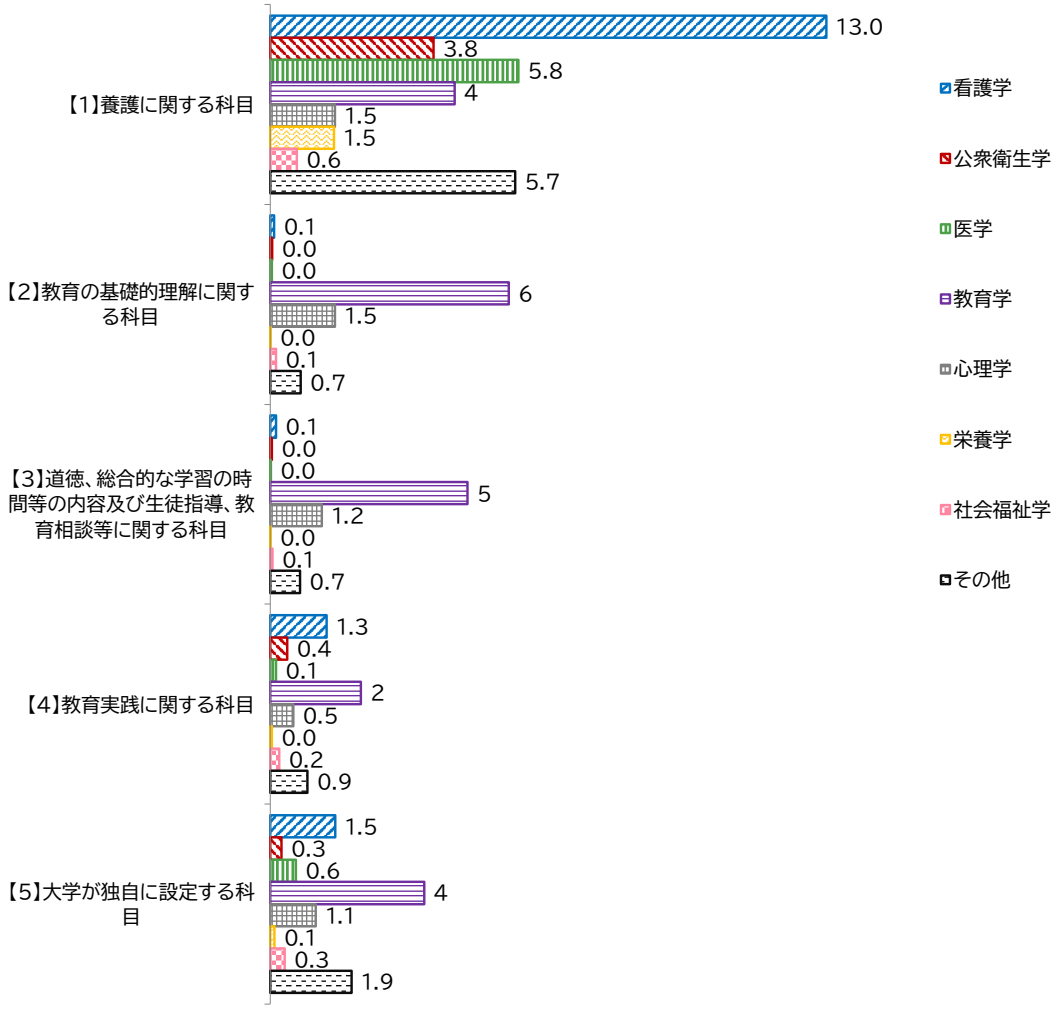
【結果の見方の例】
前提：1大学あたり、「養護に関する科目」は平均で27.3科目開設
「看護学」は平均13.0科目であり、全27.3科目のうち約半数を占めることから、この科目は看護領域の専門性を持つ教員が中心となって実施していることが読み取れる。公衆衛生学は平均3.8科目であり、「養護に関する科目」の1割強（約14%）にあたり、疫学や環境衛生など、看護学だけではカバーしきれない特定の専門知識が必要な授業群においてのみ、限定的に専門教員が配置されていることを示している。

養護教諭一種免許状

表25.養護教諭一種免許状の大科目における担当教員の専門領域

	平均科目数(割合)								
大科目名	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	13.0 (47.7%)	3.8 (14.0%)	5.8 (21.3%)	4.3 (15.8%)	1.5 (5.6%)	1.5 (5.5%)	0.6 (2.3%)	5.7 (21.0%)	27.3
【2】教育の基礎的理解に関する科目	0.1 (1.2%)	0.0 (0.6%)	0.0 (0.5%)	5.6 (75.8%)	1.5 (20.6%)	0.0 (0.1%)	0.1 (1.8%)	0.7 (9.6%)	7.4
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	0.1 (2.2%)	0.0 (0.6%)	0.0 (0.3%)	4.6 (76.6%)	1.2 (20.0%)	0.0 (0.1%)	0.1 (0.9%)	0.7 (11.6%)	6.0
【4】教育実践に関する科目	1.3 (41.4%)	0.4 (12.5%)	0.1 (4.2%)	2.1 (66.4%)	0.5 (16.9%)	0.0 (1.1%)	0.2 (6.7%)	0.9 (27.2%)	3.2
【5】大学が独自に設定する科目	1.5 (21.8%)	0.3 (3.7%)	0.6 (8.6%)	3.6 (51.7%)	1.1 (15.2%)	0.1 (1.4%)	0.3 (4.9%)	1.9 (27.3%)	7.0

図40.一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

教育学及び看護学の棲み分け

・「養護に関する科目」では、看護学(47.7%)及び医学(21.3%)の専門教員が担当の主体となっている。

・「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」等の教育系科目群では、教育学(約76%)の専門教員が中心的な役割を担っている。

心理学専門教員の関与

・「教育の基礎的理解に関する科目(20.6%)」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目(20.0%)」において、約2割の科目を心理学の専門教員が担当しており、一定の関与が見られる。

社会福祉学専門教員の関与

・社会福祉学の専門教員の担当科目数はいずれの科目群においても開設科目の7%以下であり、関与は限定的である。

表26.養護教諭一種免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名		平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.8 (27.3%)	1.8 (57.7%)	0.9 (27.8%)	0.2 (4.8%)	0.1 (2.8%)	0.0 (1.4%)	0.1 (3.4%)	0.7 (21.6%)	3.1
	学校保健	0.9 (43.7%)	0.4 (16.3%)	0.2 (11.0%)	1.1 (48.6%)	0.1 (6.5%)	0.1 (3.7%)	0.0 (2.0%)	0.6 (28.6%)	2.2
	養護概説	0.6 (34.6%)	0.2 (9.9%)	0.1 (3.7%)	1.0 (59.7%)	0.2 (9.4%)	0.0 (1.6%)	0.0 (1.0%)	0.6 (33.0%)	1.7
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	0.8 (45.9%)	0.3 (17.9%)	0.1 (5.6%)	0.7 (41.8%)	0.4 (20.9%)	0.0 (2.6%)	0.1 (3.1%)	0.5 (27.0%)	1.7
	栄養学※2	0.1 (7.4%)	0.1 (5.3%)	0.3 (15.9%)	0.1 (4.2%)	0.0 (1.6%)	1.1 (63.0%)	0.0 (0.5%)	0.4 (21.2%)	1.7
	解剖学・生理学	0.2 (10.0%)	0.1 (5.0%)	1.5 (58.9%)	0.1 (3.9%)	0.0 (1.1%)	0.1 (2.9%)	0.0 (0.0%)	0.8 (31.8%)	2.5
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.2 (10.2%)	0.2 (9.1%)	1.2 (50.7%)	0.0 (1.1%)	0.0 (1.1%)	0.1 (4.7%)	0.0 (0.0%)	1.0 (40.5%)	2.4
	精神保健	0.9 (52.5%)	0.1 (2.9%)	0.4 (21.1%)	0.1 (5.4%)	0.4 (24.5%)	0.0 (0.0%)	0.2 (8.3%)	0.1 (7.8%)	1.8
	看護学※3	8.3 (81.2%)	0.7 (7.0%)	1.2 (11.7%)	1.1 (10.7%)	0.2 (2.3%)	0.1 (0.5%)	0.2 (2.4%)	1.1 (11.2%)	10.2

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図41.【1】養護に関する科目
一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

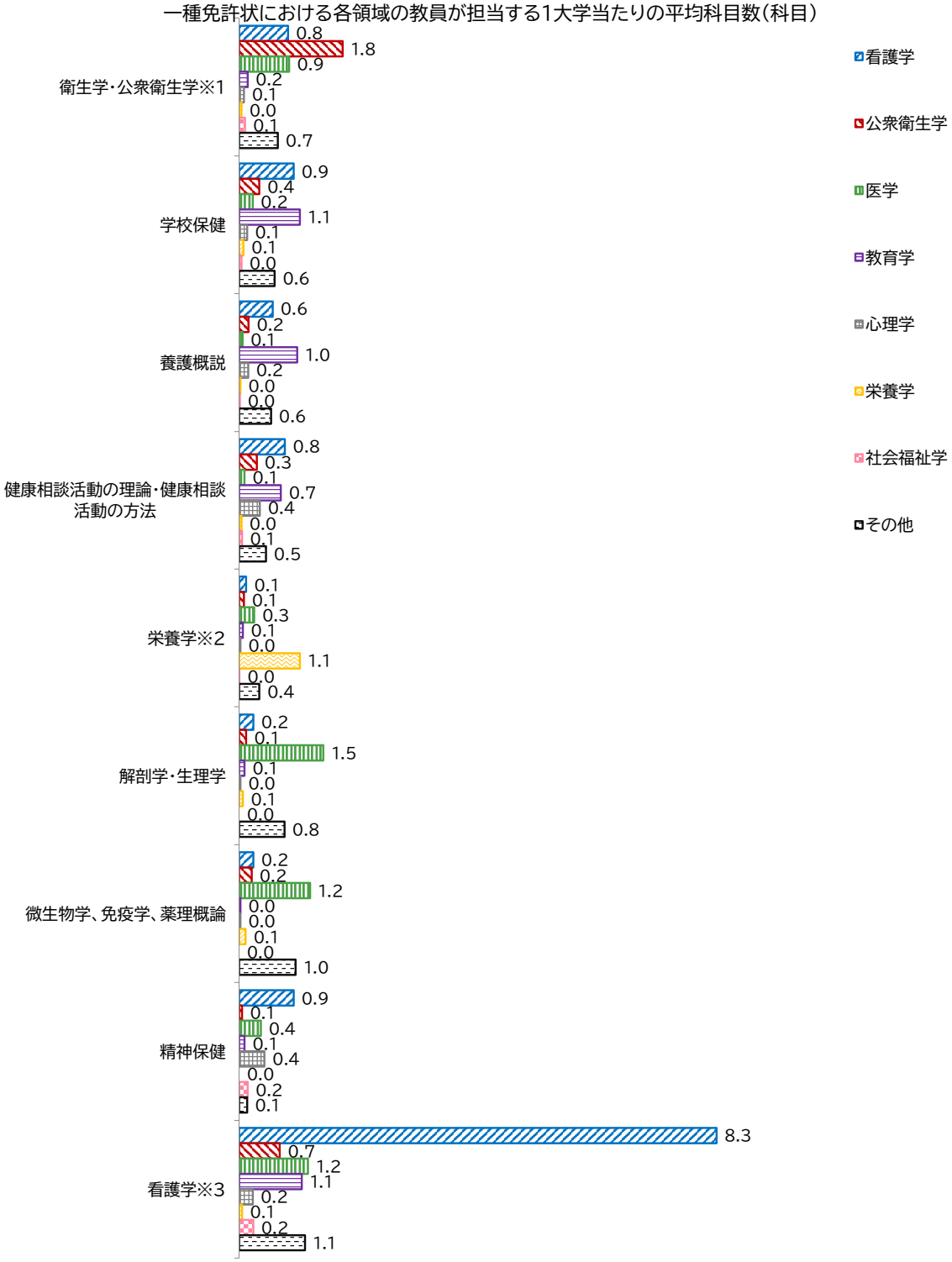


表27.養護教諭一種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.1 (91.9%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.5%)	0.1 (9.6%)	1.2
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	0.0 (2.4%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.8%)	1.0 (89.8%)	0.1 (7.1%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.1 (11.8%)	1.1
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.6%)	1.3 (90.4%)	0.0 (2.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (6.4%)	1.4
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.0 (3.2%)	0.0 (1.9%)	0.0 (0.0%)	0.5 (35.9%)	1.1 (78.2%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (10.3%)	1.4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.6%)	0.8 (70.5%)	0.3 (27.9%)	0.0 (0.0%)	0.1 (9.0%)	0.2 (13.9%)	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (92.2%)	0.0 (0.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.9%)	0.1 (7.8%)	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図42.【2】教育の基礎的理解に関する科目
一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

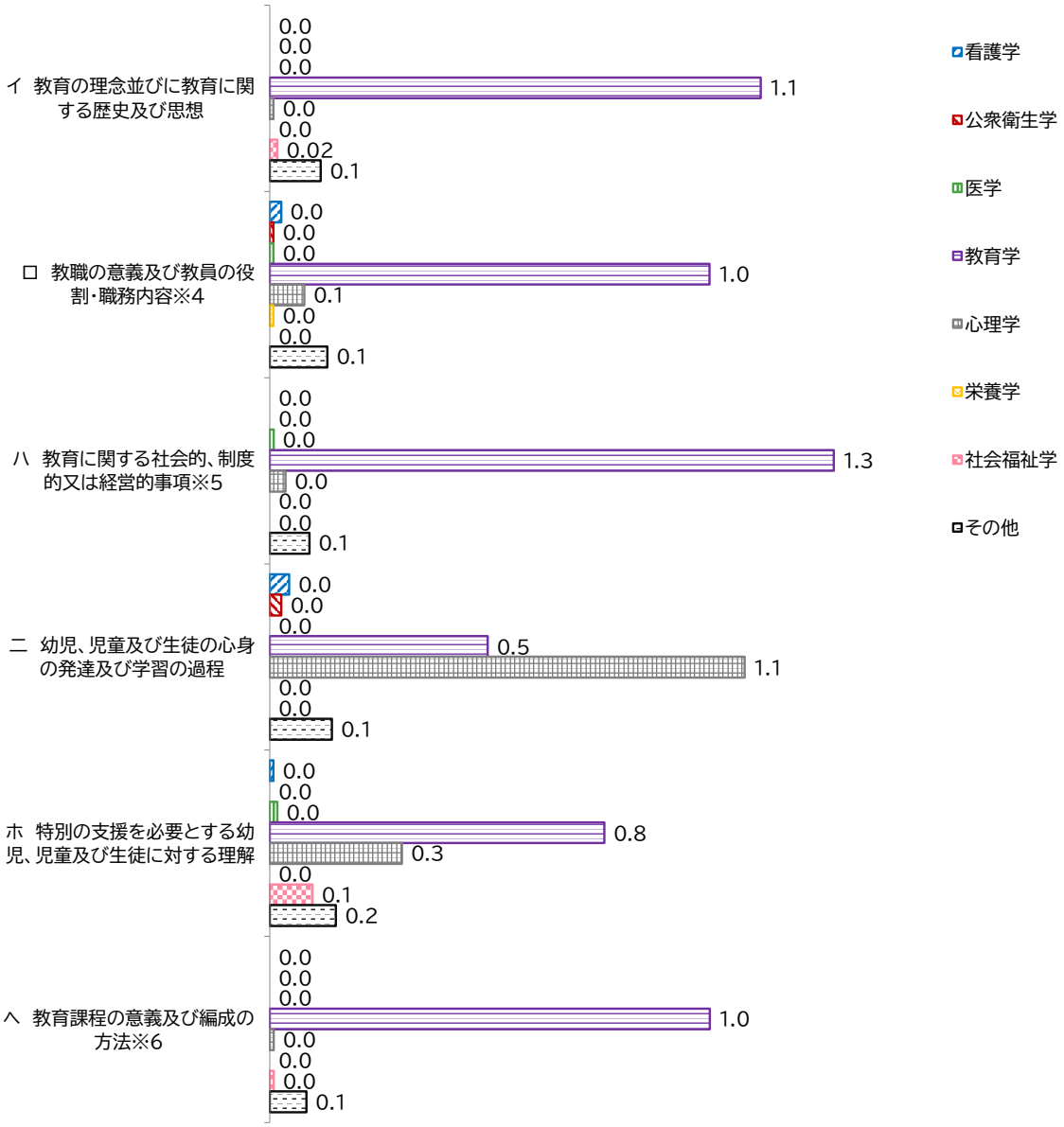


表28.養護教諭一種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	0.0 (0.4%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.1 (87.6%)	0.1 (4.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (11.7%)	2.4
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.0 (2.6%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.0%)	1.1 (82.1%)	0.1 (8.6%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.7%)	0.2 (17.9%)	1.3
	ハ 生徒指導の理論及び方法	0.1 (4.7%)	0.0 (1.6%)	0.0 (1.6%)	0.9 (79.5%)	0.3 (23.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.6%)	0.1 (7.1%)	1.1
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	0.0 (3.1%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.5 (44.1%)	0.7 (64.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (2.4%)	0.1 (8.7%)	1.1

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図43.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

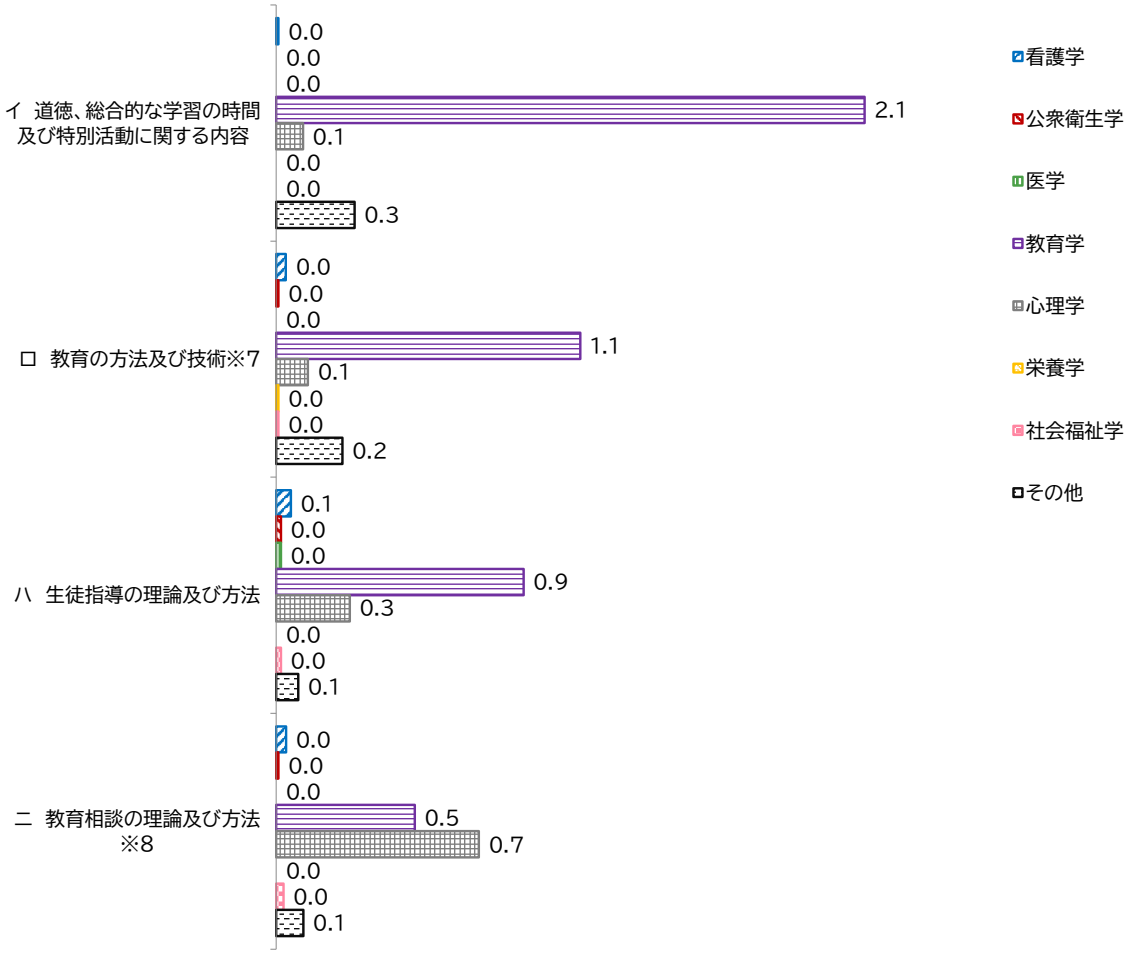


表29.養護教諭一種免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	0.8 (39.2%)	0.3 (12.1%)	0.1 (2.9%)	1.4 (64.6%)	0.4 (17.1%)	0.0 (0.8%)	0.1 (6.7%)	0.5 (25.8%)	2.1
	ロ 教職実践演習	0.5 (46.2%)	0.1 (13.4%)	0.1 (6.7%)	0.8 (70.6%)	0.2 (16.8%)	0.0 (1.7%)	0.1 (6.7%)	0.3 (30.3%)	1.1

図44.【4】教育実践に関する科目
一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

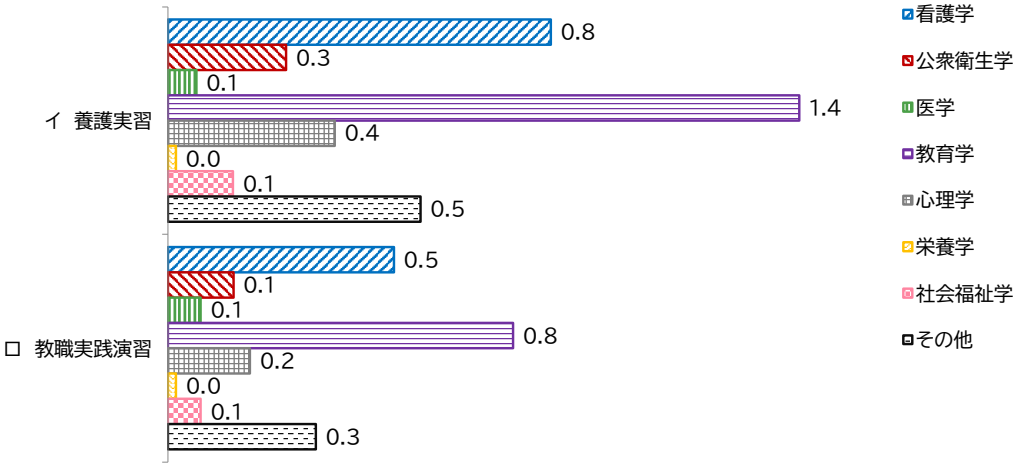
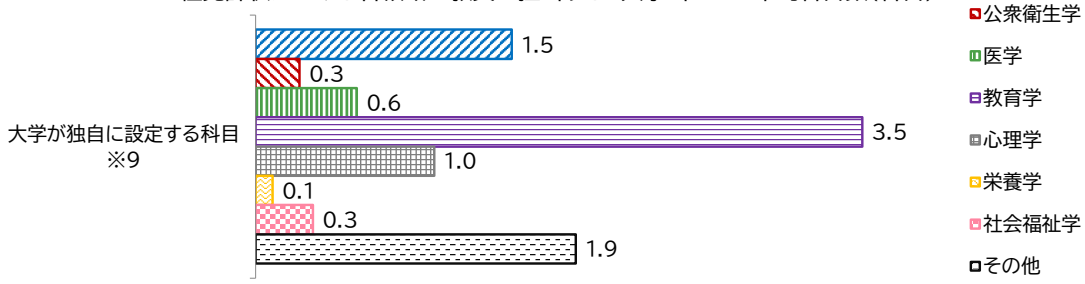


表30.養護教諭一種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	1.5 (21.4%)	0.3 (3.7%)	0.6 (8.5%)	3.5 (50.7%)	1.0 (14.9%)	0.1 (1.4%)	0.3 (4.8%)	1.9 (26.8%)	7.0

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図45.【5】大学が独自に設定する科目
一種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「精神保健」では心理学の専門教員が24.5%に関与しているが、「健康相談活動の理論・健康相談活動の方法」では看護学(45.9%)・教育学(41.8%)の専門教員が中心であり、心理学の専門教員は20.9%に留まる。

教育の基礎的理解に関する科目

・「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」においては、心理学の専門教員が78.2%を占め、教育学(35.9%)の専門教員の担当科目割合を上回っている。
・「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」では教育学(70.5%)の専門教員が主体であり、心理学の専門教員の担当科目割合は27.9%であった。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・「教育相談の理論及び方法」では、心理学の専門教員の担当科目割合が64.6%を占め、教育学(44.1%)の専門教員を上回る配置であった。

教育実践に関する科目

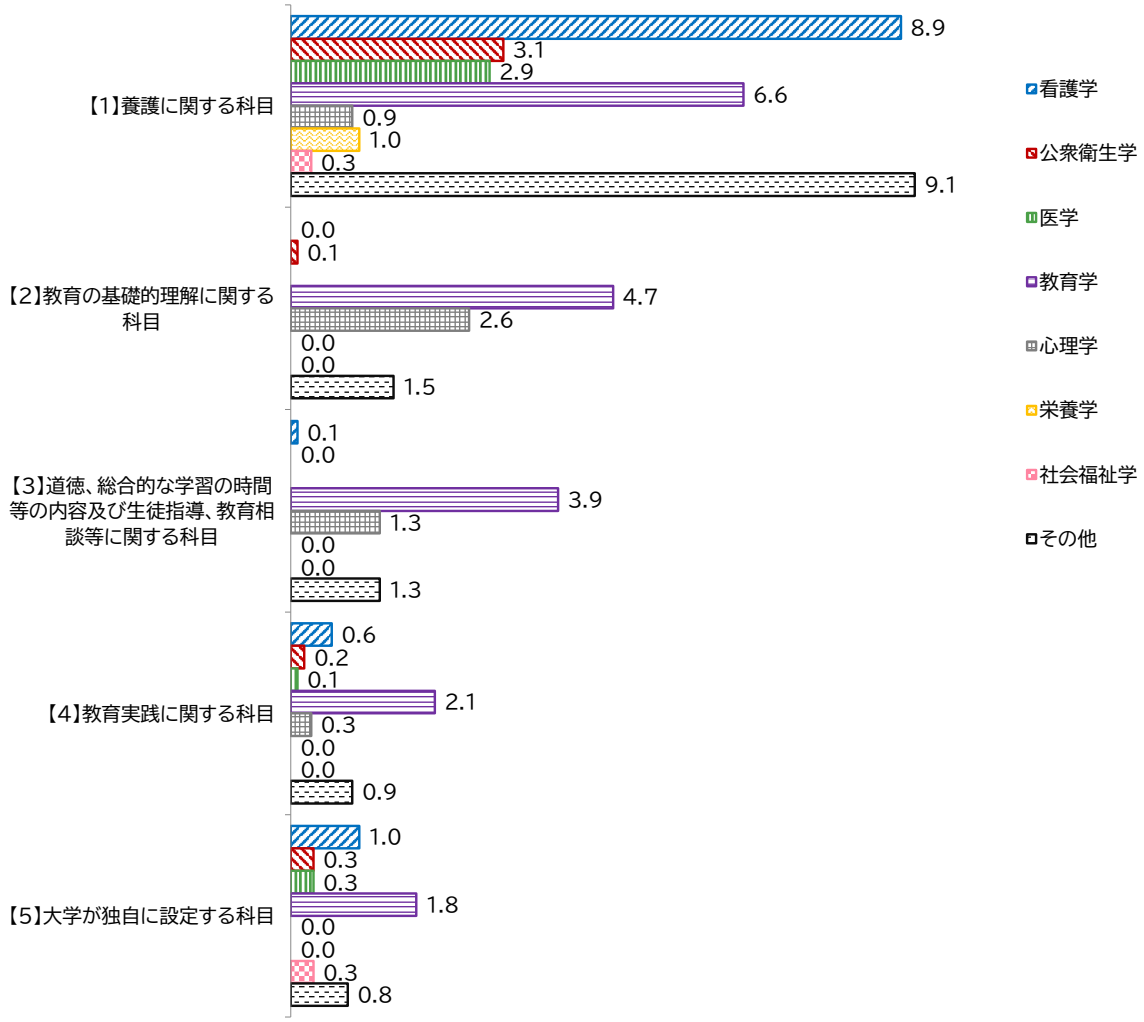
・「養護実習」「教職実践演習」ともに教育学の専門教員が6～7割、看護学の専門教員が4割程度を担当しており、心理学の専門教員の関与は17%程度であった。

養護教諭二種免許状

表31.養護教諭二種免許状の大科目における担当教員の専門領域

	平均科目数(割合)								
大科目名	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	8.9 (44.7%)	3.1 (15.6%)	2.9 (14.6%)	6.6 (33.2%)	0.9 (4.5%)	1.0 (5.0%)	0.3 (1.5%)	9.1 (45.7%)	19.9
【2】教育の基礎的理解に関する科目	0.0 (0.0%)	0.1 (1.3%)	0.0 (0.0%)	4.7 (60.0%)	2.6 (33.2%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5 (19.1%)	7.8
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	0.1 (1.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	3.9 (73.6%)	1.3 (24.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.3 (24.5%)	5.3
【4】教育実践に関する科目	0.6 (21.4%)	0.2 (7.1%)	0.1 (3.6%)	2.1 (75.0%)	0.3 (10.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.9 (32.1%)	2.8
【5】大学が独自に設定する科目	1.0 (30.0%)	0.3 (10.0%)	0.3 (10.0%)	1.8 (55.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (10.0%)	0.8 (25.0%)	3.3

図46.二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

教育学及び看護学の専門教員の配置

・「養護に関する科目」では看護学の専門教員(44.7%)及びその他(45.7%)が主体となっている。

・教育系科目群では教育学の専門教員が6～7割を占めるが、一種免許状と比較して心理学の専門教員の担当科目割合が高い傾向にある。

心理学専門教員の関与

・心理学の専門教員の担当科目割合は「教育の基礎的理解に関する科目」において33.2%、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」において24.5%を占め、基礎教育における心理学教員の割合は高い。

社会福祉学専門教員の関与

・「大学が独自に設定する科目」において社会福祉学の専門教員の担当科目割合は10.0%であったが、それ以外の科目群では0.0%(担当なし)であった。

表32.養護教諭二種免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.6 (37.5%)	0.9 (56.3%)	0.4 (25.0%)	0.2 (12.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.6 (37.5%)	1.6
	学校保健	0.3 (18.8%)	0.1 (6.3%)	0.0 (0.0%)	1.0 (62.5%)	0.2 (12.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.1 (68.8%)	1.6
	養護概説	0.7 (36.8%)	0.3 (15.8%)	0.2 (10.5%)	1.3 (68.4%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.4 (73.7%)	1.9
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	0.3 (23.1%)	0.1 (7.7%)	0.0 (0.0%)	0.7 (53.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.8 (61.5%)	1.3
	栄養学※2	0.0 (0.0%)	0.3 (23.1%)	0.3 (23.1%)	0.3 (23.1%)	0.0 (0.0%)	0.9 (69.2%)	0.0 (0.0%)	0.6 (46.2%)	1.3
	解剖学・生理学	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.8 (50.0%)	0.3 (18.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (62.5%)	1.6
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.0 (0.0%)	0.5 (26.3%)	0.5 (26.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.6 (84.2%)	1.9
	精神保健	0.5 (38.5%)	0.1 (7.7%)	0.0 (0.0%)	0.5 (38.5%)	0.7 (53.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (7.7%)	1.3
	看護学※3	6.5 (87.8%)	0.8 (10.8%)	0.7 (9.5%)	2.3 (31.1%)	0.0 (0.0%)	0.1 (1.4%)	0.3 (4.1%)	1.9 (25.7%)	7.4

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図47.【1】養護に関する科目
二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

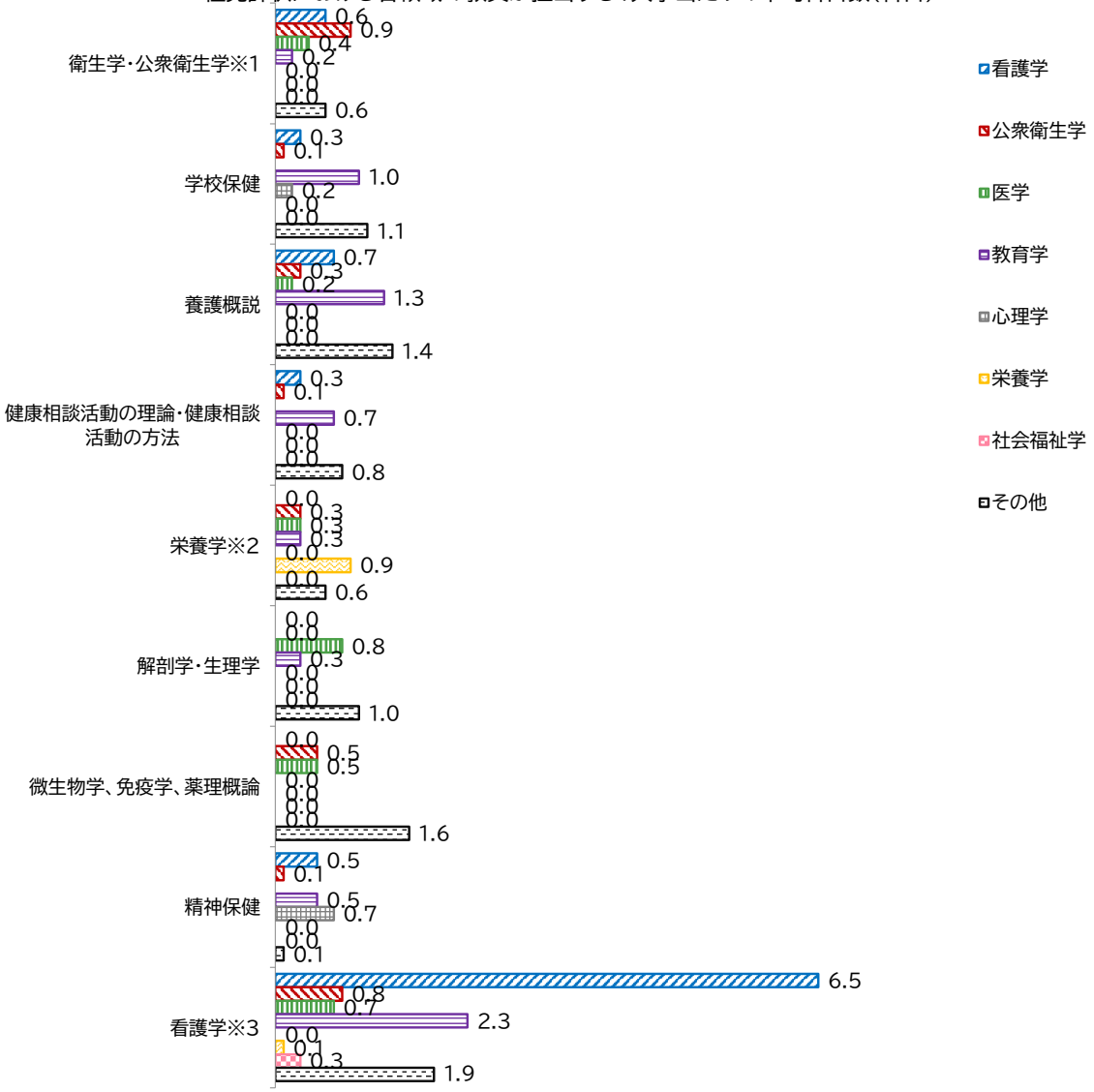


表33.養護教諭二種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.1 (84.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (15.4%)	1.3
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	0.0 (0.0%)	0.1 (8.3%)	0.0 (0.0%)	1.0 (83.3%)	0.1 (8.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (16.7%)	1.2
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.1 (83.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (8.3%)	1.3
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.8 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (16.7%)	1.8
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.6 (54.5%)	0.7 (63.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (27.3%)	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (90.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (36.4%)	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図48.【2】教育の基礎的理解に関する科目
二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

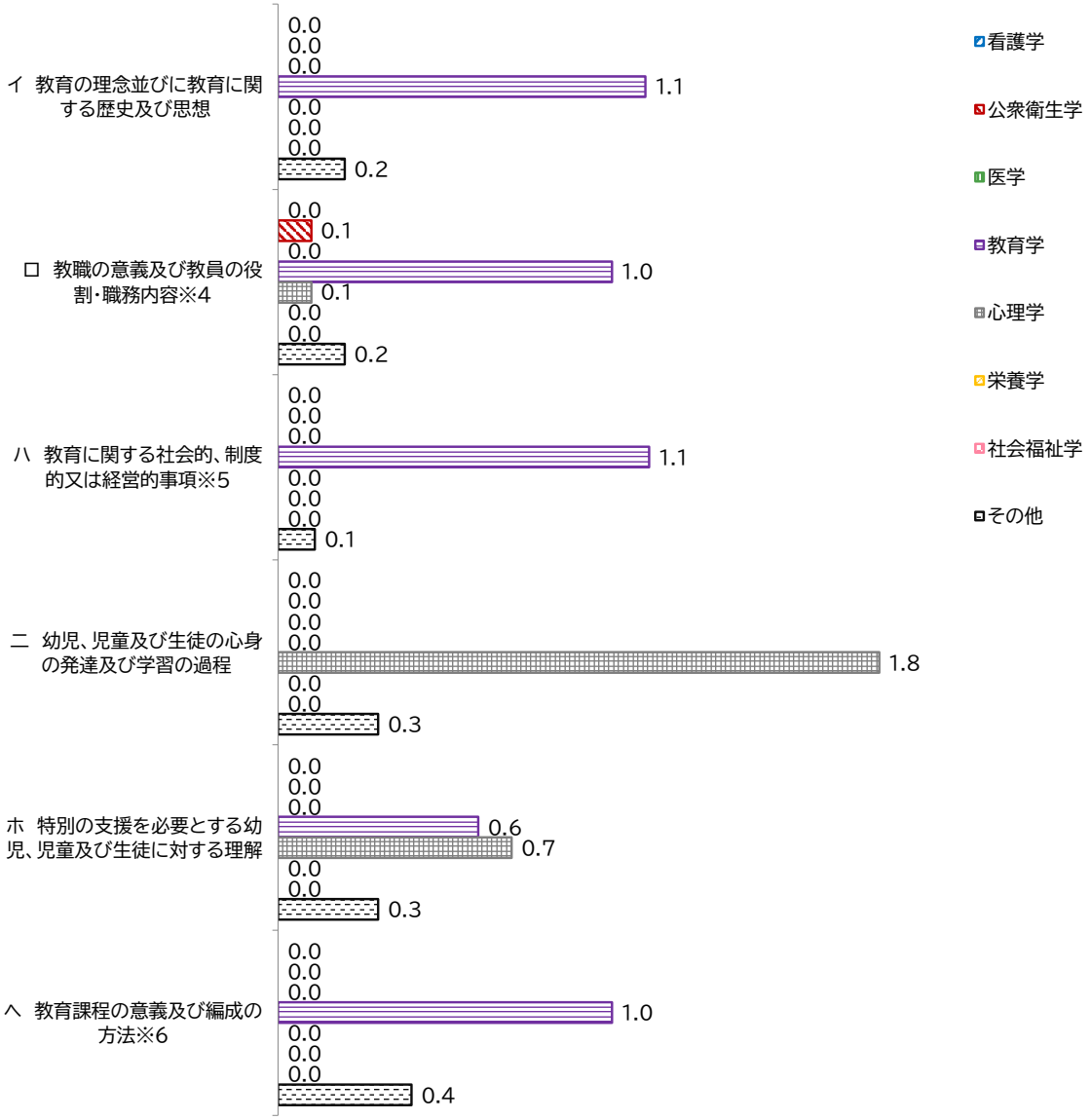


表34.養護教諭二種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5 (83.3%)	0.1 (5.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (16.7%)	1.8
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.1 (6.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.2 (80.0%)	0.1 (6.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (46.7%)	1.5
	ハ 生徒指導の理論及び方法	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (70.0%)	0.4 (40.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (20.0%)	1.0
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.6 (55.6%)	0.8 (77.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (11.1%)	1.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図49.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

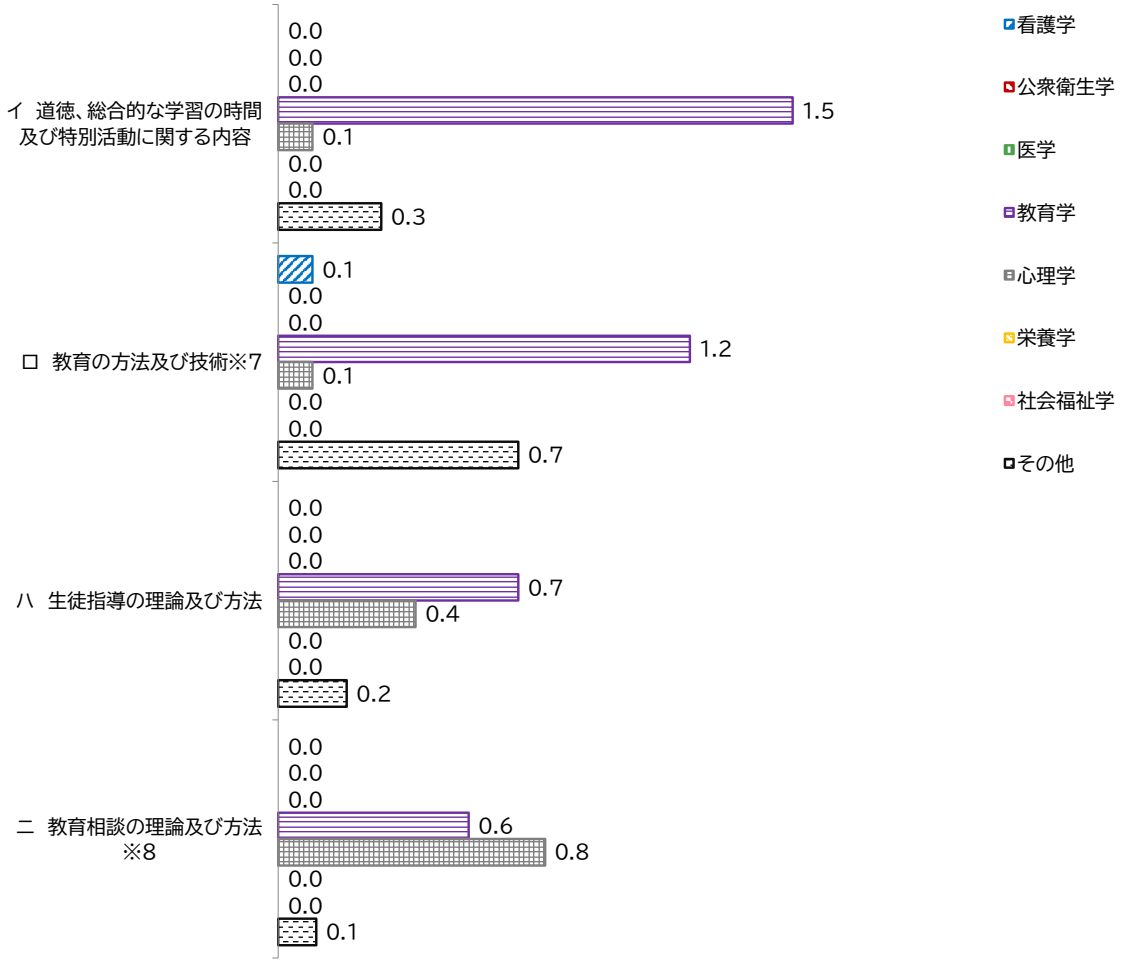


表35.養護教諭二種免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	0.4 (22.2%)	0.1 (5.6%)	0.0 (0.0%)	1.3 (72.2%)	0.2 (11.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (27.8%)	1.8
	ロ 教職実践演習	0.2 (20.0%)	0.1 (10.0%)	0.1 (10.0%)	0.8 (80.0%)	0.1 (10.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (40.0%)	1.0

図50.【4】教育実践に関する科目
二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

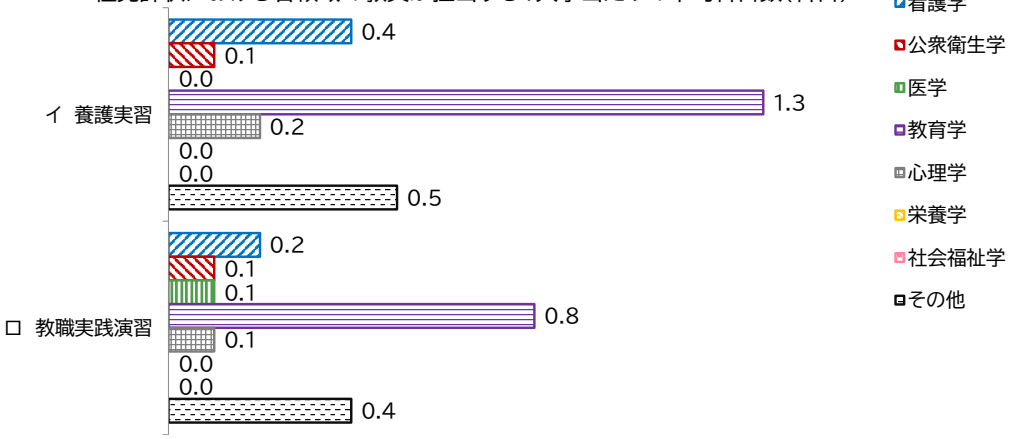
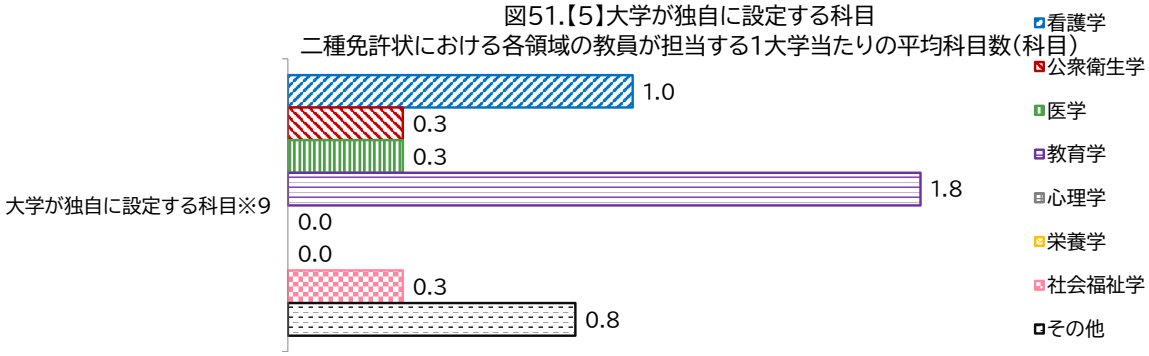


表36.養護教諭二種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	1.0 (30.0%)	0.3 (10.0%)	0.3 (10.0%)	1.8 (55.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (10.0%)	0.8 (25.0%)	3.3

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図51.【5】大学が独自に設定する科目
二種免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「精神保健」では心理学の専門教員が53.8%を占め、看護学・教育学(各38.5%)の専門教員を上回っている。
・社会福祉学は「看護学」の一部(4.1%)を除き、配置が見られなかった。

教育の基礎的理解に関する科目

・「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」においては、開設科目の100.0%を心理学の専門教員が担当している。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・「教育相談の理論及び方法」では心理学の専門教員が77.8%、「生徒指導の理論及び方法」でも心理学の専門教員が40.0%を担当しており、指導・相談領域での心理学の専門教員の関与があった。

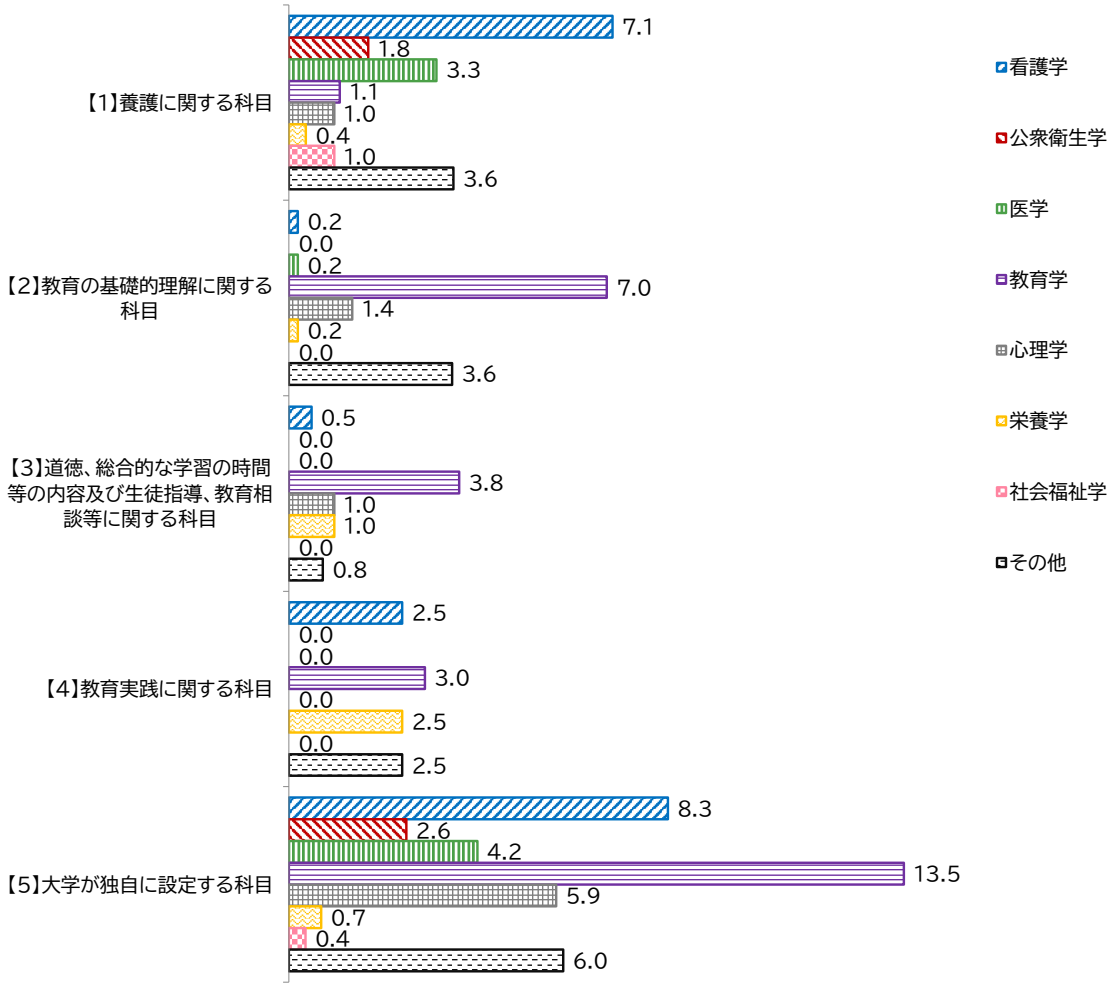
養護教諭専修免許状

表37.養護教諭専修免許状の大科目における担当教員の専門領域

	平均科目数(割合)								
大科目名	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	7.1 (28.5%)	1.8 (7.0%)	3.3 (13.0%)	1.1 (4.5%)	1.0 (4.0%)	0.4 (1.5%)	1.0 (4.0%)	3.6 (14.5%)	25.0
【2】教育の基礎的理解に関する科目	0.2 (1.3%)	0.0 (0.0%)	0.2 (1.3%)	7.0 (46.7%)	1.4 (9.3%)	0.2 (1.3%)	0.0 (0.0%)	3.6 (24.0%)	15.0
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	0.5 (4.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	3.8 (30.0%)	1.0 (8.0%)	1.0 (8.0%)	0.0 (0.0%)	0.8 (6.0%)	12.5
【4】教育実践に関する科目	2.5 (50.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	3.0 (60.0%)	0.0 (0.0%)	2.5 (50.0%)	0.0 (0.0%)	2.5 (50.0%)	5.0
【5】大学が独自に設定する科目	8.3 (25.9%)	2.6 (8.0%)	4.2 (12.9%)	13.5 (42.0%)	5.9 (18.3%)	0.7 (2.2%)	0.4 (1.1%)	6.0 (18.7%)	32.3

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図52.担当教員の専門領域
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



<結果>

全体傾向

・「養護に関する科目」では看護学(28.5%)の専門教員が主体であるが、その他領域の教員も含まれる。

・専修免許状の中核である「大学が独自に設定する科目」では、教育学の専門教員(42.0%)、看護学の専門教員(25.9%)に加え、心理学の専門教員(18.3%)が一定の比率を占めている。

社会福祉学専門教員の関与

・社会福祉学の専門教員は「養護に関する科目」で4.0%、「大学が独自に設定する科目」で1.1%の担当割合であり限定的である。

表38.養護教諭専修免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.0 (0.0%)	0.3 (25.0%)	0.3 (25.0%)	0.3 (25.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.3
	学校保健	0.0 (0.0%)	0.7 (18.2%)	0.7 (18.2%)	0.3 (9.1%)	0.0 (0.0%)	1.0 (27.3%)	0.7 (18.2%)	1.0 (27.3%)	3.7
	養護概説	※ 担当教員の専門領域について回答なし								2.0
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	※ 担当教員の専門領域について回答なし								2.0
	栄養学※2	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (50.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0
	解剖学・生理学	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (100.0%)	1.0
	精神保健	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5
	看護学※3	11.5 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	11.5

図53.【1】養護に関する科目
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

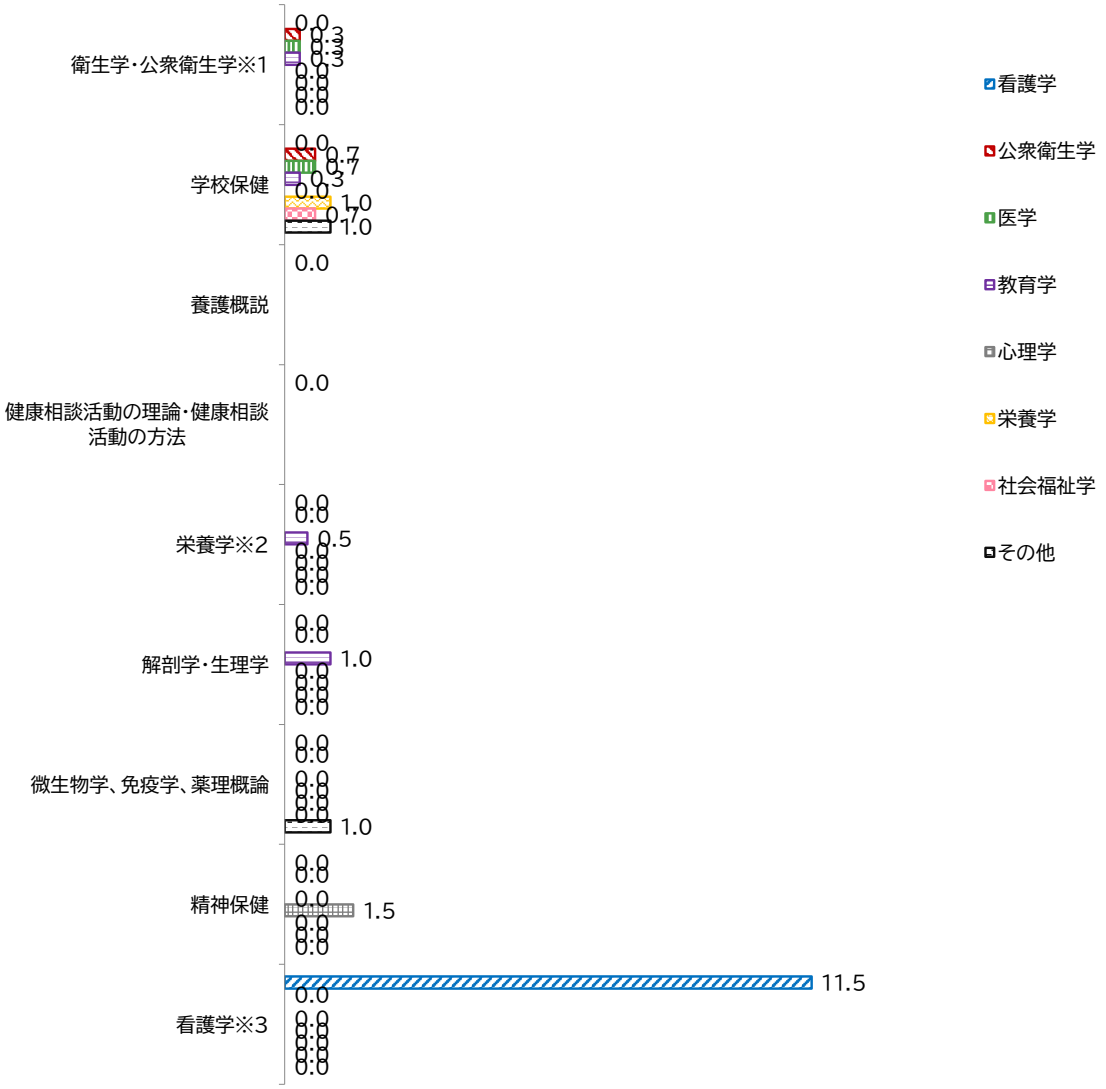


表39.養護教諭専修免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.3 (5.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	5.3 (94.1%)	1.0 (17.6%)	0.3 (5.9%)	0.0 (0.0%)	0.3 (5.9%)	5.7
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	開設なし								開設なし
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5 (75.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.0
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (7.7%)	0.0 (0.0%)	1.7 (38.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (7.7%)	4.3
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (50.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.0
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図54.【2】教育の基礎的理解に関する科目
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

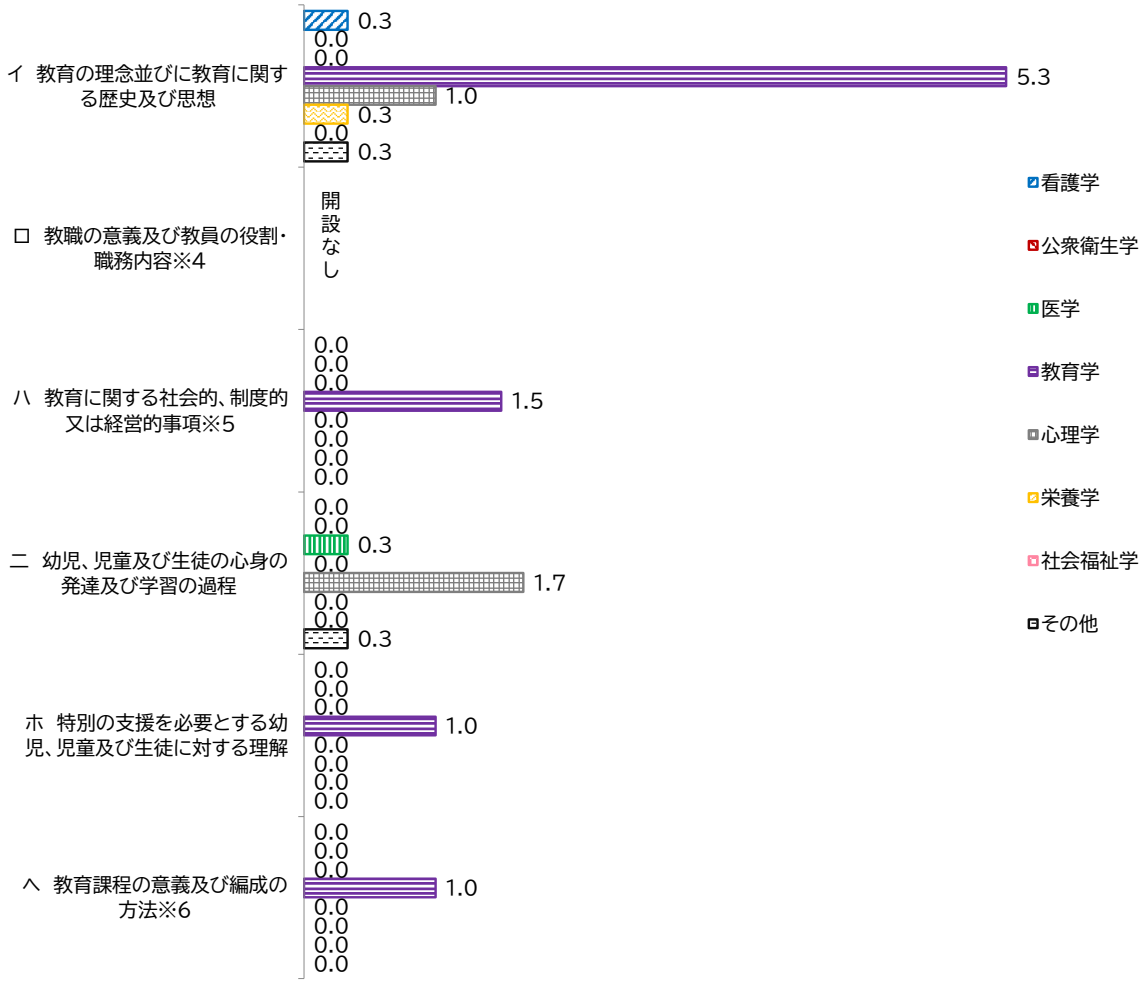


表40.養護教諭専修免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の専門領域

大科目名	中科目名	平均科目数(割合) 看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	1.0 (13.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	7.5 (100.0%)	1.0 (13.3%)	1.0 (13.3%)	0.0 (0.0%)	1.0 (13.3%)	7.5
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.0 (66.7%)	0.0 (0.0%)	1.0 (33.3%)	3.0
	ハ 生徒指導の理論及び方法	開設なし								開設なし
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	※ 担当教員の専門領域について回答なし								2.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図55.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

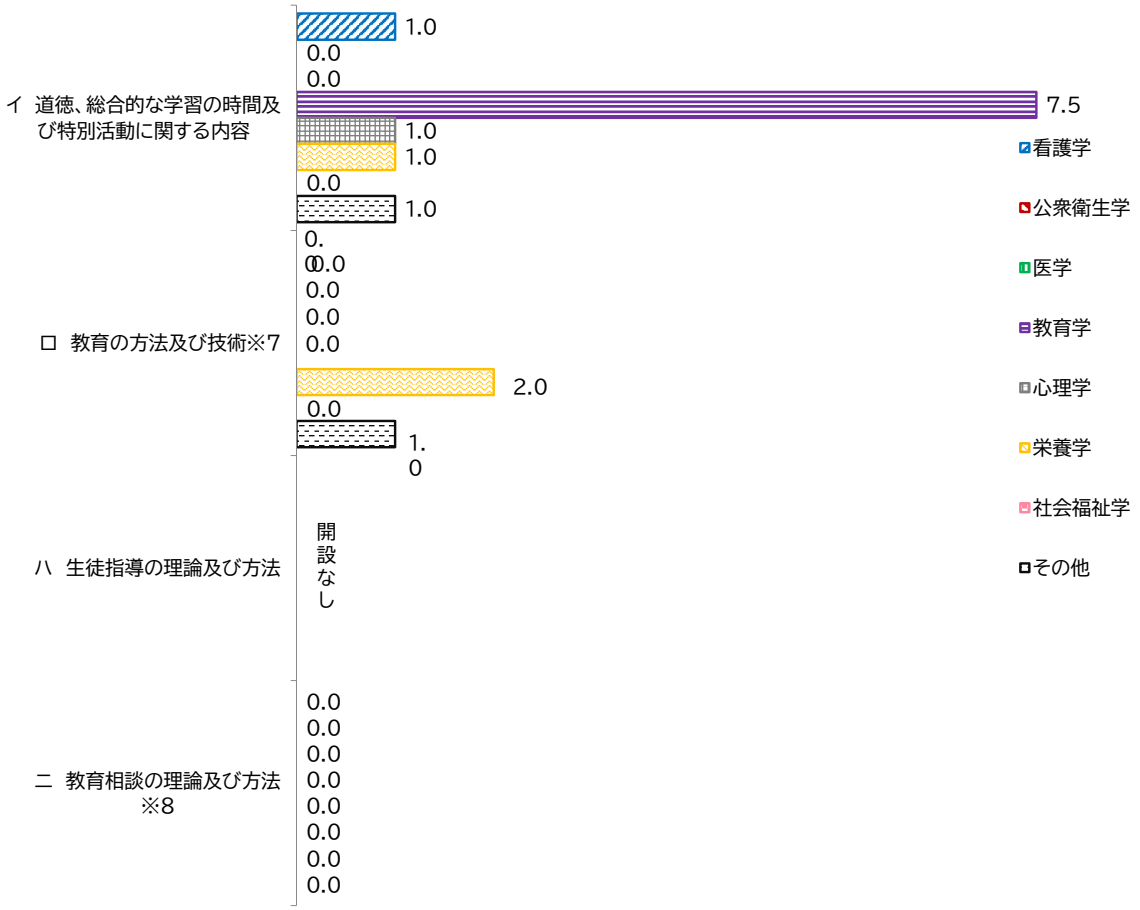


表41.養護教諭専修免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の専門領域

		平均科目数(割合)								
大科目名	中科目名	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	5.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	5.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	5.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	5.0 (100.0%)	5.0
	ロ 教職実践演習	開設なし								開設なし

図56.【4】教育実践に関する科目
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

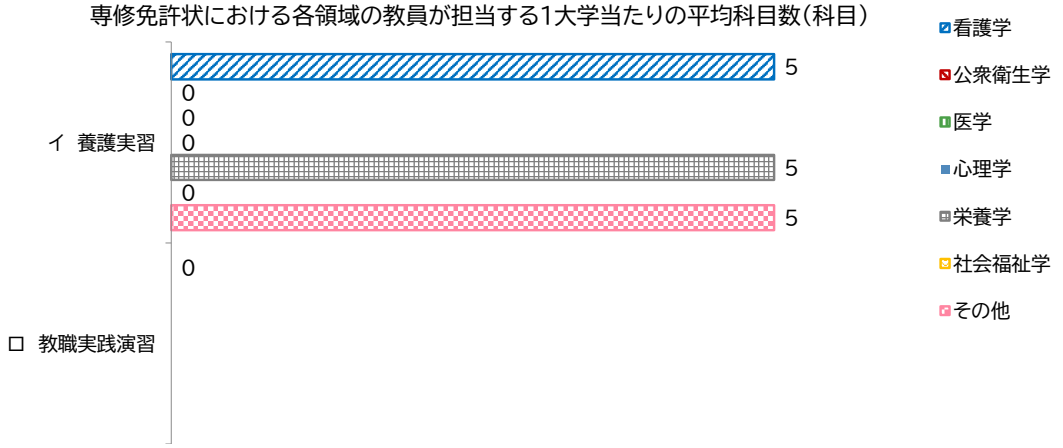
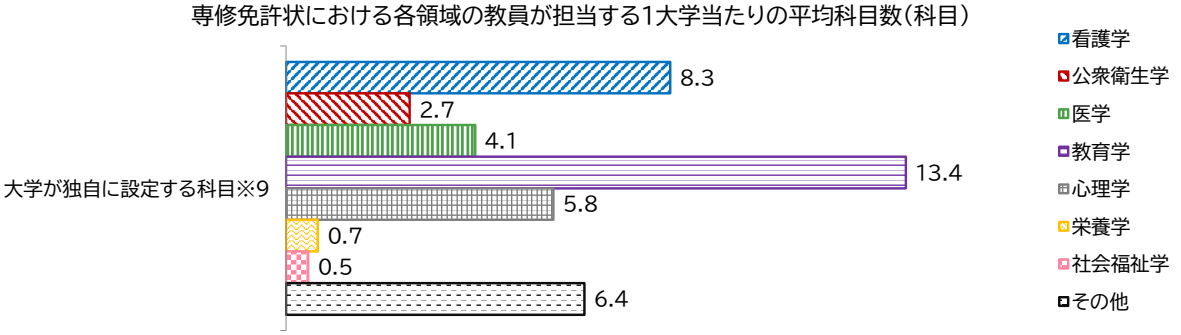


表42.養護教諭専修免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の専門領域

		平均科目数(割合)								
大科目名	中科目名	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	8.3 (25.7%)	2.7 (8.3%)	4.1 (12.7%)	13.4 (41.5%)	5.8 (17.9%)	0.7 (2.1%)	0.5 (1.5%)	6.4 (20.0%)	32.3

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図57.【5】大学が独自に設定する
専修免許状における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「精神保健」においては、開設科目のほとんどで心理学専門教員の関与があった。

・「学校保健」においては、社会福祉学の専門教員が18.2%を担当しており、他課程よりも高かった。

教育系科目

・「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」は教育学(94.1%)の専門教員が多数を占めた。

・「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」においては、教育学(100.0%)の専門教員に加え、看護学・心理学・栄養学等の専門教員が各13.3%ずつ担当している。

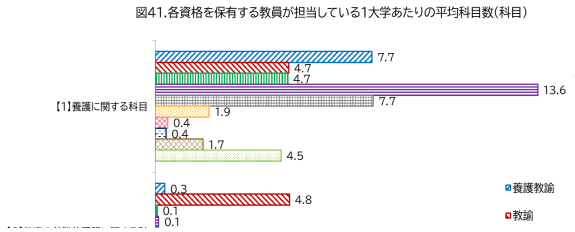
教育実践に関する科目

・「養護実習」においては、看護学・教育学・栄養学・その他のいずれかの専門教員がほとんど科目で関与する体制がとられていた。

A-4. 教員の保有資格（複数回答あり）

目的	養護教諭養成課程における大科目・中科目ごとの担当教員の保有資格（教諭・社会福祉士・公認心理師等）を明らかにし、開発プログラムをどの科目に導入することが現実的かを検討する。
方法	免許種別（一種／二種／専修）ごとに、大科目・中科目別の担当教員の保有資格を集計し、1大学当たりの平均科目数及び構成比を算出した。
結果	**（1）基礎・指導系及び養護系科目における有資格者の配置構造** 「養護に関する科目」においては、看護師資格を有する教員が担当する割合が最も高く（一種免許状で49.8%）、医療系資格保持者が教育の中核を構成している。一方、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践」等の教育系科目においては、いずれの課程でも教諭免許を保有する教員が最大の割合（一種：66.4%～76.6%、二種：60.0%～75.0%、専修：30.0%～60.0%）を占めている。 **（2）公認心理師及び福祉系資格保持者の配置実態** 公認心理師資格を有する教員は、「生徒指導・教育相談等」において一定の関与（一種：15.6%、二種：15.1%）が確認され、他の大科目と比較して高い配置割合であった。一方、社会福祉士及び精神保健福祉士資格を有する教員が担当する科目は、一種・専修免許状の全ての大科目において構成比が5%以下に留まっており、福祉系専門職の関与は極めて限定的であった。
示唆	**（1）心理系プログラム導入における専門家不在を前提とした設計の必要性** 心理分野においては、「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目等」は、公認心理師有資格者の配置割合が他の領域と比較して高いが、その割合は一種・二種ともに10%台に留まっている。これは、8割以上の養成大学において、当該領域は心理学の有資格者以外（主に教諭免許のみの教員）によって教授されていることを示している。心理系プログラムの導入にあたっては、心理学の専門資格を持たない教員が指導することを前提とした教材開発が必要と考えられる。 **（2）福祉系プログラム導入における既存教員への支援強化** 福祉分野においては、全科目群において有資格者が極めて限定的（5%未満）であり、専門教員が不在の状態である。この領域は、看護師や教諭等の免許を持つ教員が兼担しているケースが大半であると推察される。そのため、導入にあたっては、これら既存教員のバックグラウンドを十分に考慮し、非専門家による教育を支援する仕組みが必要であると考えられる。

グラフ（棒グラフ）の見方



棒の高さ（平均値）

1大学あたり、その資格（養護教諭・医師・公認心理師など）を持つ教員が担当する科目が「平均何科目あるか」を示す。

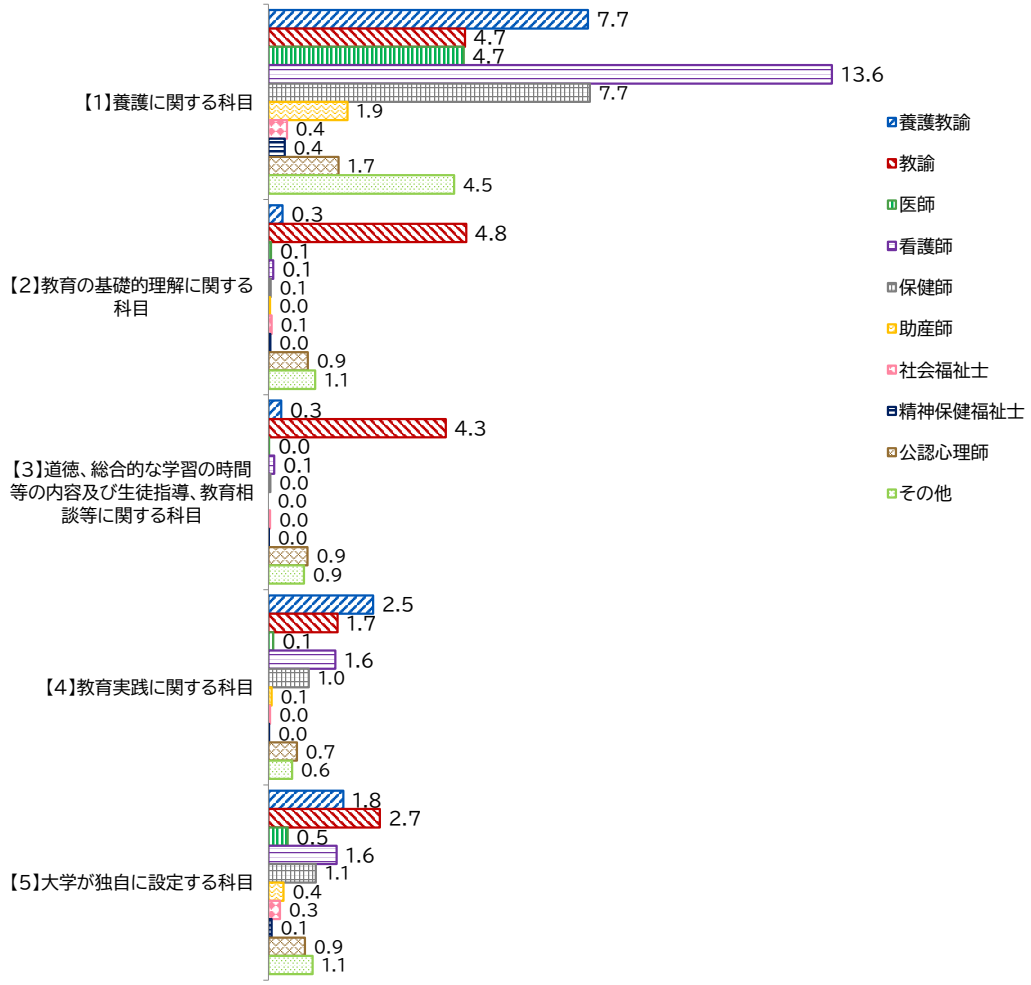
【結果の見方の例】
前提：1大学あたり、「養護に関する科目」は平均で 27.3科目開設
「養護に関する科目」について、養護教諭が担当している科目数は平均7.7科目であり、、約3割を担当している。一方、教諭（教諭免許状保持者）は平均4.7科目、看護師は平均13.6科目であり、看護師が主に「養護に関する科目」を担当している実態を示している。

養護教諭一種免許状

表43.養護教諭一種免許状の大科目における担当教員の保有資格

	平均科目数(割合)										
大科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	7.7 (28.2%)	4.7 (17.4%)	4.7 (17.2%)	13.6 (49.8%)	7.7 (28.4%)	1.9 (7.0%)	0.4 (1.6%)	0.4 (1.4%)	1.7 (6.2%)	4.5 (16.4%)	27.3
【2】教育の基礎的理解に関する科目	0.3 (4.6%)	4.8 (64.7%)	0.1 (0.8%)	0.1 (1.6%)	0.1 (0.7%)	0.0 (0.5%)	0.1 (1.1%)	0.0 (0.6%)	0.9 (12.9%)	1.1 (15.3%)	7.4
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	0.3 (5.1%)	4.3 (70.9%)	0.0 (0.3%)	0.1 (2.4%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.6%)	0.0 (0.1%)	0.9 (15.6%)	0.9 (14.3%)	6.0
【4】教育実践に関する科目	2.5 (79.2%)	1.7 (52.2%)	0.1 (3.6%)	1.6 (50.5%)	1.0 (30.6%)	0.1 (2.5%)	0.0 (1.1%)	0.0 (0.6%)	0.7 (21.4%)	0.6 (17.8%)	3.2
【5】大学が独自に設定する科目	1.8 (25.9%)	2.7 (38.5%)	0.5 (6.6%)	1.6 (23.6%)	1.1 (16.4%)	0.4 (5.2%)	0.3 (4.0%)	0.1 (1.1%)	0.9 (12.6%)	1.1 (15.2%)	7.0

図58.一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数
(科目)



＜結果＞

教諭及び医療系資格の配置

・「養護に関する科目」においては、看護師資格(49.8%)及び養護教諭免許(28.2%)を有する教員が主体となっている。

・「教育の基礎的理解に関する科目(64.7%)」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目(70.9%)」においては、教諭免許(専修・一種等)を有する教員が中心的な役割を担っている。

公認心理師の関与

・公認心理師の関与は「教育実践に関する科目(21.4%)」において最も割合が高く、次いで「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目(15.6%)」「教育の基礎的理解に関する科目(12.9%)」においても1割以上の科目を担当しており、教育・実践領域での関与があった。

福祉系資格(社会福祉士・精神保健福祉士)の関与

・「大学が独自に設定する科目」で社会福祉士資格を保有する教員の関与が4.0%であるが、それ以外の科目群ではいずれも4%以下であり、配置は限定的である。

表44.養護教諭一種免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.5 (14.5%)	0.5 (14.8%)	0.9 (29.3%)	0.9 (29.8%)	0.8 (26.7%)	0.1 (4.3%)	0.1 (2.3%)	0.1 (1.7%)	0.1 (2.8%)	0.5 (15.1%)	3.1
	学校保健	1.4 (66.5%)	0.8 (35.5%)	0.3 (11.8%)	1.0 (46.1%)	0.6 (28.2%)	0.1 (6.1%)	0.0 (1.6%)	0.0 (0.0%)	0.3 (11.8%)	0.3 (13.1%)	2.2
	養護概説	1.5 (86.9%)	0.7 (40.3%)	0.1 (3.7%)	0.7 (41.4%)	0.4 (22.5%)	0.0 (1.6%)	0.0 (0.5%)	0.0 (0.0%)	0.2 (13.1%)	0.2 (12.6%)	1.7
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	1.1 (65.3%)	0.5 (26.0%)	0.1 (4.6%)	0.9 (51.5%)	0.6 (37.2%)	0.1 (5.1%)	0.0 (0.5%)	0.0 (2.0%)	0.3 (19.9%)	0.3 (16.3%)	1.7
	栄養学※2	0.1 (3.2%)	0.2 (14.3%)	0.2 (9.0%)	0.2 (10.6%)	0.1 (5.3%)	0.0 (2.1%)	0.0 (0.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.1%)	0.9 (51.3%)	1.7
	解剖学・生理学	0.1 (2.5%)	0.4 (16.4%)	1.1 (42.5%)	0.3 (11.8%)	0.2 (7.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.4%)	0.4 (15.4%)	2.5
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.1 (2.6%)	0.1 (4.4%)	0.8 (32.1%)	0.3 (12.0%)	0.1 (4.7%)	0.0 (1.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.4%)	0.8 (33.2%)	2.4
	精神保健	0.2 (9.8%)	0.2 (13.2%)	0.4 (21.1%)	0.9 (51.5%)	0.4 (23.0%)	0.1 (3.9%)	0.2 (8.3%)	0.2 (12.7%)	0.3 (18.1%)	0.2 (13.7%)	1.8
	看護学※3	2.8 (27.9%)	1.4 (13.6%)	1.0 (10.1%)	8.4 (82.2%)	4.5 (43.8%)	1.4 (13.7%)	0.2 (1.7%)	0.1 (0.7%)	0.4 (3.8%)	0.9 (9.1%)	10.2

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図59.【1】養護に関する科目
一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

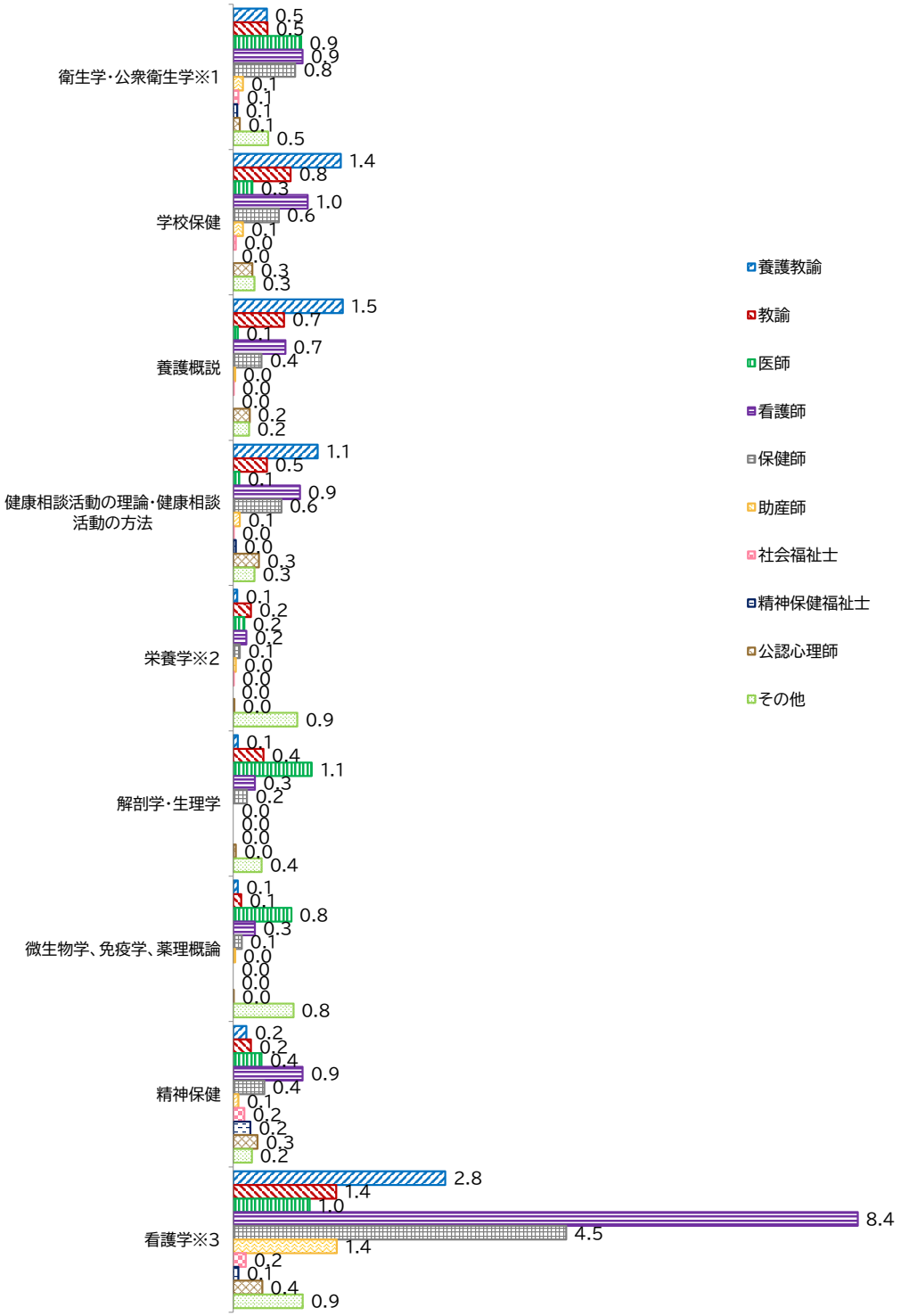


表45.養護教諭一種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.0 (2.2%)	0.8 (67.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (8.1%)	1.2
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	0.1 (6.3%)	0.9 (78.7%)	0.0 (0.8%)	0.0 (2.4%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (6.3%)	0.1 (10.2%)	1.1
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (1.9%)	0.9 (63.5%)	0.0 (0.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.3%)	0.1 (9.6%)	1.4
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.1 (7.1%)	0.6 (44.9%)	0.0 (0.0%)	0.1 (4.5%)	0.0 (3.2%)	0.0 (2.6%)	0.0 (0.6%)	0.0 (1.3%)	0.6 (40.4%)	0.4 (32.1%)	1.4
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.1 (9.0%)	0.8 (68.9%)	0.0 (4.1%)	0.0 (1.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (5.7%)	0.0 (2.5%)	0.3 (27.9%)	0.3 (23.0%)	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (1.7%)	0.9 (80.2%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (8.6%)	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図60.【2】教育の基礎的理解に関する科目
一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

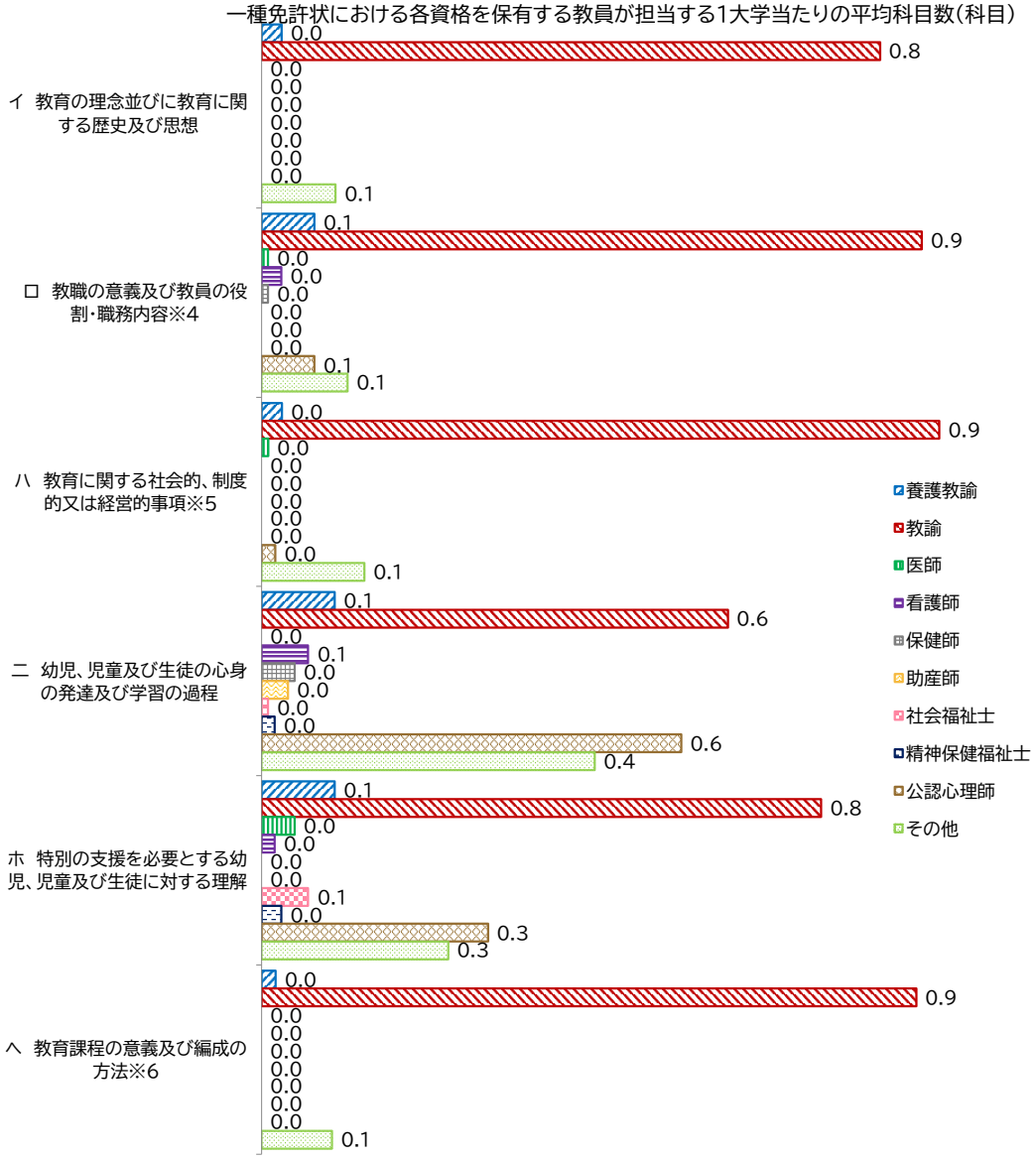


表46.養護教諭一種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	0.0 (1.5%)	2.0 (80.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.4%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.4%)	0.0 (0.4%)	0.1 (2.6%)	0.2 (6.2%)	2.4
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.1 (7.3%)	1.0 (72.2%)	0.0 (0.0%)	0.1 (4.0%)	0.0 (0.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (2.6%)	0.1 (7.9%)	1.3
	ハ 生徒指導の理論及び方法	0.1 (7.9%)	0.8 (70.9%)	0.0 (1.6%)	0.0 (3.1%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (1.6%)	0.0 (0.0%)	0.2 (17.3%)	0.2 (16.5%)	1.1
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	0.1 (7.9%)	0.6 (48.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (3.1%)	0.0 (1.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.0%)	0.7 (57.5%)	0.4 (37.0%)	1.1

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図61.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

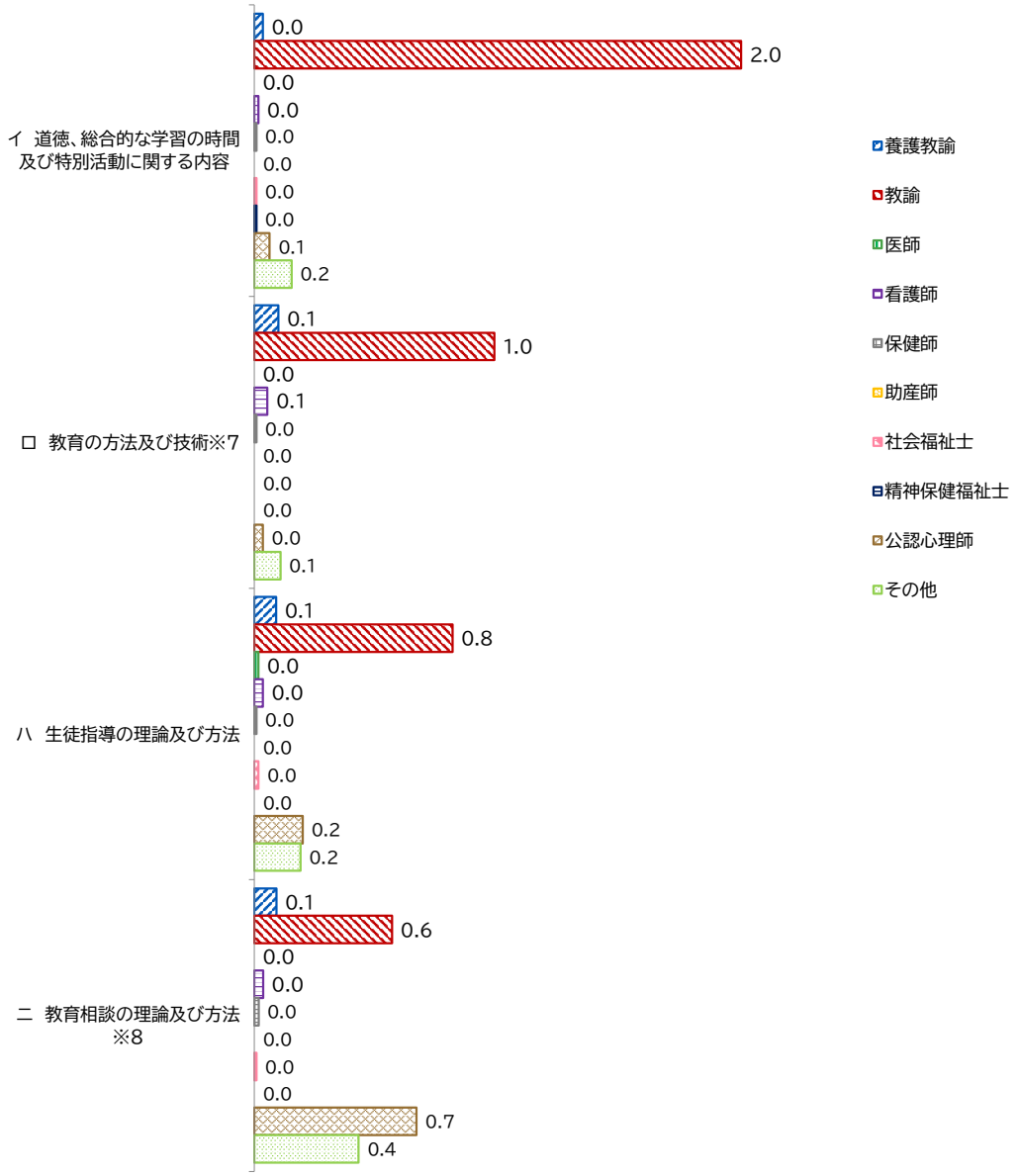


表47.養護教諭一種免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	1.7 (78.8%)	1.1 (50.8%)	0.1 (2.9%)	1.0 (47.9%)	0.6 (28.3%)	0.0 (1.7%)	0.0 (1.3%)	0.0 (0.4%)	0.4 (20.4%)	0.4 (17.1%)	2.1
	ロ 教職実践演習	0.9 (80.7%)	0.6 (55.5%)	0.1 (5.0%)	0.6 (56.3%)	0.4 (35.3%)	0.0 (4.2%)	0.0 (0.8%)	0.0 (0.8%)	0.3 (23.5%)	0.2 (19.3%)	1.1

図62.【4】教育実践に関する科目
一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

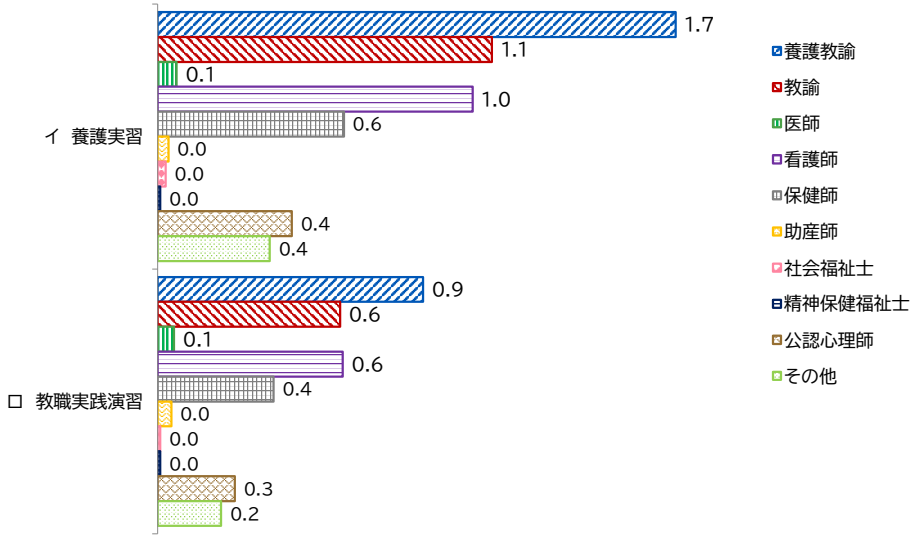
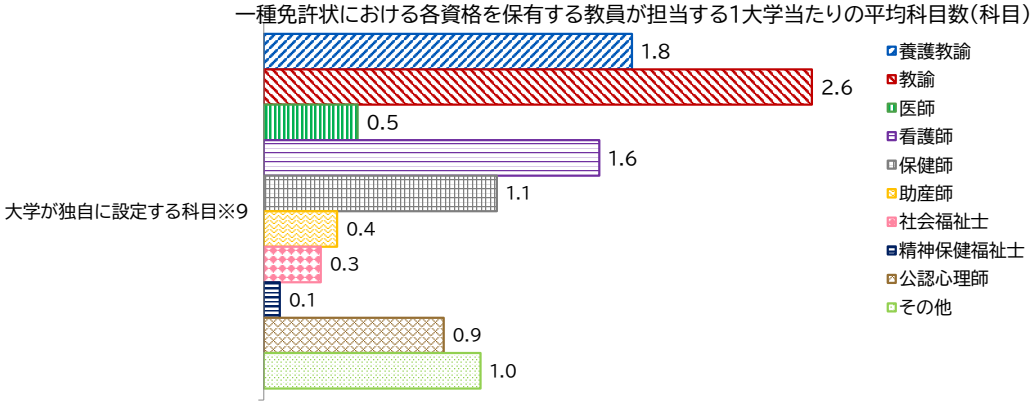


表48.養護教諭一種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	1.8 (25.4%)	2.6 (37.7%)	0.5 (6.5%)	1.6 (23.1%)	1.1 (16.1%)	0.4 (5.1%)	0.3 (3.9%)	0.1 (1.1%)	0.9 (12.4%)	1.0 (14.9%)	7.0

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図63.【5】大学が独自に設定する科目
一種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「精神保健」においては、公認心理師(18.1%)に加え、精神保健福祉士(12.7%)及び社会福祉士(8.3%)が関与しており、他の科目と比較して福祉系資格保持者の配置割合が高い。

教育の基礎的理解に関する科目

・「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」においては、公認心理師が40.4%を占め、教諭(44.9%)と同等の割合である。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・「教育相談の理論及び方法」においては、公認心理師が57.5%を占め、教諭(48.8%)を上回り最も多くの科目を担当している。

教育実践に関する科目

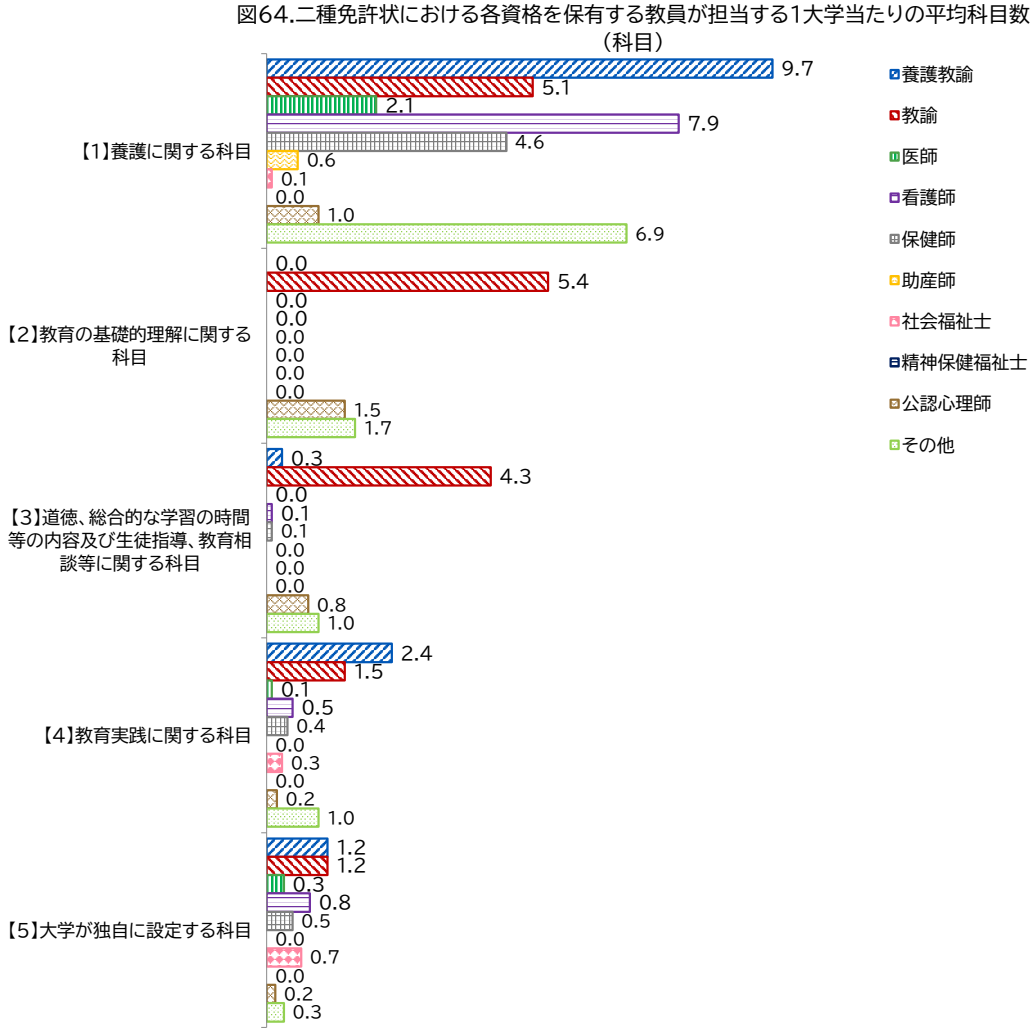
・「養護実習」「教職実践演習」ともに養護教諭免許保持者が約8割を占めるが、公認心理師も約2割(20.4%、23.5%)関与しており、実習指導における心理的視点が提供されている。

養護教諭二種免許状

表49.養護教諭二種免許状の大科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目		9.7 (48.7%)	5.1 (25.6%)	2.1 (10.6%)	7.9 (39.7%)	4.6 (23.1%)	0.6 (3.0%)	0.1 (0.5%)	0.0 (0.0%)	1.0 (5.0%)	6.9 (34.7%)	19.9
【2】教育の基礎的理解に関する科目		0.0 (0.0%)	5.4 (68.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.5 (19.1%)	1.7 (21.7%)	7.8
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		0.3 (5.7%)	4.3 (81.1%)	0.0 (0.0%)	0.1 (1.9%)	0.1 (1.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.8 (15.1%)	1.0 (18.9%)	5.3
【4】教育実践に関する科目		2.4 (85.7%)	1.5 (53.6%)	0.1 (3.6%)	0.5 (17.9%)	0.4 (14.3%)	0.0 (0.0%)	0.3 (10.7%)	0.0 (0.0%)	0.2 (7.1%)	1.0 (35.7%)	2.8
【5】大学が独自に設定する科目		1.2 (35.0%)	1.2 (35.0%)	0.3 (10.0%)	0.8 (25.0%)	0.5 (15.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (20.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (5.0%)	0.3 (10.0%)	3.3

図64.二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数



＜結果＞

全体傾向

・「養護に関する科目」では養護教諭(48.7%)及び看護師(39.7%)が、教育系科目では教諭(68.9%～81.1%)がそれぞれの中心を担っている。

公認心理師の関与

・「教育の基礎的理解に関する科目(19.1%)」及び「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目(15.1%)」において一定の関与が見られる。

社会福祉士の関与

・「大学が独自に設定する科目」において、社会福祉士が20.0%を担当しており、一種免許状(4.0%)と比較して高い割合を示している。

・「教育実践に関する科目」においても10.7%の社会福祉士の関与があった。

表50.養護教諭二種免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.6 (37.5%)	0.2 (12.5%)	0.2 (12.5%)	0.6 (37.5%)	0.5 (31.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (25.0%)	1.6
	学校保健	1.5 (93.8%)	0.5 (31.3%)	0.0 (0.0%)	0.2 (12.5%)	0.2 (12.5%)	0.0 (0.0%)	0.1 (6.3%)	0.0 (0.0%)	0.2 (12.5%)	0.7 (43.8%)	1.6
	養護概説	1.9 (100.0%)	0.3 (15.8%)	0.2 (10.5%)	0.5 (26.3%)	0.4 (21.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (36.8%)	1.9
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	1.2 (92.3%)	0.4 (30.8%)	0.0 (0.0%)	0.3 (23.1%)	0.2 (15.4%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (7.7%)	0.6 (46.2%)	1.3
	栄養学※2	0.1 (7.7%)	0.6 (46.2%)	0.3 (23.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (38.5%)	1.3
	解剖学・生理学	0.0 (0.0%)	0.2 (12.5%)	0.6 (37.5%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (25.0%)	1.6
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.0 (0.0%)	0.3 (15.8%)	0.1 (5.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.2 (63.2%)	1.9
	精神保健	0.3 (23.1%)	0.5 (38.5%)	0.0 (0.0%)	0.4 (30.8%)	0.4 (30.8%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (53.8%)	0.5 (38.5%)	1.3
	看護学※3	4.1 (55.4%)	2.1 (28.4%)	0.7 (9.5%)	5.9 (79.7%)	2.9 (39.2%)	0.6 (8.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.9 (25.7%)	7.4

※1:衛生学・公衆衛生学(予防医学を含む。)、※2:栄養学(食品学を含む。)、※3:看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)

図65.【1】養護に関する科目
二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

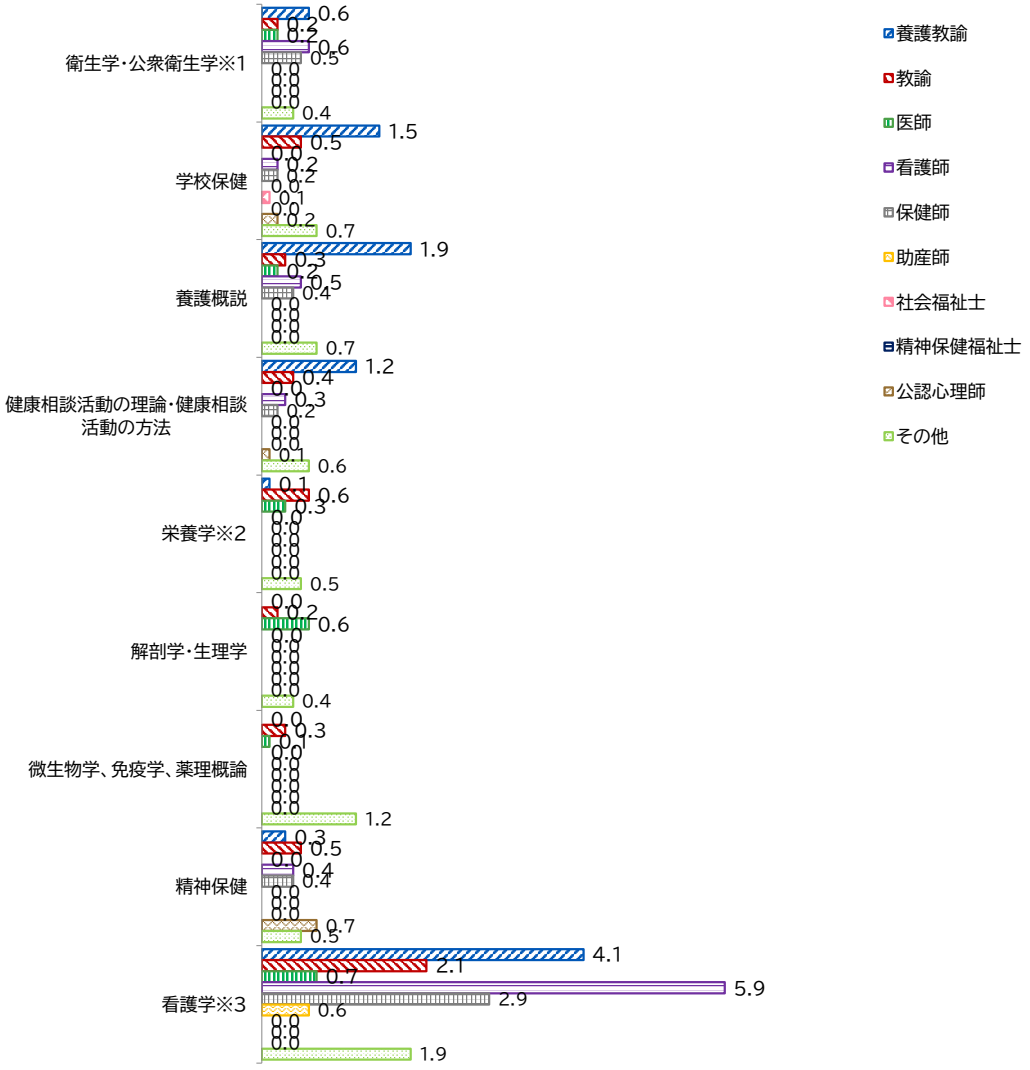


表51.養護教諭二種免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.0 (0.0%)	0.9 (69.2%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (7.7%)	1.3
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	0.0 (0.0%)	0.8 (66.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (8.3%)	0.1 (8.3%)	1.2
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (0.0%)	1.0 (75.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (8.3%)	1.3
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.0 (0.0%)	1.1 (61.1%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (38.9%)	0.8 (44.4%)	1.8
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.0 (0.0%)	0.7 (63.6%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (63.6%)	0.5 (45.5%)	1.1
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (0.0%)	1.0 (90.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (9.1%)	1.1

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図66.教育の基礎的理解に関する科目
二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

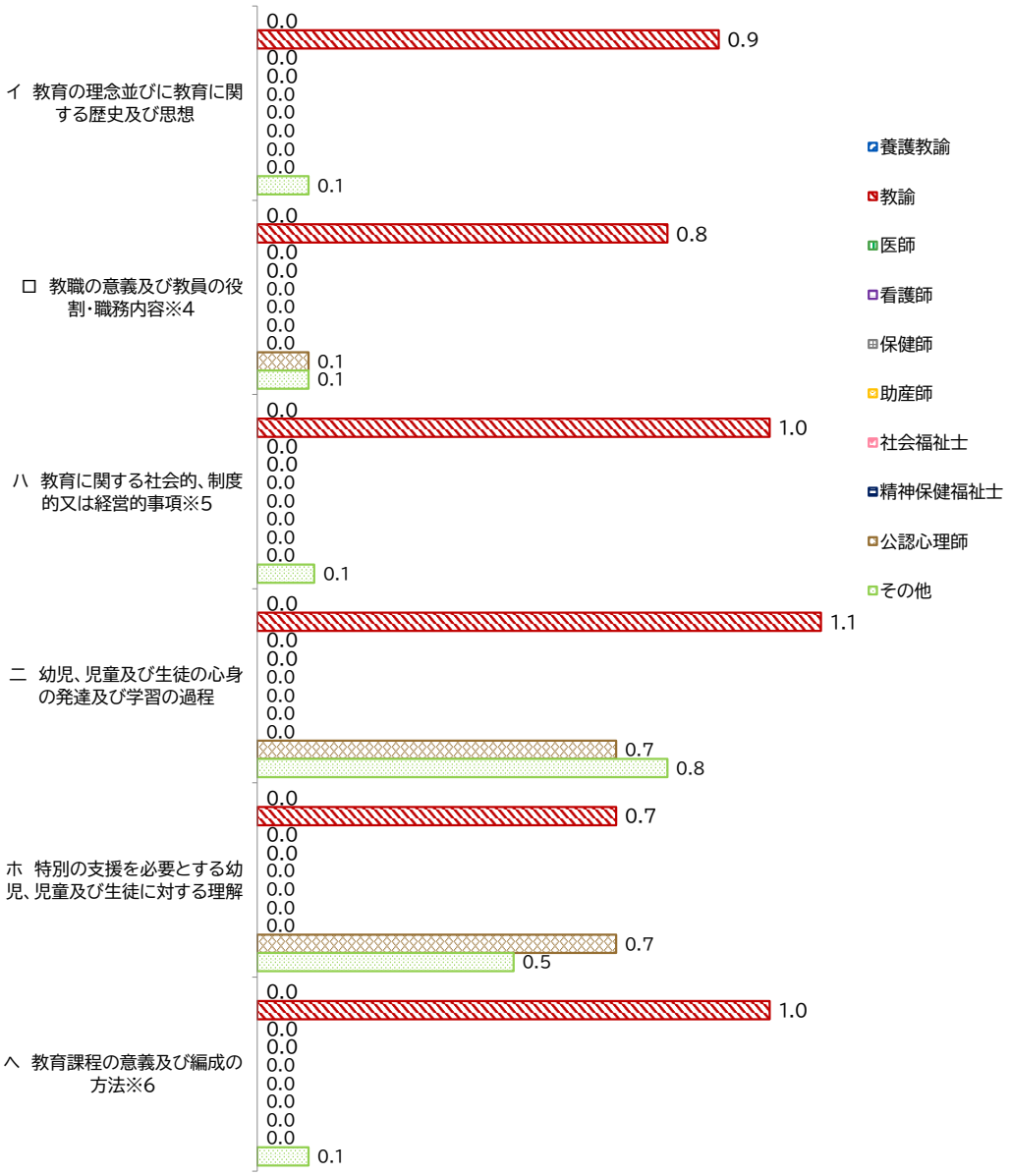


表52.養護教諭二種免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	0.0 (0.0%)	1.8 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.8
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.1 (6.7%)	1.2 (80.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (6.7%)	0.1 (6.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (26.7%)	1.5
	ハ 生徒指導の理論及び方法	0.1 (10.0%)	0.7 (70.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (40.0%)	0.3 (30.0%)	1.0
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	0.1 (11.1%)	0.7 (66.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.4 (44.4%)	0.3 (33.3%)	1.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図67.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

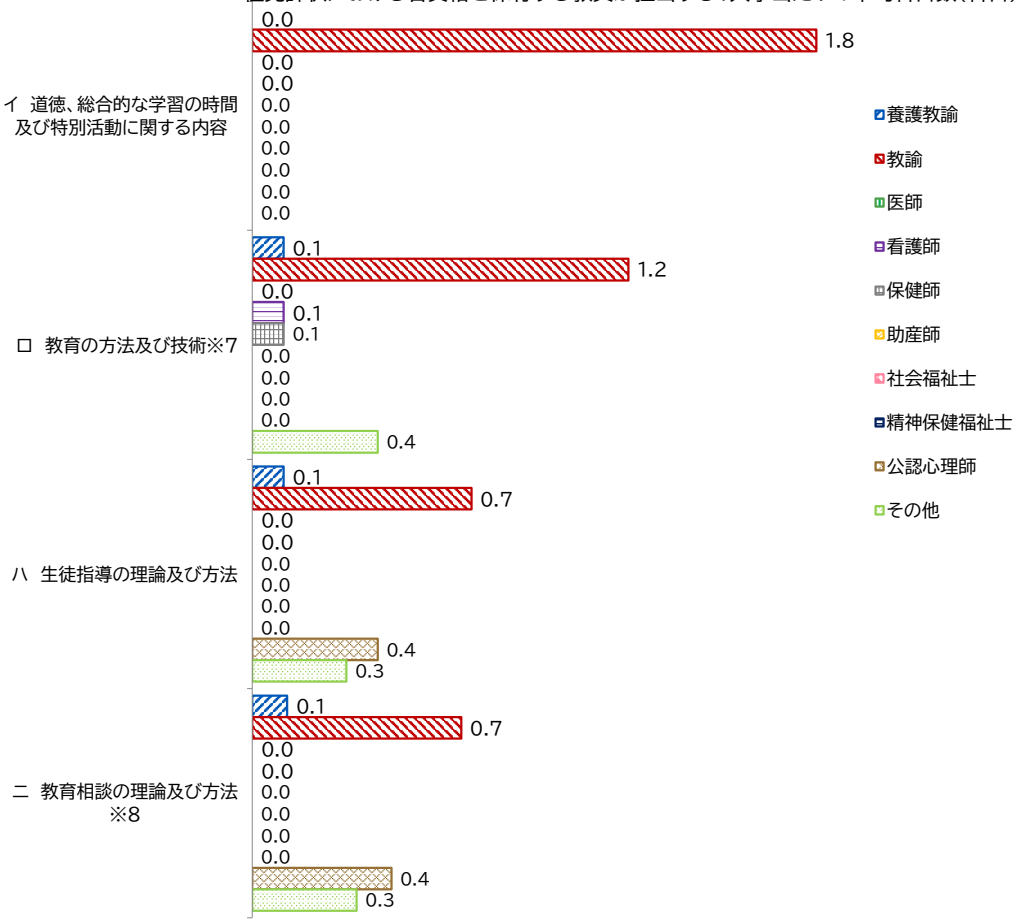


表53.養護教諭二種免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	1.6 (88.9%)	1.0 (55.6%)	0.0 (0.0%)	0.3 (16.7%)	0.2 (11.1%)	0.0 (0.0%)	0.2 (11.1%)	0.0 (0.0%)	0.1 (5.6%)	0.7 (38.9%)	1.8
	ロ 教職実践演習	0.8 (80.0%)	0.5 (50.0%)	0.1 (10.0%)	0.2 (20.0%)	0.2 (20.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (10.0%)	0.0 (0.0%)	0.1 (10.0%)	0.3 (30.0%)	1.0

図68.【4】教育実践に関する科目
二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

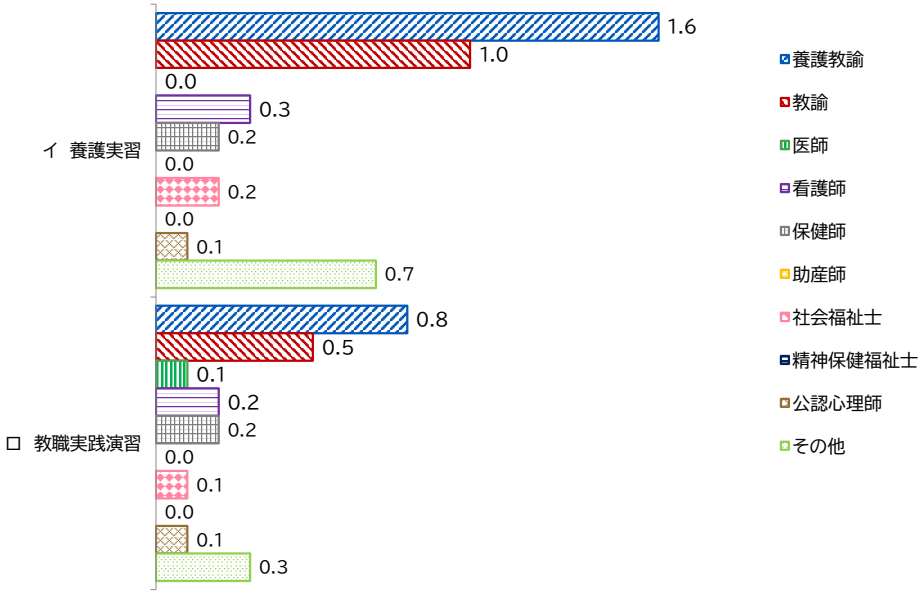
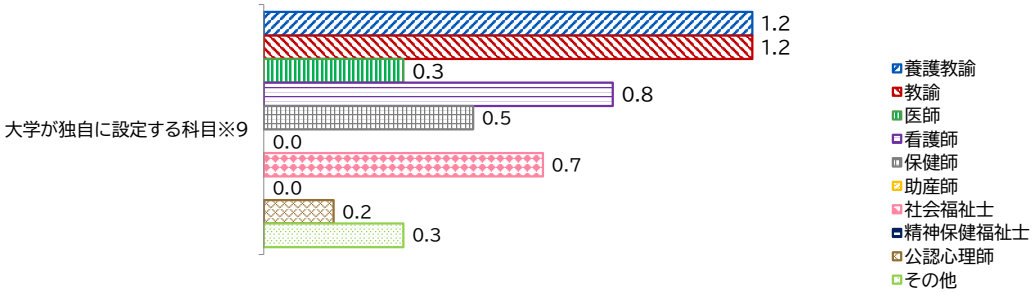


表54.養護教諭二種免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	1.2 (35.0%)	1.2 (35.0%)	0.3 (10.0%)	0.8 (25.0%)	0.5 (15.0%)	0.0 (0.0%)	0.7 (20.0%)	0.0 (0.0%)	0.2 (5.0%)	0.3 (10.0%)	3.3

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図69.【5】大学が独自に設定する科目
二種免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「精神保健」においては、公認心理師が53.8%を占め、教諭(38.5%)等を上回っている。

教育の基礎的理解に関する科目

・「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」においては、公認心理師が63.6%を占め、教諭(63.6%)と同率で並んでおり、心理専門職の関与が高い。

教育実践に関する科目

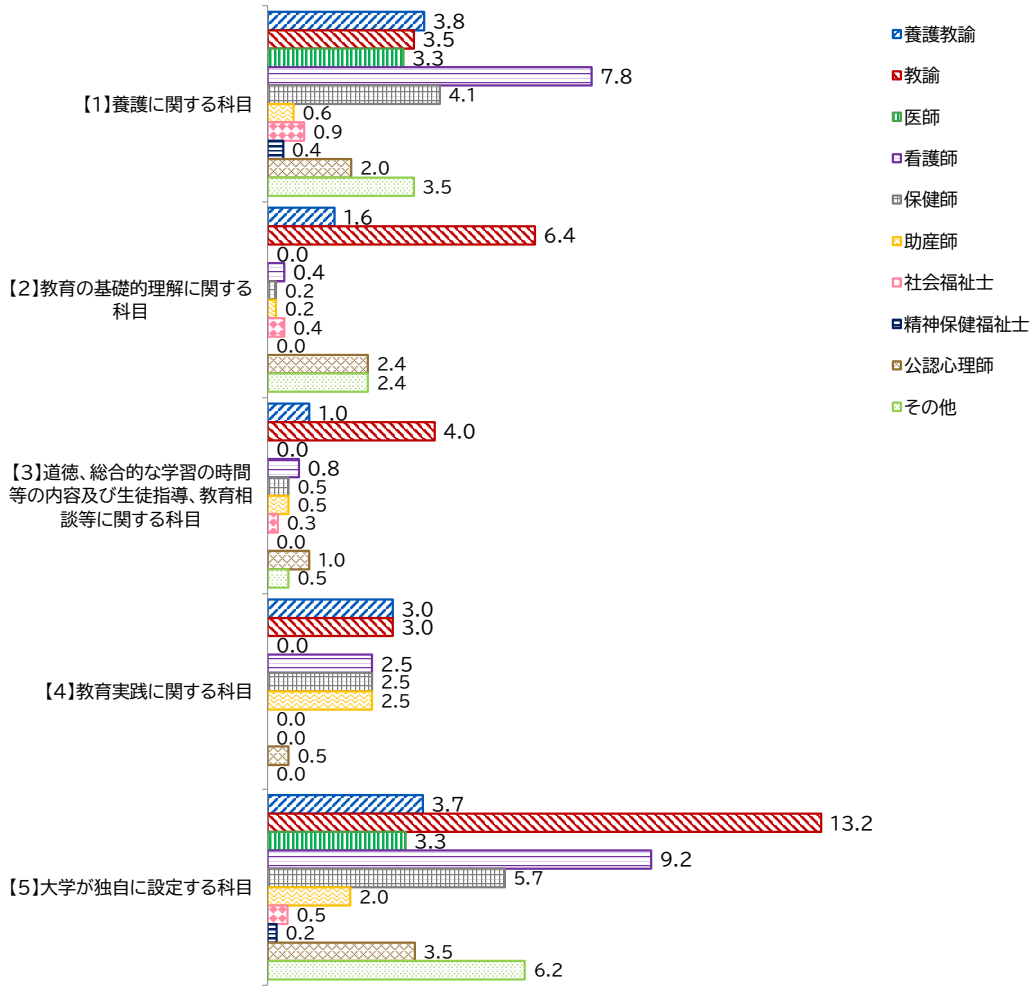
・「養護実習」「教職実践演習」において、社会福祉士が約1割(11.1%、10.0%)関与しており、実習指導の一角を担っている。

養護教諭専修免許状

表55.養護教諭専修免許状の大科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目		3.8 (15.0%)	3.5 (14.0%)	3.3 (13.0%)	7.8 (31.0%)	4.1 (16.5%)	0.6 (2.5%)	0.9 (3.5%)	0.4 (1.5%)	2.0 (8.0%)	3.5 (14.0%)	25.0
【2】教育の基礎的理解に関する科目		1.6 (10.7%)	6.4 (42.7%)	0.0 (0.0%)	0.4 (2.7%)	0.2 (1.3%)	0.2 (1.3%)	0.4 (2.7%)	0.0 (0.0%)	2.4 (16.0%)	2.4 (16.0%)	15.0
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		1.0 (8.0%)	4.0 (32.0%)	0.0 (0.0%)	0.8 (6.0%)	0.5 (4.0%)	0.5 (4.0%)	0.3 (2.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (8.0%)	0.5 (4.0%)	12.5
【4】教育実践に関する科目		3.0 (60.0%)	3.0 (60.0%)	0.0 (0.0%)	2.5 (50.0%)	2.5 (50.0%)	2.5 (50.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (10.0%)	0.0 (0.0%)	5.0
【5】大学が独自に設定する科目		3.7 (11.5%)	13.2 (41.1%)	3.3 (10.2%)	9.2 (28.4%)	5.7 (17.6%)	2.0 (6.1%)	0.5 (1.5%)	0.2 (0.7%)	3.5 (10.9%)	6.2 (19.1%)	32.3

図70.専修免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数
（科目）



＜結果＞

全体傾向

・「教育の基礎的理解に関する科目（42.7%）」や「大学独自科目（41.1%）」においては教諭免許保持者が主体であるが、看護師資格保持者も一定数（独自科目で28.4%等）配置されている。

公認心理師の関与

・「教育の基礎的理解に関する科目（16.0%）」及び「大学独自科目（10.9%）」において1割以上の関与が見られる。

福祉系資格の関与

・社会福祉士は「養護に関する科目」で3.5%、「教育の基礎的理解に関する科目」で2.7%の配置に留まり、精神保健福祉士とともに限定的である。

表56.養護教諭専修免許状の【1】養護に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【1】養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学※1	0.3（25.0%）	0.3（25.0%）	0.7（50.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.3（25.0%）	0.0（0.0%）	1.3
	学校保健	1.7（45.5%）	1.0（27.3%）	0.0（0.0%）	0.7（18.2%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	1.0（27.3%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.7（18.2%）	3.7
	養護概説	2.0（100.0%）	1.0（50.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	2.0（100.0%）	1.0（50.0%）	2.0
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2.0（100.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	2.0
	栄養学※2	0.5（50.0%）	0.5（50.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.5（50.0%）	0.0（0.0%）	1.0
	解剖学・生理学	0.0（0.0%）	1.0（100.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	1.0
	微生物学、免疫学、薬理概論	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	1.0（100.0%）	1.0
	精神保健	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.5（33.3%）	1.0（66.7%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	1.0（66.7%）	0.0（0.0%）	1.5
	看護学※3	1.0（8.7%）	1.0（8.7%）	0.0（0.0%）	11.5（100.0%）	5.5（47.8%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	0.0（0.0%）	11.5

※1：衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）、※2：栄養学（食品学を含む。）、※3：看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）

図71.【1】養護に関する科目
専修免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

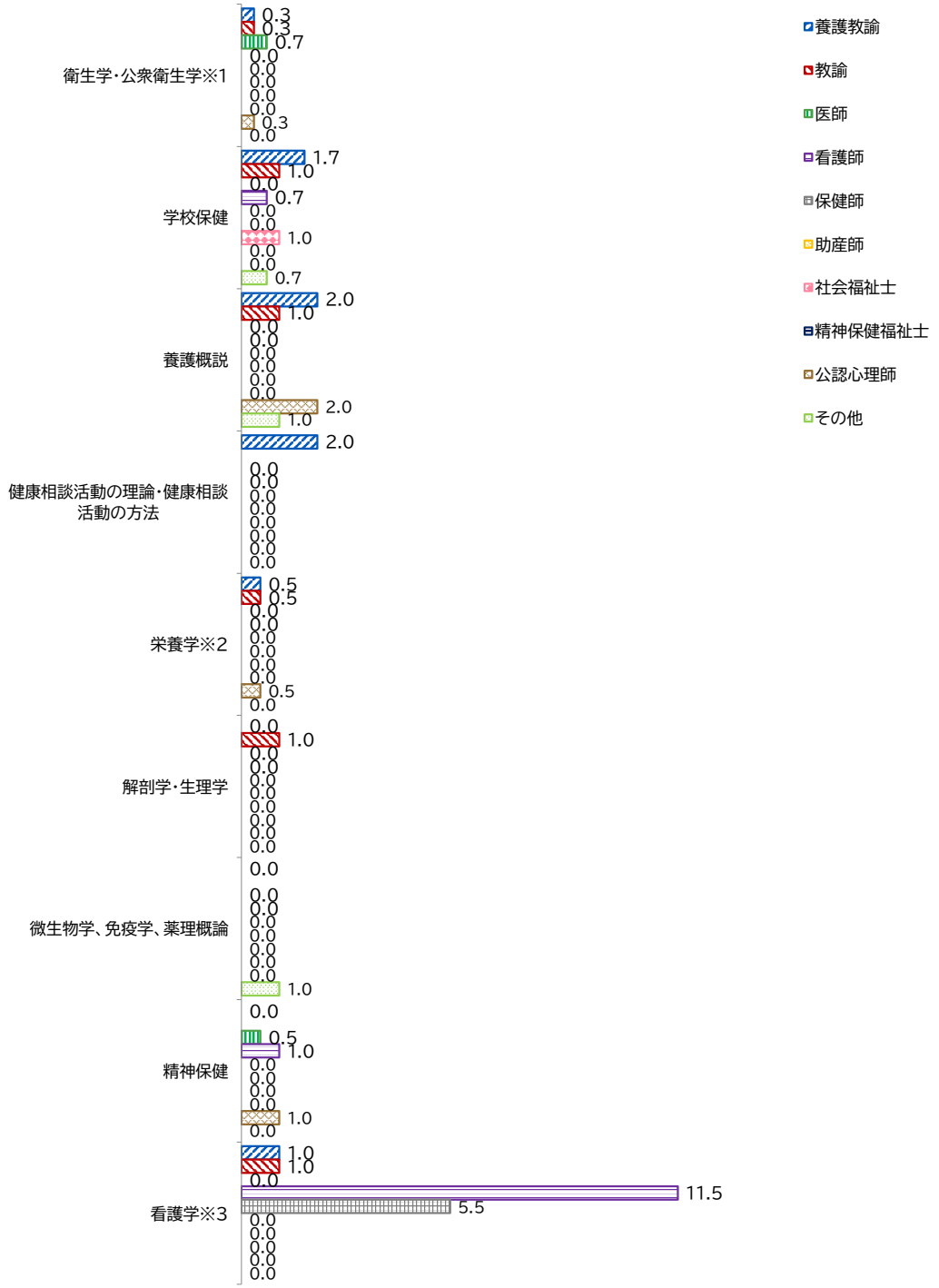


表57.養護教諭専修免許状の【2】教育の基礎的理解に関する科目における担当教員の保有資格

大科目名	中科目名	平均科目数 養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【2】教育の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	0.3 (5.9%)	5.7 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (5.9%)	0.3 (5.9%)	0.3 (5.9%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0 (17.6%)	1.0 (17.6%)	5.7
	ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容※4	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし
	ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項※5	0.0 (0.0%)	1.0 (50.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (25.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.0
	ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.3 (7.7%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.7 (61.5%)	2.3 (53.8%)	4.3
	ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	0.0 (0.0%)	1.5 (75.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (25.0%)	0.0 (0.0%)	0.5 (25.0%)	0.0 (0.0%)	2.0
	ヘ 教育課程の意義及び編成の方法※6	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	1.0

※4:ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)、※5:ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)、※6:ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

図72.【2】教育の基礎的理解に関する科目
専修免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

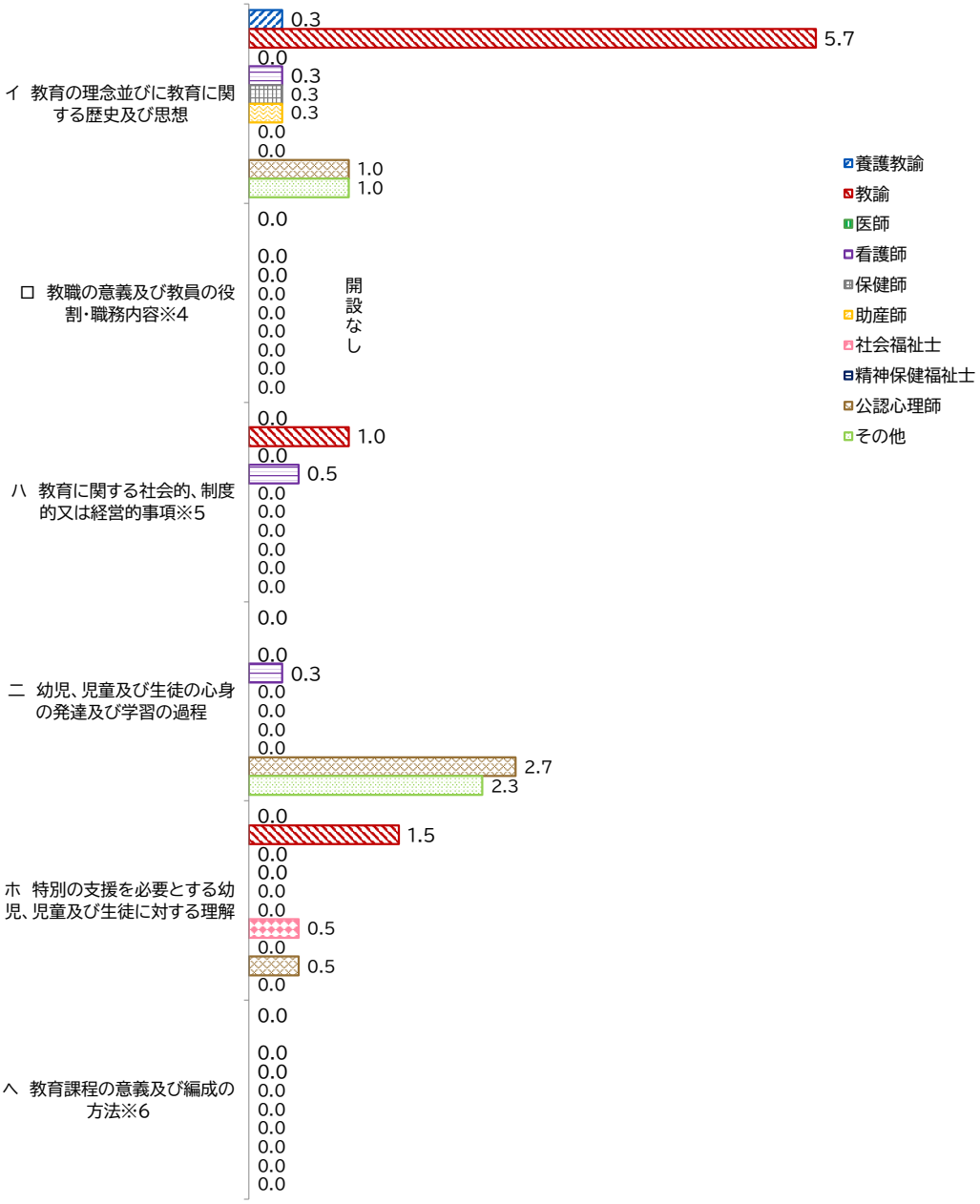


表58.養護教諭専修免許状の【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	1.0 (13.3%)	6.5 (86.7%)	0.0 (0.0%)	1.0 (13.3%)	1.0 (13.3%)	1.0 (13.3%)	0.5 (6.7%)	0.0 (0.0%)	0.5 (6.7%)	0.0 (0.0%)	7.5
	ロ 教育の方法及び技術※7	0.0 (0.0%)	1.0 (33.3%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	3.0
	ハ 生徒指導の理論及び方法	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし
	ニ 教育相談の理論及び方法※8	2.0 (100.0%)	2.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	2.0 (100.0%)	2.0 (100.0%)	2.0

※7:ロ 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)、※8:ニ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

図73.【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目
専修免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

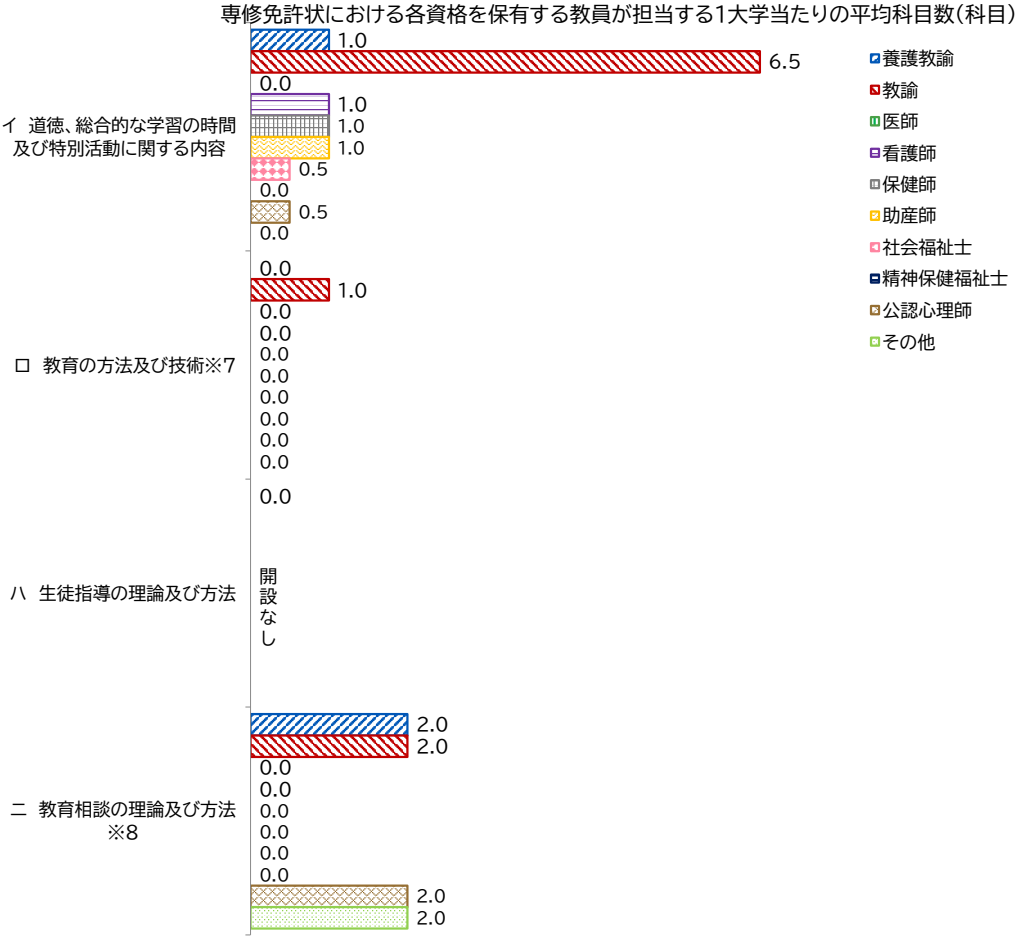


表59.養護教諭専修免許状の【4】教育実践に関する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【4】教育実践に関する科目	イ 養護実習	5.0 (100.0%)	5.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	5.0 (100.0%)	5.0 (100.0%)	5.0 (100.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	5.0
	ロ 教職実践演習	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし	開設なし

図74.【4】教育実践に関する科目
専修課程における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

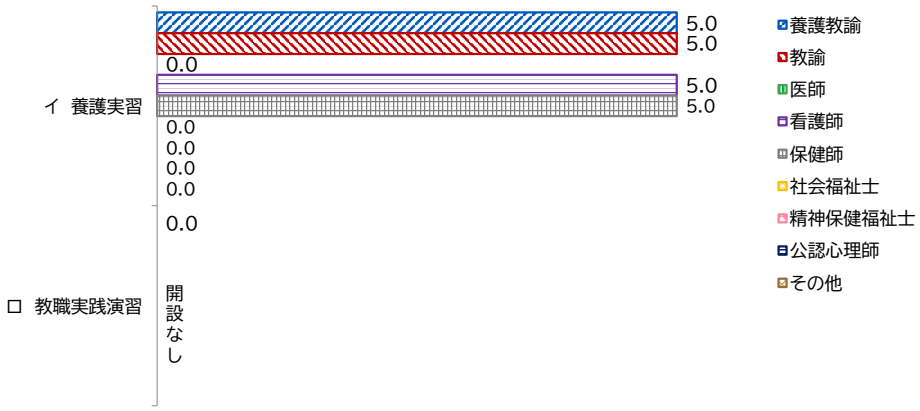
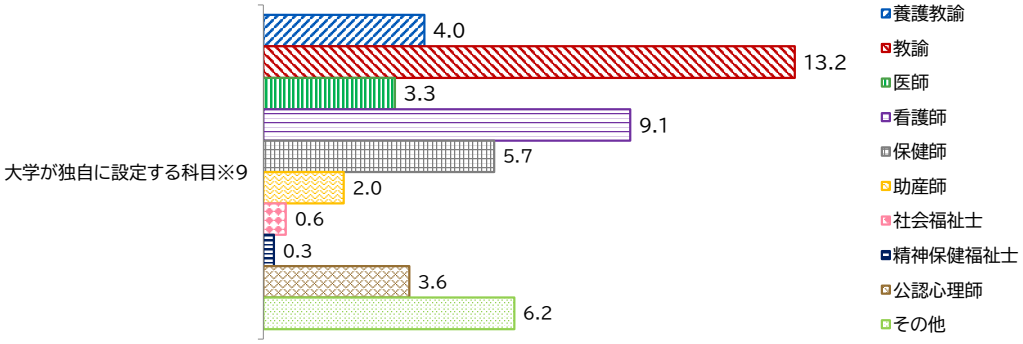


表60.養護教諭専修免許状の【5】大学が独自に設定する科目における担当教員の保有資格

		平均科目数										
大科目名	中科目名	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他	平均開設科目数
【5】大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目※9	4.0 (12.4%)	13.2 (40.9%)	3.3 (10.1%)	9.1 (28.2%)	5.7 (17.8%)	2.0 (6.2%)	0.6 (1.7%)	0.3 (0.8%)	3.6 (11.2%)	6.2 (19.3%)	32.3

※9:大学が独自に設定する科目※養護、教職又はそれらに準じる科目

図75.【5】大学が独自に設定する科目
専修免許状における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



＜結果＞

養護に関する科目

・「養護概説」及び「精神保健」においては、公認心理師が100.0%(又は66.7%)関与するケースが見られ、特定の科目において心理専門職が重点的に配置されていた。

教育の基礎的理解に関する科目

・「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」においては、公認心理師が61.5%を占め、教諭等を上回る主要な担い手となっている。

・「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」においては、社会福祉士が25.0%関与しており、公認心理師(25.0%)と同等に配置されていた。

道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

「教育相談の理論及び方法」においては、養護教諭・教諭・公認心理師の資格保有率がいずれも100%であった。

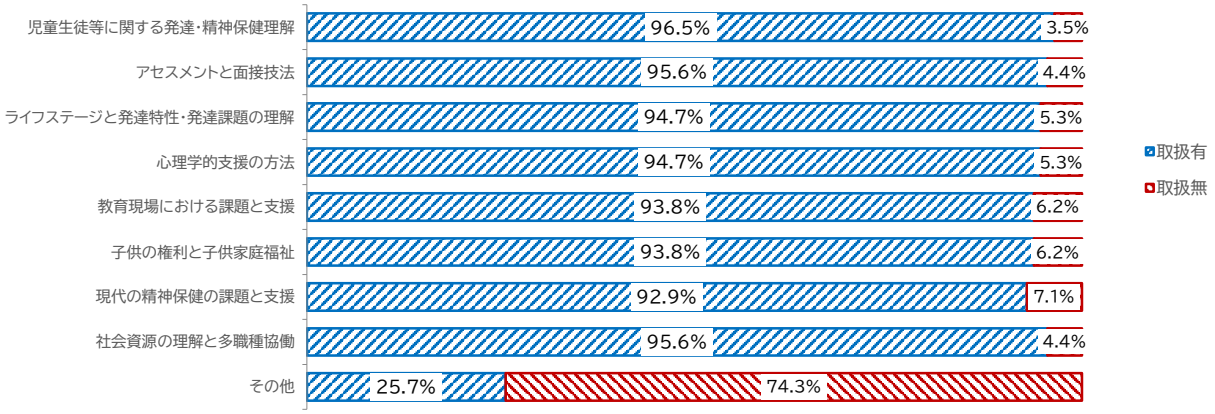
B-1.心理・福祉分野の内容を取扱っている養成大学の割合	
目的	養護教諭養成課程における心理・福祉分野の内容について、現状の教育課程での取扱い状況(実質的な導入状況)を把握するため、心理・福祉分野の内容ごとの開講率(当該内容を取扱う養成大学の割合)を明らかにする。
方法	免許種別(一種／二種／専修)ごとに、心理・福祉分野の内容を取扱う科目の有無を確認し、当該内容を取扱う養成大学の割合を算出した。 なお、「心理・福祉分野の内容」は、以下の項目とし、養成大学はこれらの内容の取扱いの有無を回答した。
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	・児童思春期における主要精神疾患や発達障害、愛着・トラウマに関する基本的な知識 ・児童生徒等の心身に現れる兆候や、必要とされる支援
アセスメントと面接技法	・心理・社会的な視点での児童生徒等のアセスメント ・アセスメント結果を多職種と共有するための知識 ・基礎的な面接技法や非言語行動による支援
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	・ライフステージ各期の心理的な発達段階・発達特性についての知識 ・各発達段階で現れやすい心身症状の知識
心理学的支援の方法	・子供への心理的支援において求められるケアや関わり方の姿勢 ・心理的支援の枠組みと倫理的配慮
教育現場における課題と支援	・集団・文化が児童生徒等の心理に与える影響の理解 ・近年の教育現場において生じる多様な課題を多角的に捉える視点
子供の権利と子供家庭福祉	・子供一人ひとりが権利の主体であることの理解 ・子供や家庭が抱える多様な福祉的課題に対応するための基礎的知識
現代の精神保健の課題と支援	・現代社会における精神保健の課題を多角的に捉え、養護教諭として子供たちの精神保健の保持・増進と課題の発生予防に寄与できる資質・能力
社会資源の理解と多職種協働	・学校内外の社会資源を効果的に活用し、多様な専門職と協働しながら、子供と家庭を包括的に支援するための資質・能力
結果	**(1) 一種免許状における網羅的な導入** 一種免許状においては、調査対象とした全体目標(心理・福祉分野の内容)について、取扱っている養成大学の割合が90%(92.9%～96.5%)を超えており、既存の科目枠内において心理・福祉分野の内容が広く導入されている。 **(2) 二種免許状における実践・連携領域の低さ** 二種免許状においては、多くの項目で心理・福祉分野の内容の開講率が80～90%であるが、「アセスメントと面接技法」及び「社会資源の理解と多職種協働」は開講率は70.0%である。 **(3) 専修免許状における多職種連携の重視** 専修免許状においては、心理・福祉分野の内容の開講率は概ね70%台～80%台(74.1%～83.3%)である。一種免許状と比較して開講率はやや低いものの、「社会資源の理解と多職種協働」は83.3%と全項目の中で最も開講率が高い。
示唆	**開講率の高さと現場ニーズの乖離** 一種免許状では既に9割以上の養成大学で心理・福祉分野の内容が取扱われており、広く導入されている状況である。一方で、教育現場からは「より高度な専門性」が求められている現状があることから、教育内容の深さや教授方法(演習の有無等)に課題がある可能性がある。高い開講率にも関わらず現場が不足感を持っている要因(乖離)について、教育内容の質的側面から詳細に分析を行うことが、実効性のあるプログラム開発において必要と考えられた。

養護教諭一種免許状

表61.養護教諭一種免許状の心理・福祉分野の内容毎の開講率

心理・福祉分野の内容	取扱有	取扱無
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	96.5%	3.5%
アセスメントと面接技法	95.6%	4.4%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	94.7%	5.3%
心理学的支援の方法	94.7%	5.3%
教育現場における課題と支援	93.8%	6.2%
子供の権利と子供家庭福祉	93.8%	6.2%
現代の精神保健の課題と支援	92.9%	7.1%
社会資源の理解と多職種協働	95.6%	4.4%
その他	25.7%	74.3%

図76.一種免許状における心理・福祉分野の内容毎の開講率(%)

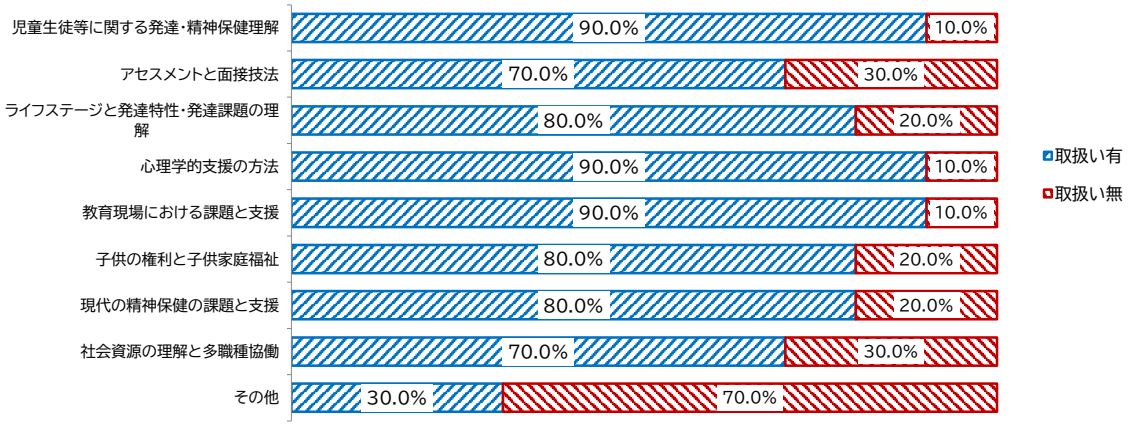


養護教諭二種免許状

表62.養護教諭二種免許状の心理・福祉分野の内容毎の開講率

心理・福祉分野の内容	取扱い有	取扱い無
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	90.0%	10.0%
アセスメントと面接技法	70.0%	30.0%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	80.0%	20.0%
心理学的支援の方法	90.0%	10.0%
教育現場における課題と支援	90.0%	10.0%
子供の権利と子供家庭福祉	80.0%	20.0%
現代の精神保健の課題と支援	80.0%	20.0%
社会資源の理解と多職種協働	70.0%	30.0%
その他	30.0%	70.0%

図77.二種免許状における心理・福祉分野の内容毎の開講率(%)

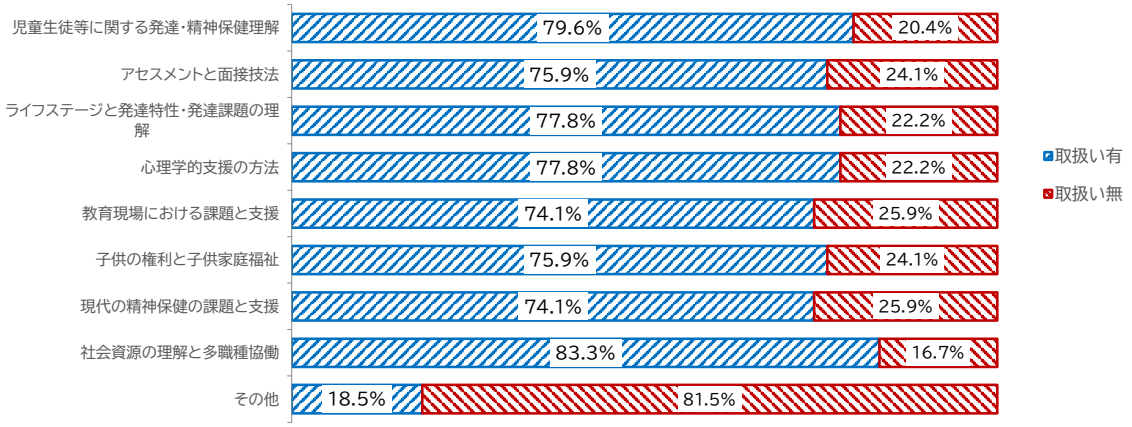


養護教諭専修免許状

表63.養護教諭専修免許状の心理・福祉分野の内容毎の開講率

心理・福祉分野の内容	取扱い有	取扱い無
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	79.6%	20.4%
アセスメントと面接技法	75.9%	24.1%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	77.8%	22.2%
心理学的支援の方法	77.8%	22.2%
教育現場における課題と支援	74.1%	25.9%
子供の権利と子供家庭福祉	75.9%	24.1%
現代の精神保健の課題と支援	74.1%	25.9%
社会資源の理解と多職種協働	83.3%	16.7%
その他	18.5%	81.5%

図78.専修免許状における心理・福祉分野の内容毎の開講率(%)



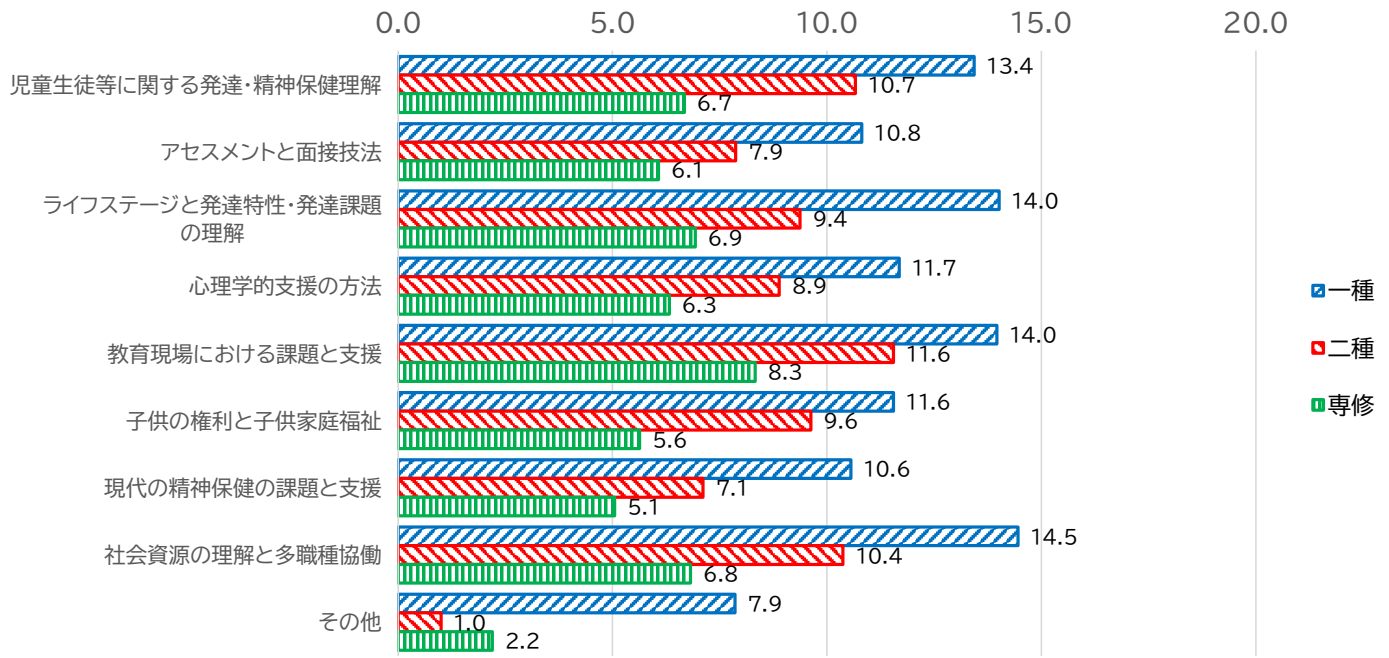
B-2.心理・福祉分野の内容を含んでいる平均科目数	
目的	養護教諭養成課程において、心理・福祉分野の内容を取扱う科目の1養成大学当たりの開講規模（平均科目数）を算出し、教育課程全体における当該分野の量的広がりを明らかにする。
方法	免許種別（一種／二種／専修）ごとに、心理・福祉分野の内容を取扱う科目の総数を、当該内容を取扱う養成大学数で除し、1養成大学当たりの平均開講科目数を算出した。
結果	**（1）一種・二種免許状における多科目分散型の開講状況** 一種・二種免許状においては、心理・福祉分野の内容が1養成大学当たり平均8～14科目（一種：約10～14科目、二種：約7～11科目）という多数の科目内で取扱われており、特定の科目というよりは、カリキュラム全体にわたり分散して配置されている。 **（2）領域による科目数の差異** 内容ごとの平均科目数を見ると、一種免許状では「社会資源の理解と多職種協働（14.5科目）」や「教育現場における課題と支援（14.0科目）」が相対的に多く、多くの科目で横断的に取扱われている。一方、「アセスメントと面接技法（10.8科目）」や「現代の精神保健の課題と支援（10.6科目）」は、平均科目数が相対的に少ない。
示唆	**（1）分散した知識の統合・体系化プログラムの必要性** 心理・福祉分野の知識が10科目以上の多岐にわたる科目で扱われている現状は、学生が断片的な知識を統合できていない可能性がある。したがって、養成大学向け養成プログラムの開発に際しては、各科目に分散した理論や知識を「養護実践」の文脈で統合し、体系化して定着させる内容（総論・統合演習等）とすることが求められる。 **（2）学習機会が少ない領域への補完** 「アセスメントと面接技法」及び「現代の精神保健の課題と支援」は、既存カリキュラム内で学生が触れる頻度が相対的に少ない。現場ニーズが高いにも関わらず学習機会が限られている当該領域については、その不足を埋めるための補完プログラムの提供が必要であると考えられる。

養護教諭一種・二種・専修免許状

表64.1養成大学当たりの平均開講科目数

心理・福祉分野の内容	合計科目数			1養成大学当たりの平均開講科目数		
	一種	二種	専修	一種	二種	専修
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	1478	96	287	13.4	10.7	6.7
アセスメントと面接技法	1168	63	249	10.8	7.9	6.1
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	1514	75	291	14.0	9.4	6.9
心理学的支援の方法	1262	80	272	11.7	8.9	6.3
教育現場における課題と支援	1494	104	333	14.0	11.6	8.3
子供の権利と子供家庭福祉	1236	77	231	11.6	9.6	5.6
現代の精神保健の課題と支援	1119	64	202	10.6	7.1	5.1
社会資源の理解と多職種協働	1576	83	307	14.5	10.4	6.8
その他	220	4	22	7.9	1.0	2.2

図79.1養成大学当たりの平均開講科目数(科目)



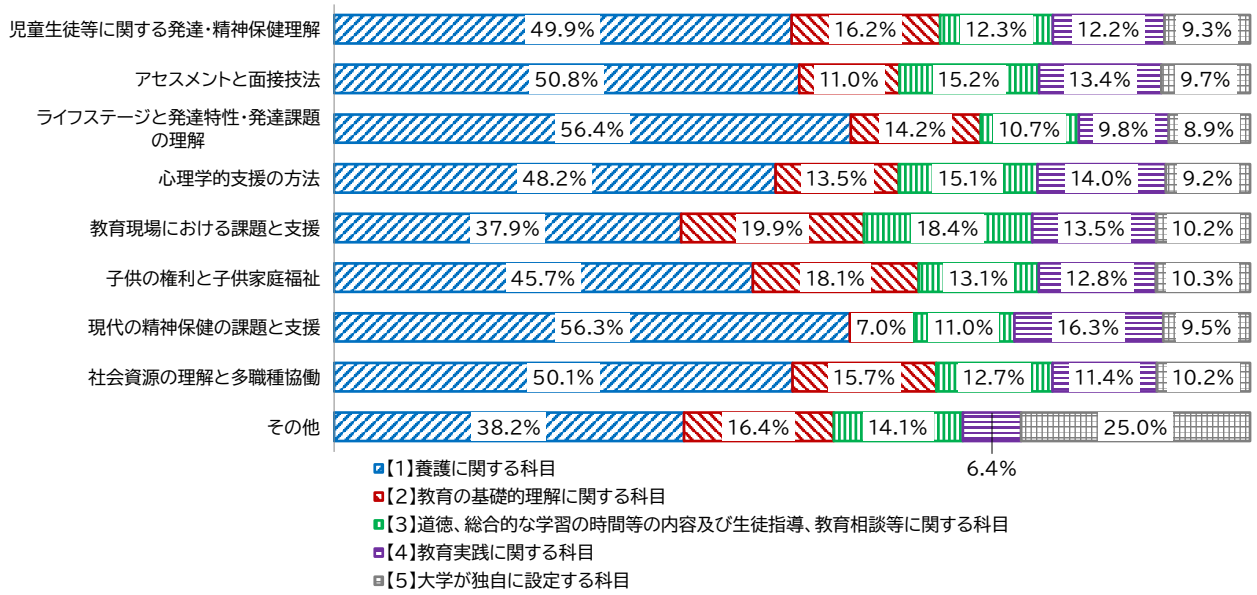
B-3.心理・福祉分野の内容を含んでいる科目の内訳	
目的	養護教諭養成課程において、心理・福祉分野の内容が、最低修得単位数で定められている科目区分のうち、どの科目において取扱われているか(教育課程内での位置づけ)を明らかにする。
方法	免許種別(一種／二種／専修)ごとに、各心理・福祉分野の内容を取扱う科目が、最低修得単位数上のどの大科目区分(【1】養護に関する科目 ～【5】大学が独自に設定する科目)に帰属しているか、その構成比率を算出した。
結果	**一種・二種免許状における「養護に関する科目」への集中** 一種・二種免許状においては、ほぼ全ての心理・福祉分野の内容は、【1】養護に関する科目での取扱い割合が最も高く(約50～60%)、次いで【2】教育の基礎的理解に関する科目や【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目が7～20%程度で続く構成となっている。 専修における独自性の高さ 専修免許課程においては、一種・二種とは傾向が大きく異なり、【5】大学が独自に設定する科目での取扱いが約85～90%を占めており、大学ごとの裁量が大きい科目枠で実施されている。
示唆	**一種・二種免許状向けのプログラムは、「養護に関する科目」との親和性が高く、導入が最も円滑に進むと考えられる** 心理・福祉分野の内容の過半数が現状として「養護に関する科目」の中で取扱われている。そのため、新たに開発する科目や授業例についても、同科目区分の中に位置づけられる内容を想定して設計することで、既存のカリキュラムへの追加・修正が比較的容易となり、導入のハードルを下げられると考えられる。 **「養護に関する科目」以外の導入先として、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の各科目が同程度に有力な選択肢となる** 一種・二種免許状において、「養護に関する科目」以外では、【2】教育の基礎的理解に関する科目、【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等、【4】教育実践の各科目区分において、それぞれ全体の10～20%程度が取扱われており、特定の区分への偏りは見られない。これは、各養成大学がカリキュラム構成や担当教員の配置に応じて、これら3区分のいずれかを柔軟に活用している現状を示している。したがって、プログラム導入に際しても、大学ごとのカリキュラムの空き状況等に合わせて、これら広範な選択肢の中から柔軟に組み込み先を検討できる可能性がある。

養護教諭一種免許状

表65.養護教諭一種免許状の心理・福祉分野の内容が取扱われている大科目の割合

心理・福祉分野の内容	【1】養護に関する科目	【2】教育の基礎的理解に関する科目	【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	【4】教育実践に関する科目	【5】大学が独自に設定する科目
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	49.9%	16.2%	12.3%	12.2%	9.3%
アセスメントと面接技法	50.8%	11.0%	15.2%	13.4%	9.7%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	56.4%	14.2%	10.7%	9.8%	8.9%
心理学的支援の方法	48.2%	13.5%	15.1%	14.0%	9.2%
教育現場における課題と支援	37.9%	19.9%	18.4%	13.5%	10.2%
子供の権利と子供家庭福祉	45.7%	18.1%	13.1%	12.8%	10.3%
現代の精神保健の課題と支援	56.3%	7.0%	11.0%	16.3%	9.5%
社会資源の理解と多職種協働	50.1%	15.7%	12.7%	11.4%	10.2%
その他	38.2%	16.4%	14.1%	6.4%	25.0%

図80.一種免許状における心理・福祉の内容が取り扱われている大科目の割合(%)

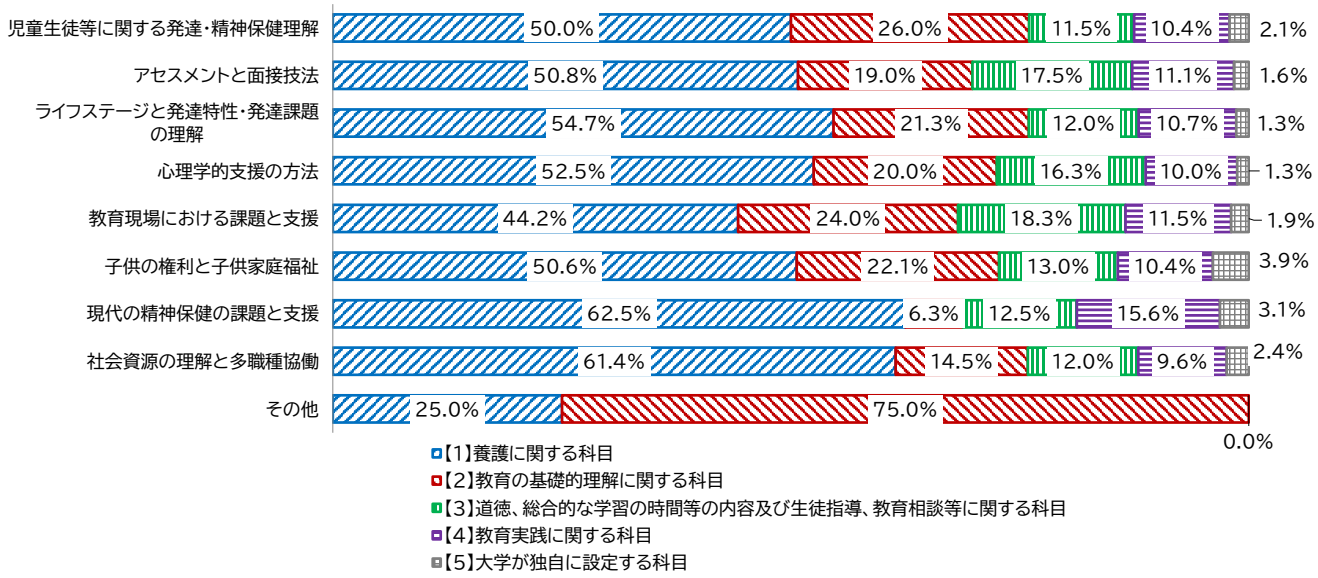


養護教諭二種免許状

表66.養護教諭二種免許状の心理・福祉分野の内容が取扱われている大科目の割合

心理・福祉分野の内容	【1】養護に関する科目	【2】教育の基礎的理解に関する科目	【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	【4】教育実践に関する科目	【5】大学が独自に設定する科目
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	50.0%	26.0%	11.5%	10.4%	2.1%
アセスメントと面接技法	50.8%	19.0%	17.5%	11.1%	1.6%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	54.7%	21.3%	12.0%	10.7%	1.3%
心理学的支援の方法	52.5%	20.0%	16.3%	10.0%	1.3%
教育現場における課題と支援	44.2%	24.0%	18.3%	11.5%	1.9%
子供の権利と子供家庭福祉	50.6%	22.1%	13.0%	10.4%	3.9%
現代の精神保健の課題と支援	62.5%	6.3%	12.5%	15.6%	3.1%
社会資源の理解と多職種協働	61.4%	14.5%	12.0%	9.6%	2.4%
その他	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図81.二種免許状における心理・福祉の内容が取り扱われている大科目の割合(%)

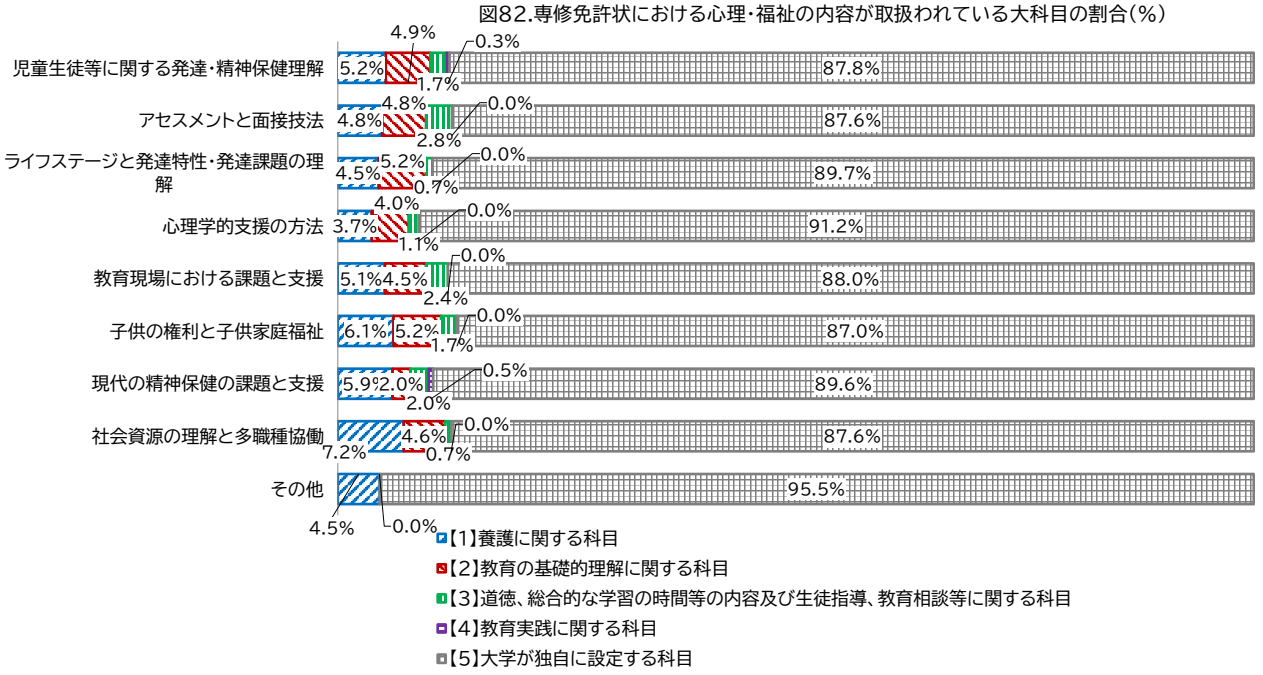


養護教諭専修免許状

表67.養護教諭専修免許状の心理・福祉分野の内容が取扱われている大科目の割合

項目名	【1】養護に関する科目	【2】教育の基礎的理解に関する科目	【3】道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	【4】教育実践に関する科目	【5】大学が独自に設定する科目
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	5.2%	4.9%	1.7%	0.3%	87.8%
アセスメントと面接技法	4.8%	4.8%	2.8%	0.0%	87.6%
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	4.5%	5.2%	0.7%	0.0%	89.7%
心理学的支援の方法	3.7%	4.0%	1.1%	0.0%	91.2%
教育現場における課題と支援	5.1%	4.5%	2.4%	0.0%	88.0%
子供の権利と子供家庭福祉	6.1%	5.2%	1.7%	0.0%	87.0%
現代の精神保健の課題と支援	5.9%	2.0%	2.0%	0.5%	89.6%
社会資源の理解と多職種協働	7.2%	4.6%	0.7%	0.0%	87.6%
その他	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	95.5%

図82.専修免許状における心理・福祉の内容が取扱われている大科目の割合(%)



B-4.心理・福祉分野の内容を担当している教員の専門領域	
目的	養護教諭養成課程において、心理・福祉分野の内容を、どのような専門性を有する教員が担当しているか（担当教員の専門領域の実態）を明らかにする。
方法	（一種／二種／専修）ごとに、担当教員の専門領域（看護学、心理学等）を分類し、各領域の教員が担当する1大学当たりの心理・福祉分野の内容を含む科目の平均数を算出した（複数回答を含む）。
結果	**（1）看護学及び教育学専門教員による主導的配置** 一種免許状においては、ほぼ全ての心理・福祉分野の内容について、「看護学」及び「教育学」を専門とする教員が担当する科目数が最も多く、各内容につき平均4～7科目程度となっている。この2領域の専門教員が、心理・福祉分野の教育においても主力を担っている。 **（2）心理学専門教員の限定的な関与** 「心理学」を専門とする教員が担当する科目数は、各内容につき平均3～4科目程度であり、一定の関与は見られる。しかし、看護学や教育学の教員が担当する科目数と比較すると相対的に少ない。 **（3）社会福祉学専門教員の過少配置** 全ての課程において、「社会資源の理解と多職種協働」等の福祉関連の内容であっても、「社会福祉学」を専門とする教員が担当する科目は、1大学当たり1科目未満である。福祉分野の専門家による直接的な指導は、現状の養成課程においてほとんど行われていない。
示唆	**（1）既存の看護学・教育学担当教員を活用した実施体制** 心理・福祉分野の内容であっても、現状では看護学や教育学の教員が担当している実態が明らかとなった。したがって、新たなプログラムを導入する際においても、心理や福祉分野の専門教員を新規に確保することを前提とせず、既存の看護学・教育学の教員が担当可能な設計とすることで、人的リソースの観点から導入のハードルを下げることが重要である。 **（2）非専門家による指導を補完する教材整備の必要性** 当該領域の専門家ではない教員が指導を行う現状を踏まえ、プログラム開発にあたっては「非専門家であっても質の高い教育が提供できる仕組み」が不可欠である。具体的には、専門知識を補完する教材パッケージや、指導のポイントを明確化した手引書（ティーチング・ガイド）の整備が重要である。

養護教諭一種免許状

表68.養護教諭一種免許状の各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数							
心理・福祉分野の内容	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	4.8	1.3	1.3	5.7	3.6	0.2	0.5	2.5
アセスメントと面接技法	4.3	0.8	0.8	4.3	3.0	0.2	0.4	1.7
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	6.1	1.4	1.3	5.2	3.3	0.3	0.5	2.2
心理学的支援の方法	4.5	1.1	0.9	4.9	3.4	0.1	0.5	1.9
教育現場における課題と支援	4.0	1.2	0.8	7.6	3.5	0.2	0.5	2.5
子供の権利と子供家庭福祉	4.4	1.3	0.7	5.7	2.1	0.2	0.6	1.8
現代の精神保健の課題と支援	4.4	1.5	1.1	4.4	2.4	0.2	0.5	1.8
社会資源の理解と多職種協働	5.7	1.6	1.1	6.8	2.8	0.3	0.7	2.4
その他	0.5	0.3	0.4	0.9	0.4	0.2	0.1	0.5

図83.一種免許状「心理の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

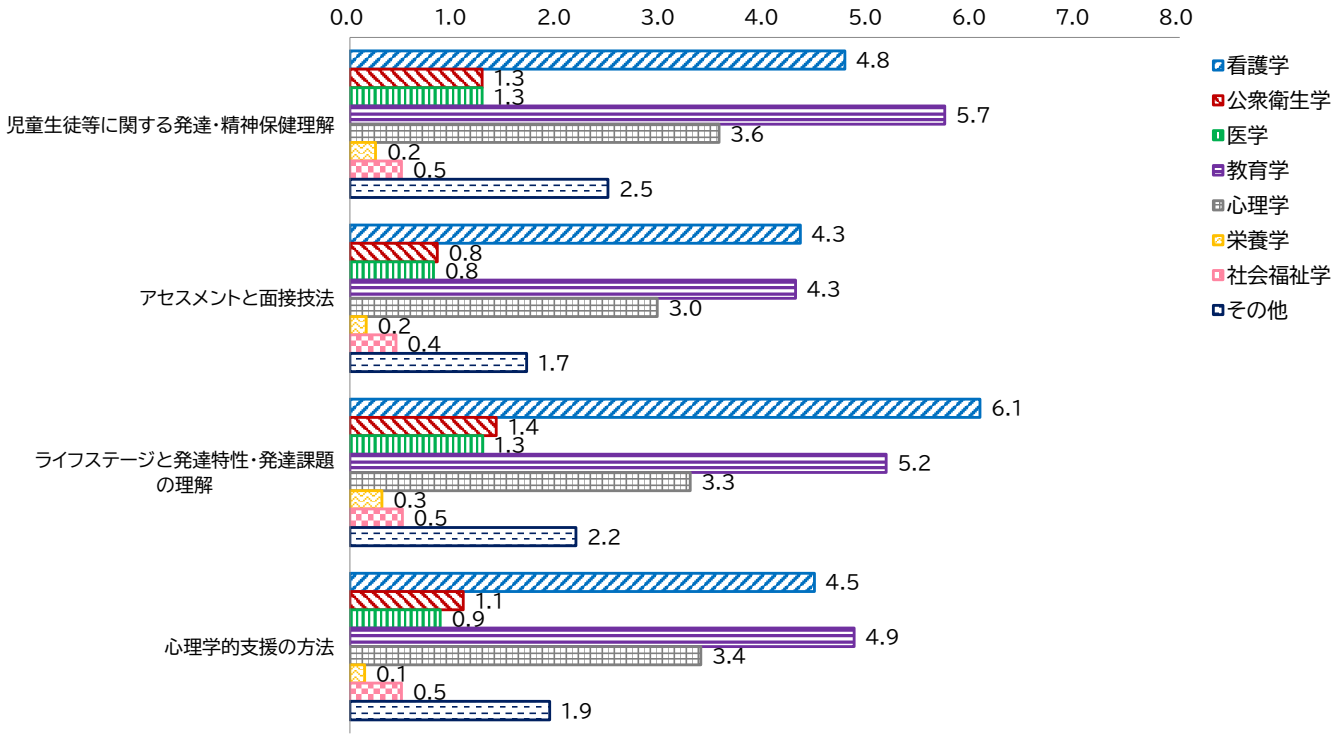
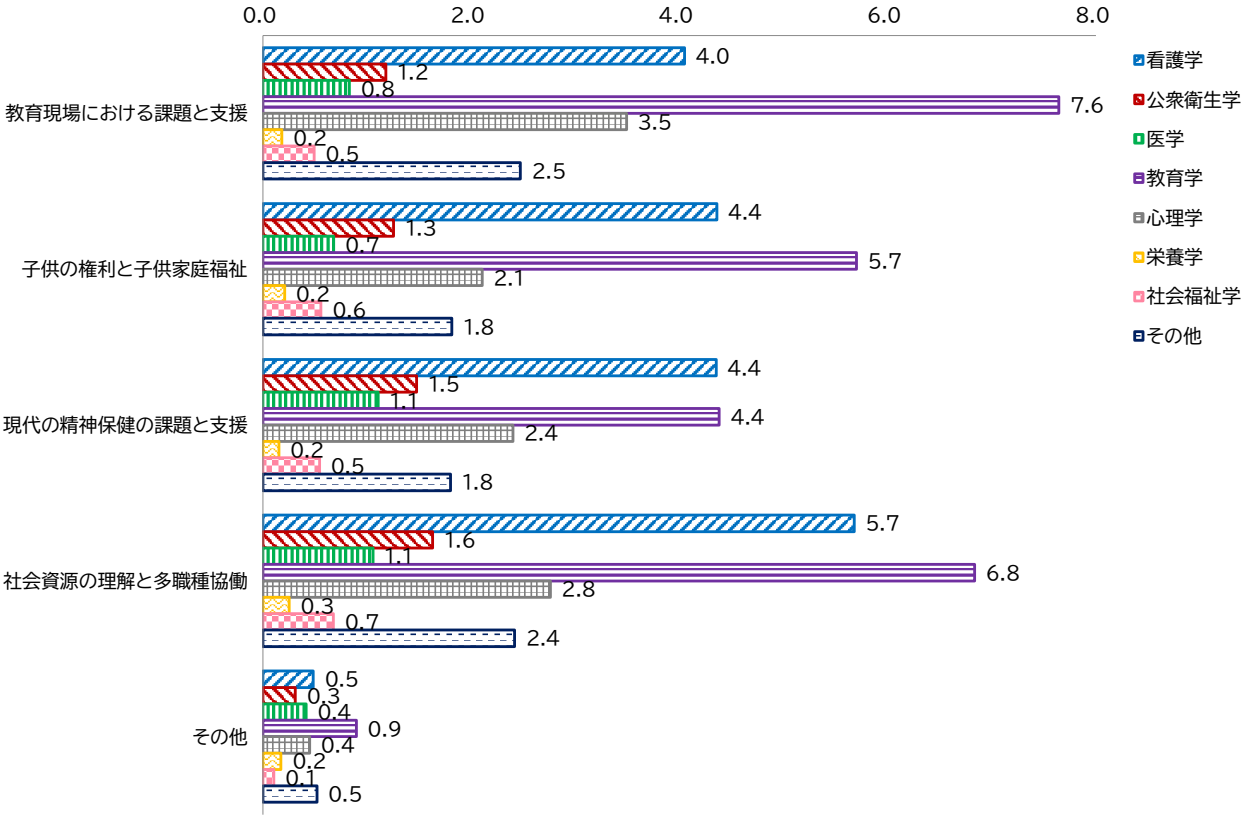


図84.一種免許状「福祉の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



養護教諭二種免許状

表69.養護教諭二種免許状の各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数							
心理・福祉分野の内容	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	2.9	1.4	0.7	5.8	4.0	0.1	0.0	2.9
アセスメントと面接技法	2.6	1.4	0.4	5.0	3.4	0.0	0.0	2.0
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	2.8	0.9	0.6	5.1	3.4	0.3	0.0	2.4
心理学的支援の方法	2.9	1.2	0.3	4.6	3.8	0.0	0.0	2.4
教育現場における課題と支援	2.7	1.0	0.3	7.4	3.8	0.1	0.0	3.3
子供の権利と子供家庭福祉	2.6	1.1	0.3	6.1	2.4	0.1	0.3	2.3
現代の精神保健の課題と支援	2.5	1.3	0.4	4.9	2.5	0.1	0.0	2.1
社会資源の理解と多職種協働	4.3	1.7	0.9	6.6	3.0	0.1	0.0	2.7
その他	0.3	0.0	0.0	0.3	1.3	0.0	0.0	0.0

図85.二種免許状「心理の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

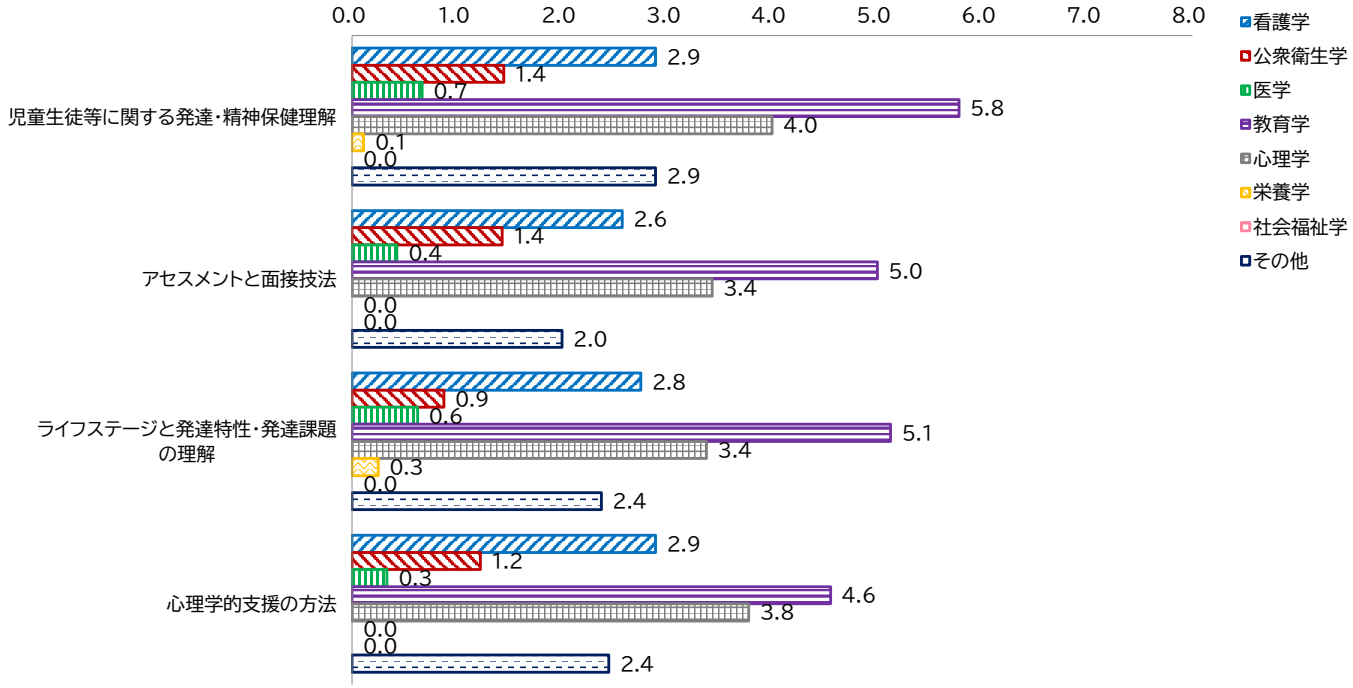
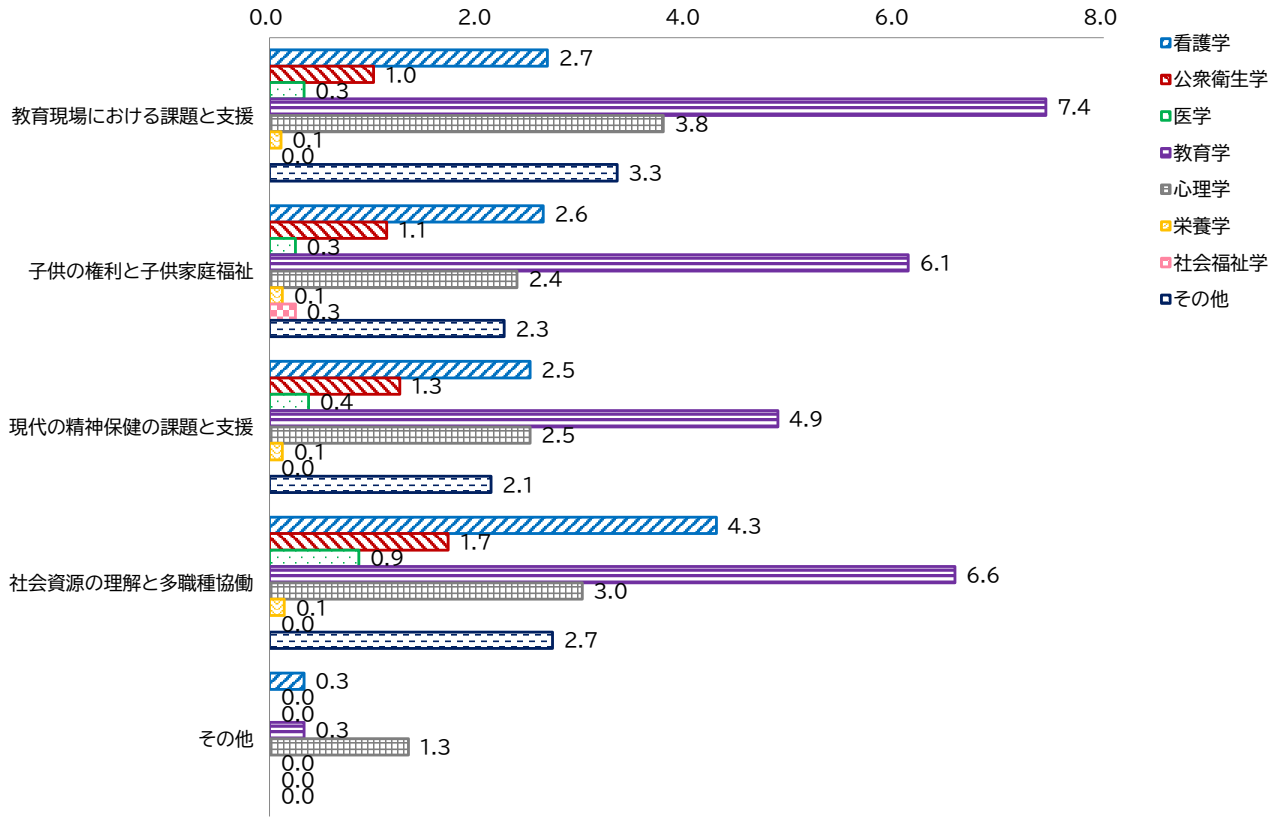


図86.二種免許状「福祉の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



養護教諭専修免許状

表70.養護教諭専修免許状の各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数							
心理・福祉分野の内容	看護学	公衆衛生学	医学	教育学	心理学	栄養学	社会福祉学	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	2.0	0.5	1.0	3.2	3.1	0.2	0.1	0.7
アセスメントと面接技法	1.9	0.5	0.8	2.8	3.2	0.0	0.1	0.6
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	2.8	0.8	1.0	2.7	2.9	0.2	0.2	0.9
心理学的支援の方法	2.1	0.5	0.8	2.9	3.4	0.0	0.2	0.7
教育現場における課題と支援	2.2	0.8	0.8	4.8	3.8	0.2	0.2	1.1
子供の権利と子供家庭福祉	2.1	0.7	0.5	3.1	2.0	0.2	0.2	0.8
現代の精神保健の課題と支援	2.0	0.6	0.9	2.0	2.0	0.1	0.1	0.6
社会資源の理解と多職種協働	2.6	0.9	0.8	3.2	2.4	0.2	0.2	1.0
その他	0.4	0.2	0.5	1.2	1.3	0.0	0.2	0.7

図87.専修免許状「心理の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

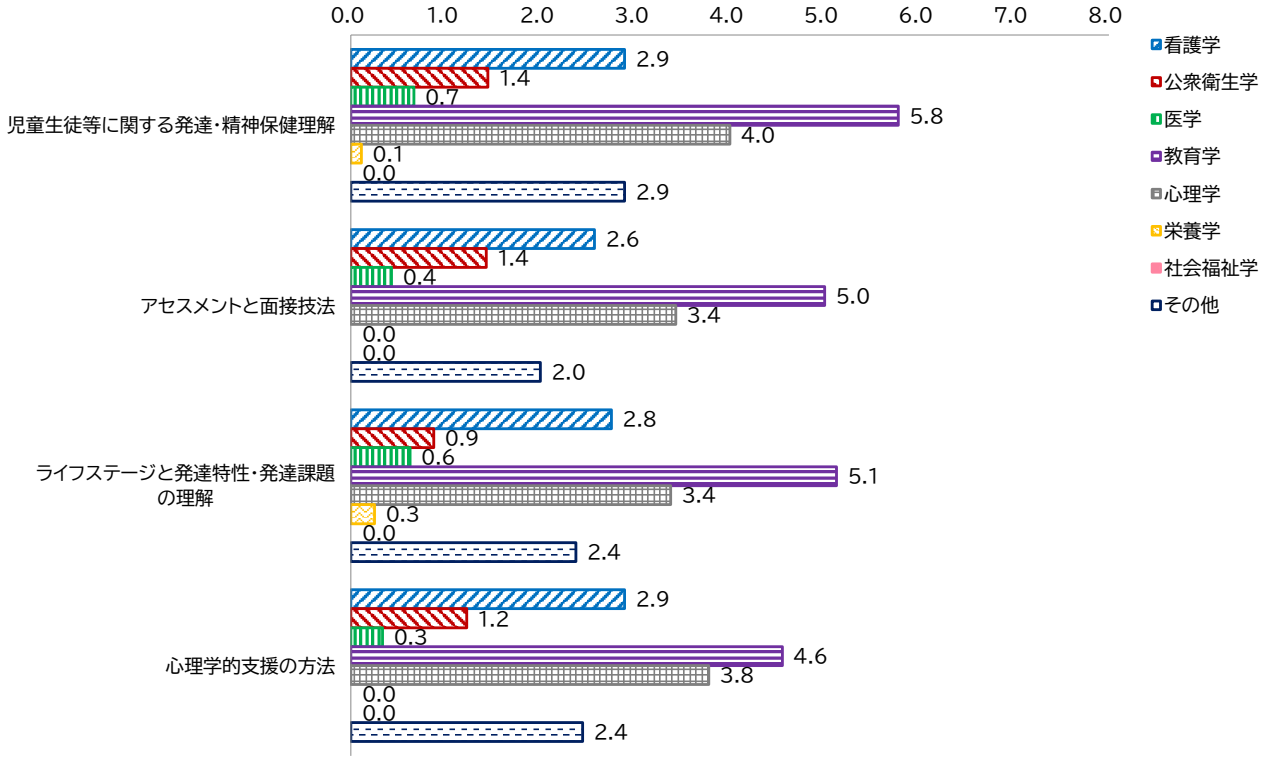
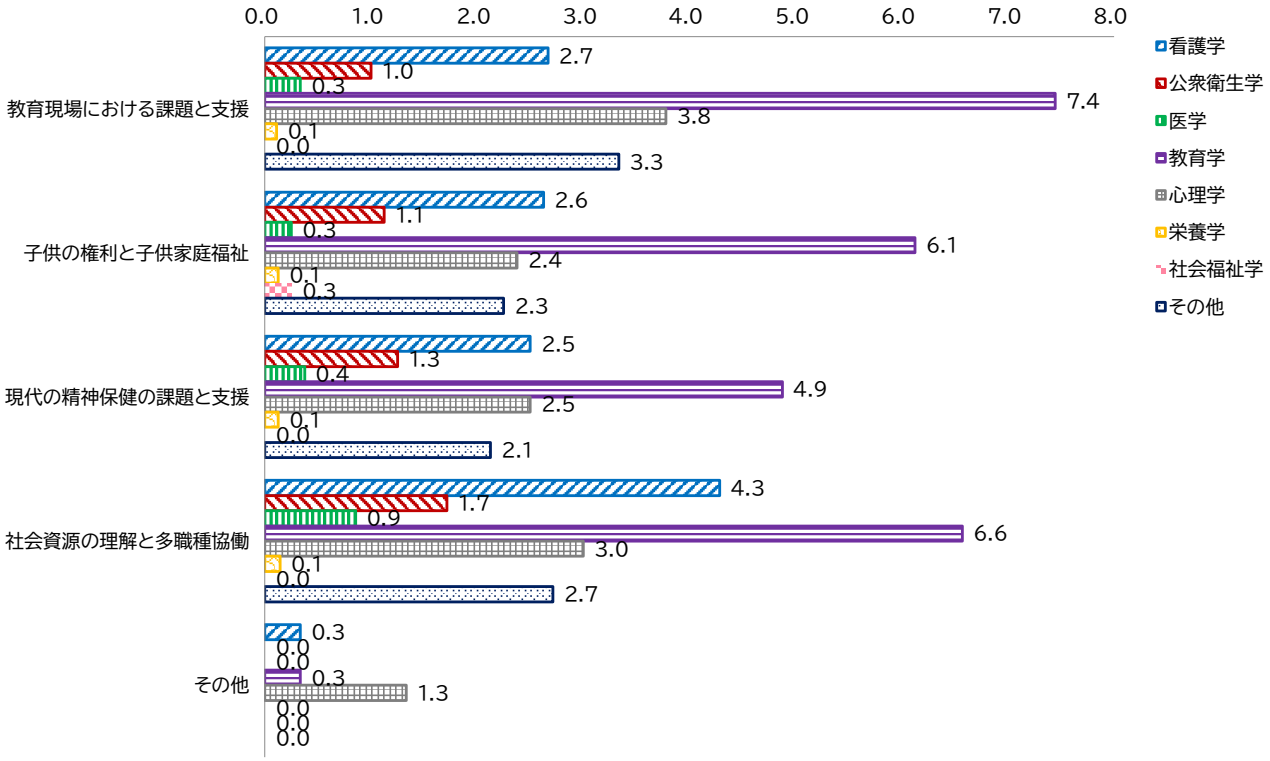


図88.専修免許状「福祉の内容」における各領域の教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



B-5.心理・福祉分野の内容を担当している教員の保有資格	
目的	養護教諭養成課程において、心理・福祉分野の内容を、どのような公的資格・免許を有する教員が担当しているか（担当教員の保有資格の実態）を明らかにする。
方法	免許種別（一種／二種／専修）ごとに、担当教員の保有資格（養護教諭、看護師等）を分類し、各資格を有する教員が担当する1大学当たりの心理・福祉分野の内容を含む科目の平均数を算出した（複数回答を含む）。
結果	（1）養護教諭・教諭・看護師免許保持者を中核の指導体制 一種免許状においては、全ての心理・福祉分野の内容について、「養護教諭」「教諭」及び「看護師」の免許を有する教員が担当している科目数が最も多く（各4～6科目程度）、これらの有資格者が教育の中核を形成している。 **（2）公認心理師の位置付け** 心理分野の専門資格である「公認心理師」を有する教員が担当する科目数は、各内容につき平均2～3科目程度である。一定の教育リソースとして機能しているものの、養護教諭や看護師免許を持つ教員の担当数と比較すると約半数に留まる。 **（3）福祉系資格保持者の過少配置** 全ての課程において、「社会福祉士」や「精神保健福祉士」の資格を有する教員が担当する科目は、1大学当たり0.5科目未満と極めて少ない。
示唆	**（1）専門資格保有を前提としないプログラム設計** 現状において、心理・福祉分野の内容の多くは、当該分野の専門資格（公認心理師、社会福祉士）を持たない教員によって教授されている。このため、開発プログラムにおいては、外部専門家の登用や専門資格の保有を必須要件とはせず、既存の養護教諭・看護師免許保持者が無理なく扱える内容・構成とすることで、円滑な導入が見込まれる。 **（2）教育の質を担保するサポート機能の付加** 専門外の教員が心理・福祉の専門性を教授する必要があるため、教員個人の資質に依存しない教育の質保証が課題となる。養成大学において心理・福祉教育を充実させるためには、専門用語の解説や事例検討のポイントなど、指導者を支援する具体的なサポートツールをプログラムに付加することが、実効性を高める上で重要である。

養護教諭一種免許状

表71.養護教諭一種免許状の各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数									
心理・福祉分野の内容	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	5.8	5.4	1.2	5.2	3.0	0.8	0.3	0.3	3.2	2.8
アセスメントと面接技法	4.6	3.9	0.7	4.6	2.7	0.6	0.3	0.2	2.7	2.3
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	5.5	4.8	1.1	6.4	3.9	1.1	0.3	0.3	2.9	2.7
心理学的支援の方法	5.0	4.6	0.8	4.8	2.8	0.7	0.3	0.3	3.0	2.6
教育現場における課題と支援	5.8	6.9	0.8	4.5	2.6	0.6	0.3	0.2	3.2	2.9
子供の権利と子供家庭福祉	4.7	5.0	0.6	4.6	2.8	0.8	0.4	0.2	2.2	2.1
現代の精神保健の課題と支援	5.2	3.8	1.0	4.7	2.8	0.6	0.4	0.4	2.4	2.0
社会資源の理解と多職種協働	6.0	5.9	1.0	6.1	3.7	0.9	0.5	0.3	2.8	2.8
その他	0.4	1.0	0.3	0.5	0.2	0.2	0.1	0.0	0.3	0.7

図89.一種免許状「心理の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

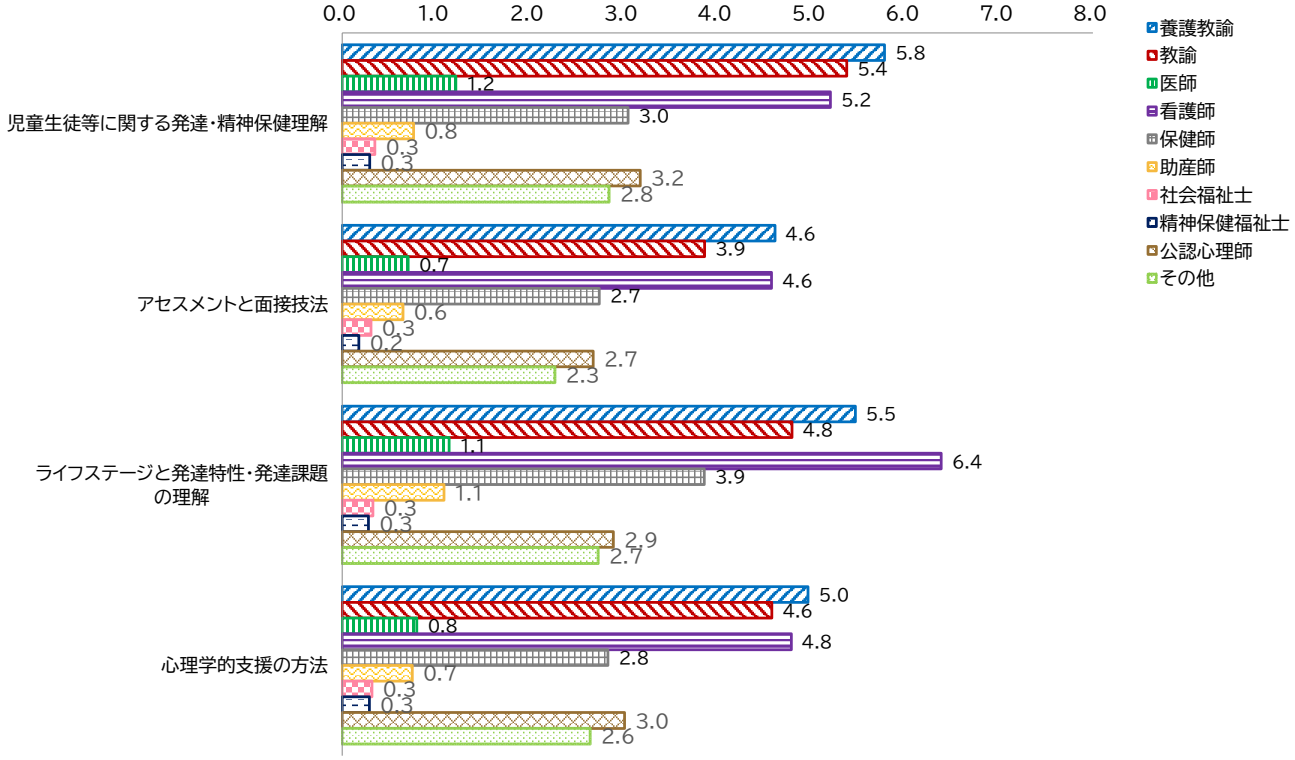
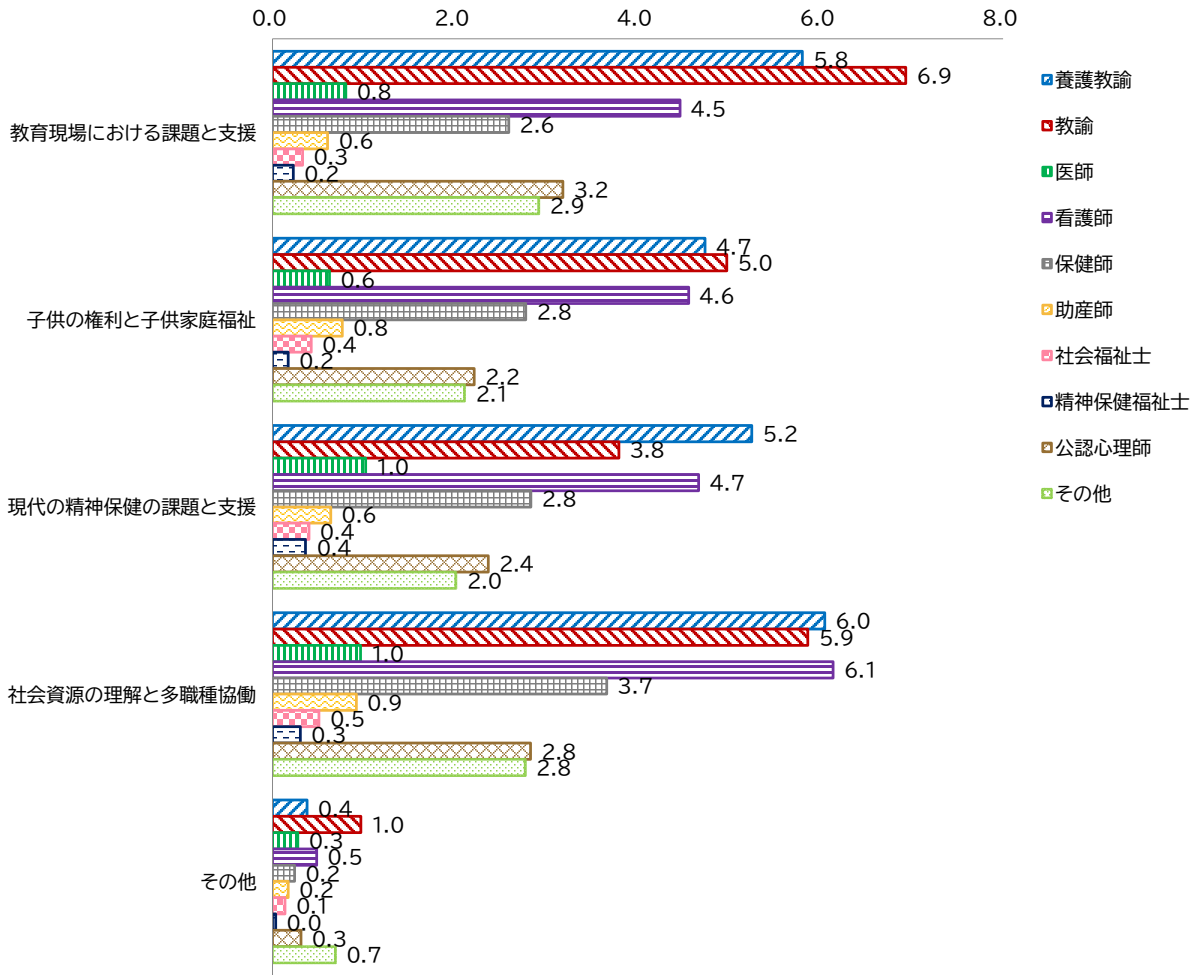


図90.一種免許状「福祉の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



養護教諭二種免許状

表72.養護教諭二種免許状の各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数									
心理・福祉分野の内容	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	5.1	4.1	0.5	2.3	1.7	0.2	0.0	0.0	2.8	3.5
アセスメントと面接技法	3.5	2.3	0.2	1.4	0.9	0.3	0.0	0.0	1.6	2.4
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	4.1	3.1	0.3	2.0	1.7	0.2	0.0	0.0	1.8	2.4
心理学的支援の方法	4.5	3.2	0.3	2.0	1.6	0.2	0.0	0.0	2.3	2.9
教育現場における課題と支援	5.3	4.9	0.3	2.1	1.6	0.2	0.0	0.0	2.2	3.3
子供の権利と子供家庭福祉	4.4	2.9	0.2	1.8	1.2	0.2	0.2	0.0	1.6	2.2
現代の精神保健の課題と支援	4.4	2.1	0.2	1.7	1.3	0.1	0.0	0.0	1.6	2.4
社会資源の理解と多職種協働	5.0	2.4	0.4	2.7	1.8	0.4	0.0	0.0	1.6	2.3
その他	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3

図91.二種免許状「心理の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

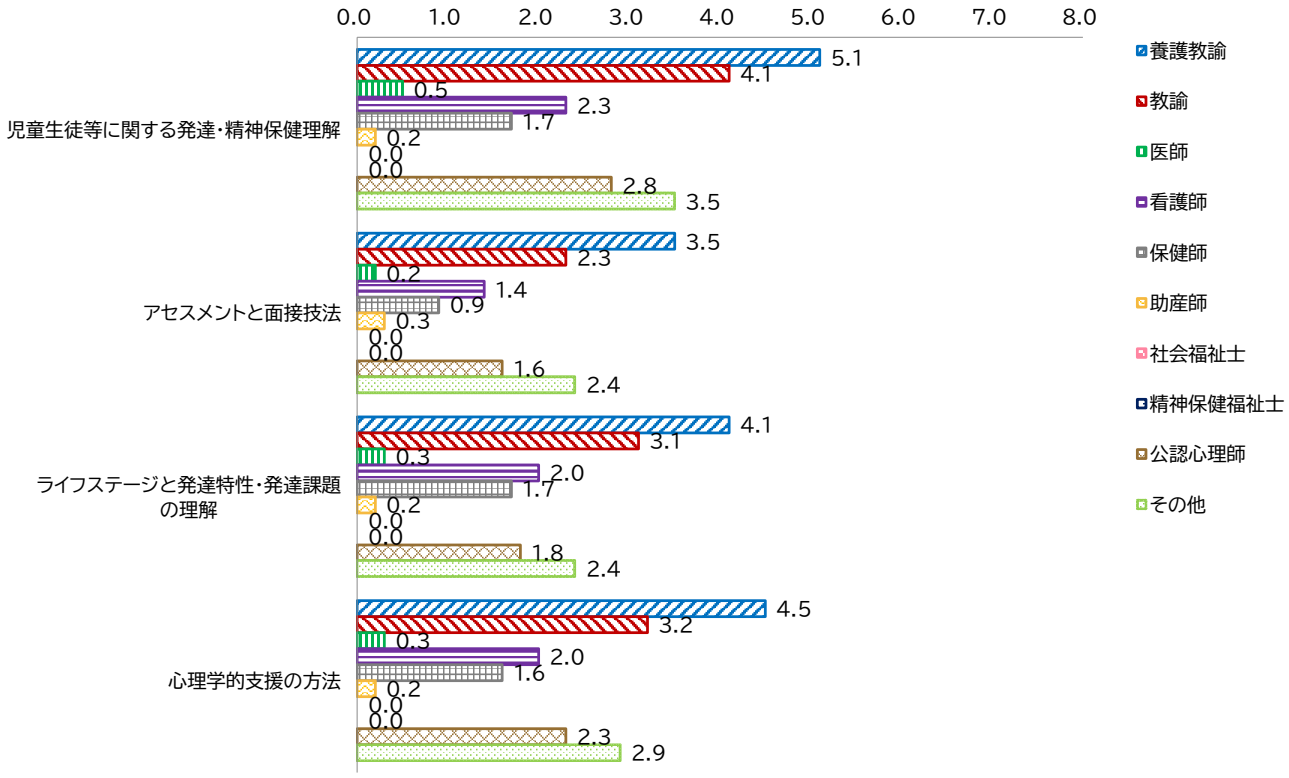
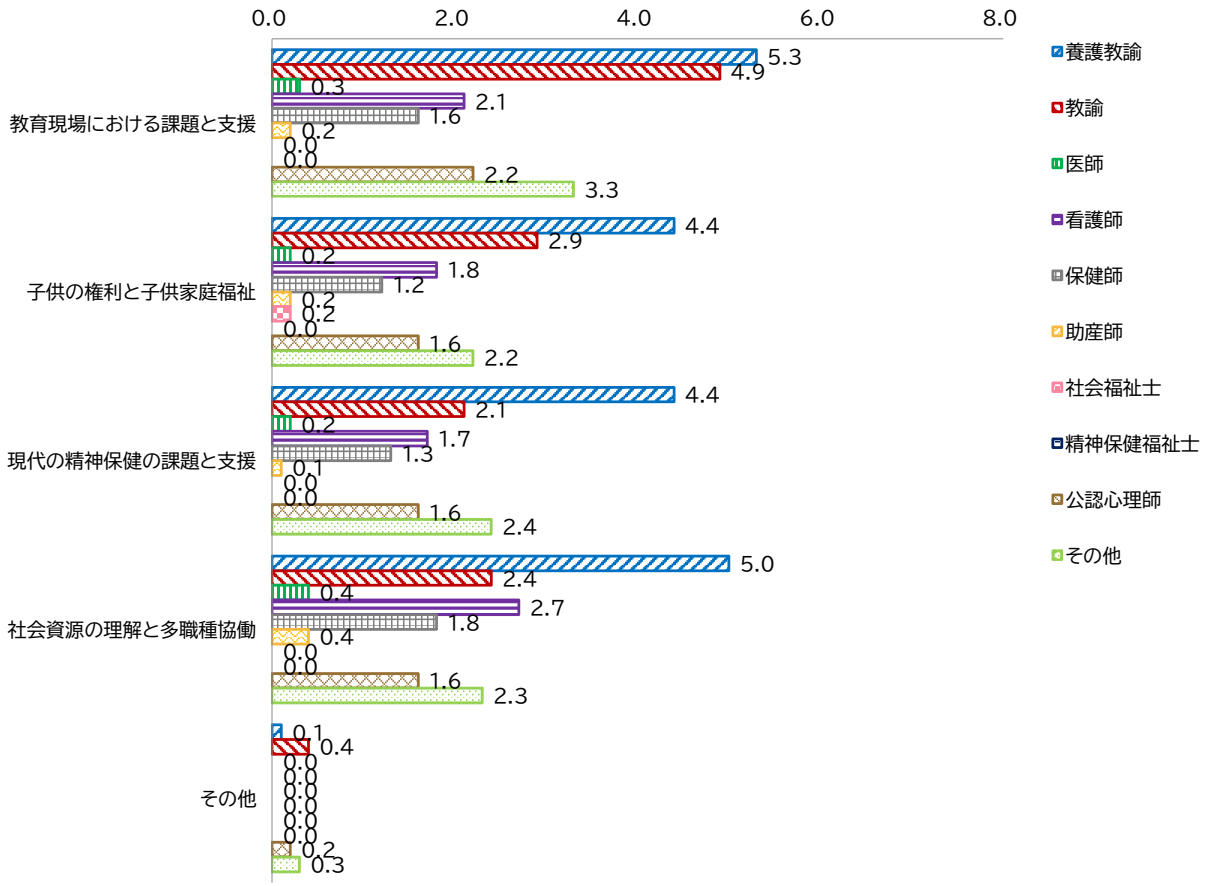


図92.二種免許状「福祉の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)



養護教諭専修免許状

表73.養護教諭専修免許状の各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数

	各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数									
心理・福祉分野の内容	養護教諭	教諭	医師	看護師	保健師	助産師	社会福祉士	精神保健福祉士	公認心理師	その他
児童生徒等に関する発達・精神保健理解	1.3	2.7	0.8	1.7	1.1	0.3	0.1	0.0	2.2	1.7
アセスメントと面接技法	1.0	2.4	0.6	1.5	1.0	0.3	0.1	0.0	2.2	1.8
ライフステージと発達特性・発達課題の理解	1.3	2.4	0.7	2.2	1.6	0.5	0.2	0.0	1.8	1.6
心理学的支援の方法	1.0	2.5	0.6	1.7	1.1	0.3	0.2	0.0	2.2	1.7
教育現場における課題と支援	1.4	3.7	0.6	1.7	1.3	0.4	0.1	0.0	2.3	1.9
子供の権利と子供家庭福祉	1.3	2.3	0.4	1.6	1.2	0.4	0.2	0.0	1.4	1.1
現代の精神保健の課題と支援	1.2	1.7	0.8	1.5	1.1	0.3	0.2	0.0	1.5	1.3
社会資源の理解と多職種協働	1.6	2.8	0.7	2.3	1.7	0.5	0.3	0.0	1.9	1.5
その他	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

図93.専修免許状「心理の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

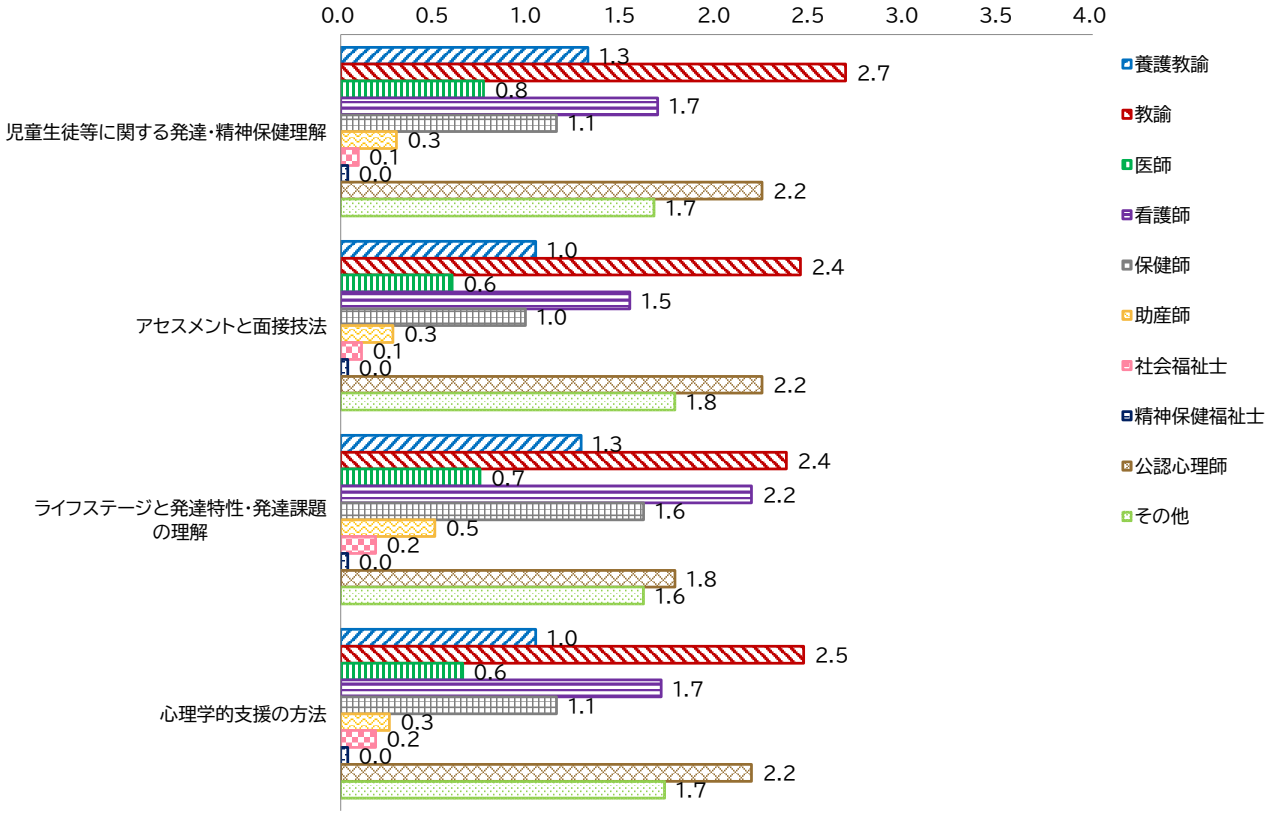


図94.専修免許状「福祉の内容」における各資格を保有する教員が担当する1大学当たりの平均科目数(科目)

